

荒砥北原遺跡
今井神社古墳群
荒砥青柳遺跡

遺物観察表

1986

群馬県教育委員会
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

資料	廣東省立圖書館	01-353
	圖書部	276
No. 98-5041	平成10年 5月13日	2 (7)

荒砥北原遺跡
今井神社古墳群
荒砥青柳遺跡

遺物觀察表

1986

群馬県教育委員会
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

荒砥北原遺跡

1号住居址出土遺物 (第6・7図、P L 22)

土 器

(単位: cm)

番号	器 形	大 き さ	出土状態	①胎土 ②焼成 ③色調 ④残存	器 形 ・ 文 様 の 特 徴	備 考
1	深 鉢		床面直上	①石英、小礫、軽石、粗砂、繊維混入②良好③赤褐色	1・2の器形は、口縁が直立ぎみに開口し、胴部中位でゆるく括れる。2～5は同一個体で、1・8とともに外面に煤状の炭化物が付着し、6・7・9・14は内面に炭化物が付着する。1～15の内面は、良好に研磨されている。縄文原形は1・7・12がL、2・6がR、9がLR、10・11がRLで、8はLRとRLの2種を使用する。2・8・9・10は羽状縄文をもつが、8以外は同一原形を使用してその施文方向を変えることにより表出する。13は無文で表面はやや荒れている。14・15の底部は、上げ底状を呈し、その底部は壁をもつように外側へ張り出す。	黒 浜 式
2 3 5	深 鉢		埋没土中	①石英、軽石、粗砂、繊維混入②良好③黒～黄褐色		
6	深 鉢		埋没土中	①軽石、粗砂、繊維含む②良好③鈍い褐色		
7	深 鉢		埋没土中	①結晶片岩礫、粗砂、軽石、繊維混入②鈍い褐色		
8	深 鉢		埋没土中	①石英、軽石、粗砂、繊維混入②良好③鈍い褐色		
9	深 鉢		埋没土中	①礫、粗砂、繊維混入②良好③鈍い赤褐色		
10	深 鉢		埋没土中	①結晶片岩礫、粗砂、繊維混入②良好③鈍い褐色		
11	深 鉢		床面直上	①粗・細砂、繊維混入②良好③鈍い褐色		
12	深 鉢		埋没土中	①石英、粗砂、繊維混入②良好③鈍い黄褐色		
13	深 鉢		埋没土中	①結晶片岩礫、繊維混入②良好③鈍い赤褐色		
14	深 鉢	底(10.4)	埋没土中	①礫、粗砂、繊維混入②良好③鈍い褐色④底部欠		
15	深 鉢	底(7.4)	埋没土中	①結晶片岩礫、繊維混入②良好③鈍い赤褐色④底部欠		

石 器

(単位: cm・g)

番号	器 種	大 き さ ・ 重 量	出土状態	石 質	形 状 ・ 調 整 加 工 の 特 徴
16	軽石未製品	長 8.1 幅 6.1 厚 3.5 重 41	埋没土中	デイスイト質(?)軽石	赤城山給部の大清水砂流にみられるものと類似した軽石である。明瞭な加工痕は認められないが、浮子の未製品と思われる。
17	磨 石	長 10.0 幅 10.5 厚 6.5 重 1080	床面直上	輝石安山岩(粗粒)	円形状のやや厚みのある河床礫を素材とする。側縁を除いた表・裏面に磨り面をもつ。側縁の一部に敲打痕が認められる。
18	削 器	長 4.9 幅 7.5 厚 1.4 重 57	埋没土中	黒色頁岩	横長の不定形削片を素材とする。上縁に自然面を残す。刃部は表面からの片面剥離が施され、刃こぼれ状の使用痕が認められる。表面にはバルブを除去するような剥離が施される。
19	削 器	長 6.3 幅 8.8 厚 1.4 重 61	埋没土中	黒色頁岩	横長の不定形削片を素材とする。18と同様、上縁に自然面を残す。左側縁には裏面からの微細な剥離が施されるが、下縁は表面からの剥離が施される。

荒砥北原遺跡

番号	器種	大きさ・重量	出土状態	石質	形状・調整加工の特徴
20	削器	長 6.5 幅 6.0 厚 1.2 重 48	埋没土中	黒色頁岩	縦長の不定形削片を素材とする。上縁に自然面を残し、表面の周縁に微細な割離を施している。
21	削器	長 6.6 幅 7.6 厚 1.7 重 117	床面直上	黒色頁岩	表面に自然面を残す。周縁にやや細かい割離が施され、表一裏の順に加工される。下縁には、使用によるわずかな磨耗痕が認められる。
22	削器	長 (6.2) 幅 12.0 厚 1.9 重 (119)	床面直上	黒色頁岩	横長の不定形削片を素材とする。表面に自然面を残し、上端を欠損する。周縁には表一裏の順に細かい割離が施されるが、やや突出した左側縁は敲打によるつぶれが認められる。
23	使用済ある削片	長 8.5 幅 6.0 厚 1.8 重 105	床面直上	黒色頁岩	小機を輪切り状にした不定形の縦長削片を素材とする。上縁に自然面を残し、左右の両側縁に刃こぼれ状の使用痕が認められる。

2号住居址出土遺物 (第9・10図、P L 22)

土器

(単位: cm)

番号	器形	大きさ	出土状態	①胎土 ②色調	③焼成 ④残存	器形・文様の特徴	備考
1	深鉢	口 45.8 高 (53)	埋没土中	①粗砂混入②良好 ③黄褐色・灰色④割部 下半欠損		4単位の波状口縁を呈する。口縁が内湾するキャリバー状の器形をもつ。内・外面とも良好に研磨される。文様は断面三角形の微隆起帯を肩字・高巻状に貼付した後に、その両側を指面などで磨く。縄文はR Lで区画内に充填されるが、縄文施文後に微隆起帯のなぞりが行われている。	加E 3式
2	深鉢	口(22.6)	埋没土中	①結晶片岩質、粗砂 混入②良好③鈍い褐色 ④口縁部欠		口縁が内湾するキャリバー状の器形をもつ。内面は良好に研磨される。文様は口唇下に棒状工具によるやや粗い沈線が一帯めぐり、以下にL縄文が縦位に施文される。	
3	深鉢		+10	①粗・細砂混入②良好 ③灰・灰白色		口縁の内湾の弱いキャリバー形。内・外面とも良好に研磨される。文様は、口縁・胴部ともに隆帯によって表出されるが、胴部には渦巻状の文様が施される。R L縄文が充填され、施文後に隆帯区画文のなぞりが行われる。	
4	深鉢	底 (8.8)	+20	①粗・細砂、軽石混入 ②良好③灰白色④ 割部下半欠		内・外面ともに火熱によって風化し、内面には煤状の炭化物が付着する。文様は、平行状の沈線帯の施文後にL R縄文を施文し、沈線文のなぞりが加えられる。	
5	深鉢		床面直上	①粗・細砂混入②良好 ③灰白・褐色④割 部中位欠		2本1単位の隆帯起帯によって渦巻文を施し、その内側にR L縄文を充填するが、縄文施文後に幅の広い半截竹管状工具によって隆帯起帯になぞりが加えられる。	
6	深鉢	口 22.0	+4	①細砂混入②良好③ 灰・灰白色④胴部上 半へ口縁欠		推定6単位の波状口縁。器形は口縁が内湾し緩やかな曲線を描いて底部へ移行する。文様は口唇下に一条の幅広い沈線をめぐらせ、胴部には2本1単位の肩字垂文を施す。区画内にはL縄文が充填され、肩字状のなぞりが部分的に行われる。	
7	浅鉢		+12	①粗・細砂混入②良好 ③鈍い赤褐色		口唇下に幅広い無文部において、一条の沈線をめぐらせる。以下は6本歯の磨面状工具により、条線が全面に施文される。	

石器

(単位: cm・g)

番号	器種	大きさ・重量	出土状態	石質	形状・調整加工の特徴
8	打製石斧	長 (7.6) 幅 5.4 厚 1.6 重 (77)	埋没土中	黒色頁岩	短冊形を呈する。上部の約角を欠損する。刃部およびその付近に縦方向の磨耗痕が認められるが、刃部には表面からの再調整加工が施されている。両側縁中央部のほぼ対称位置に、つぶれが認められる。

番号	器種	大きさ・重量	出土状態	石質	形状・調整加工の特徴
9	打製石斧	長 10.5 幅 5.0 厚 1.3 重 84	床面直上	灰色安山岩	短冊形を呈する。やや反りのある削片を素材とする。表面に自然面を残し、刃部には刃こぼれ状の使用痕と縦方向の磨耗痕が認められる。左側縁は裏→裏、右側縁は裏→裏の順に加工される。
10	打製石斧	長 9.0 幅 5.0 厚 1.3 重 84	床面直上	黒色頁岩	分銅形を呈する。表面に自然面を残し、刃部は粗い割離によって作出される。扶入部にはつぶれが認められ、わずかに磨滅している。
11	磨石	長 (9.0) 幅 5.3 厚 1.5 重 (117)	床面直上	変質安山岩	細長い河床礫を使用する。下部の約1/3を欠損する。表面にのみ、浅いスリ鉢状の磨面をもつ。
12	凹石	長 12.3 幅 7.2 厚 3.5 重 (1109)	床面直上	輝石安山岩 (粗粒)	扁平な河床礫を使用する。表面の中央部よりやや下位に、集合打痕によるくぼみ穴が2個認められる。左側縁を欠損している。

3号住居址出土遺物 (第12・13図、P L23)

土 器

(単位:cm)

番号	器形	大きさ	出土状態	①胎土 ②地色 ③色調 ④残存	器形・文様の特徴	備考
1	深鉢	口(24.5)	埋没土中	①軽石、細砂混入 ②良好③鈍褐色④口縁→胴部下位写	口縁が内湾ぎみに開口し、胴部で括れない器形。内外面に若干の煤状炭化物付着。外面は火熱によって風化している。文様は、口唇下にやや幅広い無文帯を帯いて一条の微隆起帯がめぐり、以下はLR縄文が縦位に全面施文される。	加E 4式
2	深鉢		埋没土中	①軽石、粗・細砂混入 ②良好③暗黄・褐色④胴部上位→胴部下位写	口縁が内湾ぎみに開口し、胴部で括れない器形。内外面ともに良好に研磨されている。文様は、LR縄文が全面施文されているが、口縁部近くでは横位、胴部中位では縦位、同下位では不規則に施文されている。口唇下には微隆起帯がめぐると思われる。	
3	深鉢	口 (44)	埋没土中	①軽石、粗細砂混入 ②良好③鈍い褐色④口縁→胴部中位写	口縁が直立ぎみに開口し、胴部で若干括れる器形と推定される。文様は、口唇下に幅広い無文帯を帯いて一条の微隆起帯がめぐり、以下にLR縄文が全面施文される。	
4	深鉢	口 (14)	埋没土中	①軽石、粗・細砂混入 ②良好③黒褐色④口縁→胴部上位写	口縁が内湾するキャリバー形の器形と推定される。文様は口唇下に幅の狭い無文帯を帯いて一条の微隆起帯がめぐり、以下にLR縄文が全面施文される。微隆起帯の一部に小突起が付される。	
5	深鉢		埋没土中	①軽石、粗・細砂混入 ②良好③状黄・暗灰黄色	或状口縁を呈し、やや内湾ぎみに開口する器形。文様は、口唇下に幅の広い無文帯を帯いて一条の微隆起帯がめぐり、その下位にV字状、U字状の文様がU組状に施される。区画内にはLR縄文が充満され、微隆起帯に沿って棒状工具によるなぞりが加えられる。	
6	深鉢		埋没土中	①軽石、細・粗砂混入 ②良好③鈍い黄褐色	口縁がゆるく内湾し、胴部でわずかに括れる器形と推定される。内面に煤状炭化物が付着し、火熱による風化が見られる。無文土器で、表面にヘラによるナデが認められる。	
7	深鉢		埋没土中	①軽石、細砂混入 ②良好③黄灰色	口縁が内湾し、胴部で括れる器形と推定される。文様は細比線によって或状文が描かれ、区画内にはLR縄文が充満される。	
8	深鉢		埋没土中	①軽石、細砂混入 ②良好③鈍い黄褐色	文様は、なでつけによる微隆起帯を垂下させ、LR縄文を施文している。	
9	深鉢		埋没土中	①細砂混入②良好③鈍い黄褐色	文様は、細比線によってV字状、U字状の区画文が施され、その区画内にはLR縄文が充満される。	
10	深鉢		埋没土中	①軽石、細砂混入 ②良好③浅黄褐色	口縁に棒状肥手をもつ。文様は、口唇下に幅広い無文帯を帯いて一条の微隆起帯をめぐらせ、以下にLR縄文を全面施文する。	

寛政北原遺跡

番号	器形	大きさ	出土状態	①胎土 ②色調 ③色調 ④残存	器形・文様の特徴	備考
11 5 12	深鉢 (把手)		埋没土中	①軽石・粗・細砂混入 ②良好③鈍い黄褐色	11・12は深鉢形土器の口縁突起であり、12は更に橋状把手が付される。11は微隆起帯を貼付し、12は橋状把手上にL R織文が施文される。	加 E 4 式
13	彫形土製品		埋没土中	①軽石・細砂混入②良好③鈍い黄褐色・黒灰色④胴部欠損	彫形土製品であるが、柄部を欠損する。身は楕円形を呈し、長径5.0×短径3.3cm、深さ1.0cmを測る。身部分の内外面に、成形時の指のおさえ痕が残る。	

石 器

(単位: cm・g)

番号	器種	大きさ・重量	出土状態	石質	形状・調整加工の特徴
14	鎌 器	長 7.7 幅 11.5 厚 3.4 重 334	埋没土中	黒色頁岩	楕円形状の扁平な小鎌を素材として加工を施し、その長軸を刃部としている。刃部は表→裏の順に加工される。
15	鎌状石器 ?	長 9.7 幅 6.2 厚 2.9 重 179	埋没土中	黒色頁岩	縦長の不定形薄片を素材とし、表面に自然面を残す。上・下端に裏面からの剝離を施し、尖端部を作出するが、両端ともに欠損している。
16	打製石斧	長 7.6 幅 4.9 厚 1.8 重 87	埋没土中	黒色安山岩	短筒形を呈する。表面に自然面を残し、刃部および両側縁は粗い剝離によって作出される。
17	磨 石	長 16.9 幅 8.6 厚 4.0 重 913	埋没土中	ひん岩(粉岩)	扁平な河床礫を素材とする。表面の中央よりやや下位と右側縁に敲打痕をもち、裏面には、磨り面が認められる。
18	凹 石	長 11.5 幅 9.5 厚 4.8 重 621	埋没土中	輝石安山岩 (粗粒)	表・裏面に集合打痕によるくぼみ穴をもつ。両側縁および下端に、敲打痕が認められる。
19	軽石製品	長 5.1 幅 2.8 厚 2.4 重 13	埋没土中	輝石安山岩 質軽石	赤城山産出の軽石を素材としている。片面にのみ、やや湾曲した平滑面を作り出している。
20	軽石製品	長 5.5 幅 4.0 厚 1.2 重 10	埋没土中	輝石安山岩 質軽石	19と同様の軽石を素材として、表・裏面を平坦に加工している。磨面が風化しているため不明瞭であるが、表面に整形時の指痕がみられる。
21	石 佛	長 10.3 幅 33.6 厚 8.0 重 4400	+10	点紋緑色片岩	磨面の一部が磨理面で剥落しているが、完形の無彫石佛である。顔面および体部は全面にわたって磨かれていたが、基部の割れ面ではその両縁のみ研磨される。

4号住居址出土遺物(第15~17図、P L 24・25)

土 器

(単位: cm)

番号	器形	大きさ	出土状態	①胎土 ②色調 ③色調 ④残存	器形・文様の特徴	備考
1	深鉢	口43.8	+3	①粗・細砂・軽石混入 ②良好③鈍い黄褐色 ④口縁~胴部下半分	口縁が若干内湾するが、胴部の屈曲が少ない器形。文様は口唇下に幅広い無文部をおき、微隆起帯を横位にめぐらせ、以下にJ字状や平行状の区画文を交互に施文する。区画文内にはL R織文を縦位に充填するが、口縁付近では一段のみ横位に施文する。	加 E 4 式
2	深鉢	口(29.0)	+9	①粗・細砂・軽石混入 ②良好③鈍い黄褐色	口縁が若干内湾するが、胴部の屈曲の少ない器形。口縁外面に煤状炭化物が付着する。文様は口唇下に微隆起帯をめぐらせ、以下にL R織文を全面施文するが、口縁付近では1段のみ横位に施文する。	
3	深鉢	口(53.0)	+10	①軽石・細砂混入②良好③灰白色	口縁が内湾し、胴部中位で括れる器形。橋状把手をもつ。胴部中位外面に煤状炭化物が付着する。文様は、口唇下に幅広い無文部をおき、一条の微隆起帯をめぐらせ、以下にL R織文を縦位に施文する。	
4	深鉢		埋没土中	①軽石・粗・細砂混入 ②良好③鈍い黄褐色 ④胴部下半分	器高に比して底部の小さな器形と推定される。火熱による内外面の風化が著しい。文様は平行状の微隆起帯を垂下させた後にL R織文を縦位に施文する。	

番号	器形	大きさ	出土状態	①粘土 ②色調 ③残存	④焼成 ⑤灰存	器形・文様の特徴	備考
5	深鉢	口(32.0)	+5	①粘土、粗・細砂混入 ②良好③淡褐色④口縁→胴部中位		口縁が強く内湾するが、胴部の括れが弱い器形。口縁内・外面に堆積炭化物付着。文様は口唇下に幅広い無文部をおき、一条の微隆起帯をめぐらせ、以下にLR縄文を全面施文する。	加E 4式
6	深鉢	口(41.0)	+10	①粘土、粗・細砂混入 ②良好③灰・浅黄褐色		口縁が内湾ぎみに開口する器形。内面は良好に研磨される。文様は口唇下に微隆起帯をめぐらせ、それと接続するように微隆起帯を垂下させる。各区画内に0段3条のRL縄文を充実し、微隆起帯の両脇になぞりを加える。	
7	深鉢	口(48.0)	+10	①粘土、粗・細砂混入 ②良好③灰・赤褐色④口縁→胴部中位		口縁が直立ぎみに開口する器形。内面は風化して荒れている。文様は、口唇下に一条の沈線めぐらせ、その下位に、波状文と楕円状の区画文が入組み状に交互に施文される。胴部下半は、微隆起帯による自然文が施文される。各区画内にはRL縄文を充実している。	
8	深鉢	口(35.0)	+10	①粘土、粗・細砂混入 ②良好③灰・褐色④口縁→胴部中位		口縁が内湾し、胴部中位で強く括れる器形。推定4単位の波状口縁をもつ。波頂部はつまみ状の小突起となる。文様は口唇下に微隆起帯を一条めぐらせ、その下位に2本1単位の細沈線による渦巻文が施される。区画内にはRL縄文が充実される。	
9	深鉢	底 9.1	埋没土中	①粘土、細砂混入 ②良好③灰黄褐色④胴部下半→底部		器高に比して底部の小さい器形。内外面ともに良好に研磨される。文様はRL縄文が全面施文されている。	
10	深鉢	底 7.4	埋没土中	①粘土、粗・細砂混入 ②良好③黄・灰褐色④胴部中位→底部		器高に比して底部径の小さな器形で、胴部中位で括れる。内外面ともに火熱によって風化し、内面に堆積炭化物が付着する。文様は、細沈線によって自然文が描かれ、その内側にRLR縄文が充実される。	
11	深鉢		+10	①細砂混入②良好③灰色④口縁		口縁の内湾と胴部の括れが強いキャリパー状の器形と推定される。内外面とも良好に研磨。微隆起帯の渦巻文が施文される。	
12	深鉢	底 7.3	埋没土中	①粘土、細砂混入 ②良好③鈍い褐色		高台状の底部である。内外面ともに良好に研磨される。文様はみられない。	
13	深鉢	底 3.9	埋没土中	①粘土、細砂混入 ②良好③鈍い褐色		丸底状の底部をもつ。器高に比して、極端に底部の小さい器形と推定される。文様はL縄文が縦位に施文される。	
14 15	深鉢 (把手)		+7	①粘土、粗・細砂混入 ②良好③浅黄褐色・灰色		ともに深鉢形土器の把手で、表面が風化している。14は両生類の頭部を、15は鳥類の頭部を模したものと推定される。14の内面には、棒状工具による刺突が3箇所見られる。	

石 器

(単位: cm・g)

番号	器種	大きさ・重量	出土状態	石質	形状・調整加工の特徴
16	削器	長 3.5 幅 2.4 厚 0.7 重 7	埋没土中	黒色頁岩	16～18は表・裏面ともに求心的な刺刺が施されるものである。16・17は裏一面のみに加工されるが、18は不規則である。いずれにも明確な使用痕は認められない。
17	削器	長 3.5 幅 2.9 厚 0.7 重 8	埋没土中	黒色安山岩	
18	削器	長 3.8 幅 2.3 厚 1.0 重 9	埋没土中	黒色安山岩	
19	削器	長 4.9 幅 5.9 厚 0.7 重 28	埋没土中	黒色頁岩	楕長の不定形削片を素材とする。下縁には表面からの連続的な刺刺が施され、左側縁から上縁にかけて刃ばれ状の使用痕が認められる。裏面のバルブは、表面からの刺刺によって除去される。

荒砥北原遺跡

番号	器種	大きさ・重量	出土状態	石質	形状・調整加工の特徴
20	削器	長 3.5 幅 6.5 厚 0.8 重 20	埋没土中	輝石安山岩 (細粒)	横長の不定形削片を素材として上端を折り取った後に、折断面を除いた両縁に細かい刻線を施す。左側縁は裏一面の順に加工される。
21	使用痕のある削片	長 3.8 幅 7.0 厚 0.9 重 17	埋没土中	黒色頁岩	21・22ともに横長の不定形削片を素材として、下端に刃こぼれ状の使用痕が認められるものである。
22	使用痕のある削片	長 4.0 幅 7.8 厚 1.0 重 22	埋没土中	黒色頁岩	
23	打製石斧	長 4.0 幅 2.8 厚 0.9 重 (12)	埋没土中	黒色頁岩	短冊形を呈すると思われる。刃部から左側縁の一部を欠すのみで、他を欠損する。
24	打製石斧	長 (5.3) 幅 5.7 厚 1.3 重 (57)	埋没土中	黒色頁岩	短冊形を呈する。刃部および頂部を欠損する。表面に自然面を残し、両側縁には主に表面からの細かい刻線が施される。
25	敲石	長 (7.7) 幅 7.3 厚 3.7 重 (267)	埋没土中	輝石安山岩	細長い河床礫を粗材とするが、上半部を欠損する。下端および右側縁に、敲打痕が認められる。
26	石棒?	長 (9.0) 幅 5.0 厚 (1.7) 重 (138)	+10	緑色礫片岩	上・下端および裏面が欠損している。裏面は節理面で割れている。明瞭な加工痕は認められないが、石棒の可能性もある。
27	石核	長 9.0 幅 8.3 厚 5.2 重 631	埋没土中	黒色頁岩	小ぶりの河床礫を用いて、その平坦な礫面から一方に削片剥離を行っている。

5号住居址出土遺物 (第19-20図、P L 25)

土器

(単位: cm)

番号	器形	大きさ	出土状態	①胎土 ②焼成 ③色調 ④残存	器形・文様の特徴	備考
1	深鉢	口 37.7	床面直上	①軽石・粗・細砂混入 ②良好③暗灰・灰白色 ④口縁～胴部下位5%	口縁が内湾すみに開口し、胴部で括れない器形。内外面とも良好に研磨。文様は、口唇下に幅広い無文帯をおいて1条の微隆起帯をめぐらせ、それと接続するように平行状の微隆起帯を推定8単位に垂下させる。区画内にはLR縄文が充塞される。	加 E 4 式
2	浅鉢	口 26.0 底 7.2 高 32.0	埋没土中	①軽石・粗・細砂混入 ②良好③暗灰・灰白色 ④完形	いわゆる「両耳壺」と呼ばれるもので、肩部に1対の横状把手をもつ。文様は、口唇下に幅広い無文帯をおいて1条の微隆起帯をめぐらせ、以下にLR縄文を施す。縄文は微隆起帯下の1段のみ横位で他は縦位となるが、胴部下位には施されない。	
3	深鉢	口(18.7)	床面埋没	①軽石・細砂混入②良好③暗灰・灰白色 ④口縁～胴部中位5%	口縁の両曲と胴部の括れが強いキャリパー状の器形。推定4単位の波状口縁を呈し、各段頂部に小突起が施される。文様は、口唇下にやや幅広い無文帯をおいて、胴部上半に細状縁によるV字状や楕円状の区画文を施す。区画内にはLR縄文が充塞される。	
4	深鉢		床面直上	①軽石・粗・細砂混入 ②良好③鈍い黄色	口縁が内湾すみに開口し、胴部で括れない器形。外面は若干風化している。文様は、口唇下に幅広い無文帯をおいて1条の微隆起帯をめぐらせ、これと接続させて平行状の微隆起帯を垂下させる。区画内にはLR縄文が充塞される。	
5	深鉢	口 (42)	床面直上	①軽石・細砂混入②良好③灰白色	口縁が内湾すみに開口する器形。内外面は風化し、内面に保状化物が付着。口唇下に微隆起帯をめぐらせ、以下LR縄文施文。	

石 器

(単位:cm・g)

番号	器 種	大きさ・重量	出土状態	石 質	形 状 ・ 調 整 加 工 の 特 徴
6	敲 石	長 16.9 幅 7.5 厚 3.3 重 714	床面直上	輝石安山岩 (細粒)	扁平な河床礫を使用する。上・下端に敲打痕が認められる。
7	凹 石	長 13.1 幅 7.0 厚 6.2 重 624	床面直上	輝石安山岩 (粗粒)	断面が隅丸形状の河原石を使用する。四面の各中央部に、集合打痕によるやや深くほみ穴をもつ。
8	石 皿	長 (12.8) 幅 12.1 厚 6.4 重 (1022)	床面直上	輝石安山岩 (粗粒)	上半部が欠損している。表面には整形時の敲打痕を残し、あまり磨耗していない。裏面には、磨採み状のくぼみ穴が見られるが、わずかに集合打痕によるくぼみ穴も存在する。くぼみ穴の加工は石皿の欠損前に行われている。
9	多孔石	長 25.5 幅 30.4 厚 10.6 重 9950	床面直上	輝石安山岩 (粗粒)	表・裏面の平坦な河床礫を使用するが、裏面は研磨による整形が行われている。表裏両面に磨採み状のくぼみ穴が不規則につけられている。
10	軽石木製品	長 6.5 幅 3.4 厚 2.1 重 7	石組の 用材	ゲイサイト 質軽石	赤城山産出の軽石であるが、近くの荒砥川より持ち込まれたものと思われる。明確な加工痕は認められない。

6号住居址出土遺物 (第22-23図、P L 26)

土 器

(単位:cm)

番号	器 形	大 き さ	出土状態	①粘土 ②色調 ③成形 ④残存	器 形 ・ 文 様 の 特 徴	備 考
1	深 鉢	口 46.3 底 8.7 高 59.7	伊埋設	①軽石、粗・細砂混入 ②良好③淡黄色④ 宛形	口縁が内湾ぎみに開口し、胴部の括れをもたない器形。口縁近くで輪横帯に沿って二つに分割されるが、その接合面にはへう状工具による割目が施される。文様は、口唇下に幅広い無文帯をおいて1条の微隆起帯をめぐらせ、これに接続するように平行状の微隆起帯を垂下させる。区画内にはLR縄文が充填するが、胴部下位には施文されない。	加E 4 式
2	深 鉢	口(49.5)	床面直上	①軽石、粗・細砂混入 ②良好③暗灰・灰白色④口縁→胴部下位迄	口縁がわずかに内湾し、胴部で若干括れる器形。内外面ともに良好に研磨。文様は、口唇下に幅広い無文帯をおいて1条の微隆起帯をめぐらせ、これに接続してV字状と横行状の区画文を交互に施す。区画内にはLR縄文が充填される。	
3	深 鉢	口 10.4	床面直上	①軽石、細砂混入② 良好③灰白色④口縁 →胴部中位	口縁が内湾し、胴部で括れるキャリバー状の器形で1個の横状把手をもつ。内外面に煤状の炭化物が付着する。口唇下に1条の細沈線帯をめぐらせ、胴部上位に波状文を施す。胴部下位にはV字状の区画文を施す。区画内にはLR縄文が充填される。	
4	深 鉢	口 13.1 底 6.5 高 21.1	床面直上	①軽石、細砂混入② 良好③灰・灰白色④ 宛形	口縁の内湾や胴部の括れが強いキャリバー状の器形。4単位の波状口縁を呈し、1個の波頂部に横状把手をもつ。外面の口縁付近に煤状炭化物が付着する。口唇下に1条の細沈線帯をおいて、胴部上半にV字状や渦巻状の区画文、胴部下半にV字状の区画文を施す。区画内にはLR縄文を充填し、縄文施文後の沈線のなぞりが行われている。	
5	浅 鉢	口 21.3 底 7.0 高 26.7	+13	①軽石、粗・細砂混入 ②良好③灰白色④ 宛形	胴部に1対の横状把手をもつ、いわゆる「両耳型」と呼ばれる器形。文様は、口唇下に幅広い無文帯をおいて、横状把手上端を連結するような微隆起帯をめぐらせる。その下にアーチ状とJ字状の微隆起帯を配し、区画の内外にLR縄文を施文する。	
6	漏斗形土器	口 7.8 高 9.0	+13	①軽石、石英、粗砂混入 ②良好③灰白色④ 宛形	円錐形を呈し、底部に焼成前の0.7cmの孔がある。胴部中位に1対の把手が付された痕跡が残る。文様を持たないが、内面に放射状のへら研磨がみられる。	

石 器

(単位: cm・g)

番号	器 種	大きさ・重量	出土状態	石 質	形 状 ・ 調 整 加 工 の 特 徴
7	石 槌	長 5.7 幅 3.8 厚 3.1 重 90	埋設土中	黒色頁岩	石核形状は角柱状を呈する。上下両端部は平坦な割離面からなる。この角柱状の横部を打面とし、割片割離を行っている。作出された割片の形状は、概して小型かつ不定形なものが多かったと思われる。
8	打製石斧	長 5.7 幅 4.7 厚 1.7 重 52	埋設土中	黒色頁岩	短冊形を呈する。側部に自然面を残し、刃部は表→裏の順で加工される。刃部には刃こぼれ状の使用痕が認められ、内側縁のほぼ対称位置につぶれが認められる。
9	砥 石	長 (5.0) 幅 6.0 厚 1.0 重 (41)	床面直上	砂岩	扁平な河床礫を使用する。下半部を欠損する。片面にのみ、縁の長軸と同一方向の幅1～1.5cmの平坦な砥面が認められる。
10	凹 石	長 11.1 幅 8.5 厚 5.5 重 491	+3	輝石安山岩 (粗粒)	10・11ともに、表裏両面に集合打痕によるくぼみ穴を各2個有する。11は下端および上端近くの右側縁が欠損しているが、表裏両面と右側縁に磨面をもつ。
11	凹 石	長 11.5 幅 7.7 厚 4.2 重 (622)	+6.5	輝石安山岩 (粗粒)	
12	磨 石	長 10.9 幅 8.9 厚 5.9 重 764	+5	石英閃緑岩	原形の河床礫を使用する。表裏両面に磨面をもつ。
13	磨 石	長 19.3 幅 15.1 厚 4.7 重 2008	+4.5	輝石安山岩 (粗粒)	扁平な河床礫を使用する。片面のみが磨削しており、周縁には部分的に敲打痕が認められる。
14	石 皿	長 (19.2) 幅 (12.5) 厚 7.6 重 (2940)	+4.5	輝石安山岩 (粗粒)	表面の一部に煤状の炭化物が付着し、裏面には継接状のくぼみ穴が施されている。欠損品であるが、裏面のくぼみ穴は欠損前の加工である。
15	浮 子	長 (9.0) 幅 8.5 厚 3.5 重 (118)	+10	輝石安山岩	赤城山産出の板石を素材として、全体を研磨して整形している。下部の約1/3を欠損している。
16	不 明	径 2.7 厚 0.4 重 5	埋設土中	黒色頁岩	礫石状の石製品であるが、表裏両面とも研磨されて整形されている。

7号住居址出土遺物 (第25・26図、P L 27)

土 器

(単位: cm)

番号	器 種	大きさ	出土状態	①胎土 ②色調 ③胎土 ④保存	器 形 の 特 徴	成 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
1	須恵器 高 杯	□ 17.5 高 12.6 底 11.4	床面直上	①硬石粗粒、良好 ②還元③灰、自然 ④胎土⑤ほぼ球形	杯部は上下を横縁で区画。波状文を1条巡らし、2個の鋸りつまみが対称につく。	ロクロ成形による横縁。側部は杯部に接合の後、貫で6方通しを外から切り取る。杯つまみは粘土紐結合。	側部は横縁で区画し、上段1・下段2条波状文が巡る。
2	土師器 杯	□ 14.0 高 5.6	カマド前 床面直上	①赤色粘土粒・ 軽石粗粒②酸化 ③赤鉄④少	内側口辺の杯。口辺部は短かく、外反する。器高は口径の1/3を呈す。器肉均一。	口辺部笠状工具使用横磨。 外面 底部削り持ち磨削。 内面 寛磨の後、放射状寛研磨。	
3	土師器 杯	□ 12.7 高 4.3 底 5.6	床面直上	①軽石・黒雲母 細粒②酸化③ にふい粉④球形	素縁口辺の杯。器高は口径の1/3強を呈す。底部は口径の1/3弱の直径で扁平。	口辺部笠状工具使用横磨。 外面 体部削り持ちの後、寛磨き、底部 磨削成。内面 寛磨、放射状寛研磨。	内面全体いよし状態 で保存。
4	土師器 杯	□ 12.4 高 6.0	貯蔵穴内	①黒雲母細粒② 酸化、良好③浅 黄粒④ほぼ球形	素縁口辺の杯。器高は口径の1/3、体部は丸く底部は中央で僅かに扁平さみ。	外面 口辺部は器高の1/3で比縁1条 で区画横磨。体部→寛削り後、寛磨 き。底部削り持ち。内面 寛磨、研磨。	外面、粘土紙巻き 上げ灰、幅1.0。
5	土師器 杯	□ 13.6 高 5.8	床面直上	①黒雲母細粒・ 軽石粗粒②酸化 ③にふい粉	素縁口辺の杯。器高は口径の1/3弱、2～4はほぼ同様。底部は口径1/3弱で扁平さみ。	外面 口辺部横磨。体部→寛削り、 磨削き。底部調整。 内面 横方向寛磨。	④ほぼ球形 外底 部を除き内外面保 付着。二次焼成。

番号	器種	大きさ	出土状態	①胎土 ②焼成 ③色調 ④残存	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
6	土師器 杯	口 12.0 底 4.0 高 6.1	床面直上	①黒雲母・砂 粗粒②酸化、良 好③橙④完形	素縁口辺の杯、口辺部は最大径から僅かに内湾。器高は口径の $\frac{1}{2}$ 、底部は厚く扁平。	口辺部横撫。 外面 体部磨着き、底部磨削り調整。 内面 荒撫。	内面輪状に煤付着。外面に粘土粗粒横撫、幅1.5。
7	土師器 杯	口 14.7 高 3.7	カマド焚口 +39	①黒雲母・軽石・砂粗粒②酸化、良好③淡黄橙④完形	素縁口辺で短かく直立。器高は口径の $\frac{1}{2}$ 強。底部は厚い。体部は粘土粗粒1.6cm。	外面 口辺部横撫。体部指頭圧痕。底部手持ち磨削り。 内面 口辺部横撫。底面指撫。	④完形 灯明皿か、内面はいよし状煤付着。
8	土師器 杯	口 13.2 底 3.5 高 6.1	カマド前	①軽石・黒雲母・砂粗粒②酸化③淡黄④完形	口辺部は短かく内湾。器高は口径の $\frac{1}{2}$ 弱。底部は平直状を呈する。	外面 口辺部横撫。体部指頭圧痕。体部へ磨削り、底部指頭圧。 内面 口辺部横撫。体部へ磨削り。	外面粘土粗粒混合あり、幅1.5。内面いよし状黒色。
9	土師器 杯	口 12.8 底 3.6 高 5.9	床面直上	①軽石・黒雲母・細粒②酸化③淡黄④ほぼ完形	器高は口径の $\frac{1}{2}$ 、底部は平直状。口辺部は内面に横をもち短かく内湾きみに外反。	外面 口辺部横撫。体部磨削りの後横方向磨着き。底部磨削り。 内面 横方向磨の後、放射状磨削り。	外面体部へ底部黒撫。
10	土師器 杯	口 11.6 高 5.2	+20	①軽石・黒雲母・砂粗粒②酸化③橙④完形	器高は口径の $\frac{1}{2}$ 、底部は丸底で厚む。口辺部は内面に横をもち短かく外反。	口辺部は荒による横撫。 外面 体部指頭圧痕。底部磨削り。 内面 指頭圧痕。荒撫。	内面の口辺へ体部煤付着。外部に直径5cmの黒撫。
11	土師器 壺	口 (19.0)	床面直上	①軽石・砂粗粒②酸化③橙④ $\frac{1}{2}$	口縁部は長さの $\frac{1}{2}$ まで折り返し口縁を呈す。	外面 横撫。指頭圧痕。 内面 横撫。	
12	土師器 甕	底 5.7	カマド前 床面直上	①軽石・黒雲母・細粒②酸化	底部は平直。底径の $\frac{1}{2}$ 強の円孔2.0cmを穿つ。	外面 体部へ磨削り、底部磨削り。 内面 横撫。底部磨削り、円孔磨切。	③明赤褐④胴下部外面底部二次焼成
13	土師器 甕	口 16.2 頸 13.5 胴 24.2	カマド前 床面直上	①軽石・石英・砂粗粒②酸化③淡黄橙④上半部	なだらかな肩から口縁部は「く」の字状に外反する。器内は口縁部が厚い。	口縁部横撫。 外面 横の後、へ刷毛目。 内面 へ磨削り・磨着き。	
14	土師器 甕	胴 19.9 底 7.0	カマド前 +10	①黒雲母・軽石・砂粗粒②酸化、良好③橙	底部は平直だが安定しない。胴部はよく丸む。器内は胴部ではほぼ一定、底部が厚い。	外面 胴部へ刷毛目・へ磨削り・磨着き。底部磨削り。 内面 へ磨削り・磨削り、底部磨削り。	④下半部底部外面は二次焼成で黒色。
15	土師器 甕	胴 22.0 底 6.6	カマド前 +10	①軽石・黒雲母・砂粗粒②酸化	14と同様だが、底部は中央が僅かに凹み安定する。	外面 胴部へ刷毛目・へ磨削り・磨削り。内面 へ刷毛目。	②酸化③橙④下半部内面底部黒撫。

8号住居址出土遺物 (第28・29図、P L 27)

土 器

(単位: cm)

番号	器種	大きさ	出土状態	①胎土 ②焼成 ③色調 ④残存	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
1	土師器 杯	口 13.4 底 11.7 高 4.1	床面直上 埋没土中	①軽石・黒雲母・石英・砂粗粒②酸化③いよし	外縁の広がり口辺の杯。底部は丸底だがやや扁平。器高は口径の $\frac{1}{2}$ 。	口辺部は横撫。 外面 底部手持ち磨削り。 内面 荒撫。	④はほぼ完形
2	土師器 杯	口 (15.8) 底 (12.6) 高 2.9	埋没土中	①砂・赤色粘土・黒雲母粗粒②酸化③橙④ $\frac{1}{2}$ 弱	外縁を呈し口辺中央で更に大きく外反。器高は口径の $\frac{1}{2}$ 強。底部は大きく丸底だが扁平きみ。器内は薄い。	口辺部は横撫。 外面 底部手持ち磨削り。 内面 底部指頭圧痕。横撫。中央に横物埋没の繊維の凹が残る。	外面底部に墨書。「井」?
3	土師器 杯	口 13.8 高 2.8	埋没土中	①軽石・黒雲母・砂粗粒②酸化③橙④ $\frac{1}{2}$ 弱	寛による横撫で口辺部は僅かに横を呈し外反する。器高は低く、底部はやや扁平。	外面 口辺部による横撫。体部指撫。底部手持ち磨削り。 内面 指頭圧痕。寛による横撫。	器形は歪みがある。
4	土師器 杯	口 14.2 高 2.9	埋没土中	①軽石・黒雲母・粗粒②酸化	器高は口径の $\frac{1}{2}$ 。口辺部は器高の $\frac{1}{2}$ 、底部はやや扁平。	外面 口辺部横撫。底部磨削り。 内面 指頭圧痕。荒撫。	③にいよし④ $\frac{1}{2}$ 弱

京低北原遺跡

(単位: cm)

番号	器種	大きさ	出土状態	①胎土 ③色調	②構成 ④残存	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
5	土師器 杯	口 14.0 高 (3.2)	埋没土中	①黒雲母細粒② 酸化③によい橙		器高は口径の1/2、口辺部は 器高の1/2強。口唇部内湾。	外面 口辺部横撫、底部篋削り。 内面 指頭圧成、篋横撫。	④に弱 底部扁平な丸底。
6	土師器 杯	口 14.1 高 (3.4)	埋没土中	①黒雲母・軽石 細粒②酸化		器高、口辺部は5と同様。 口唇部は僅かに外反。	外面 口辺部横撫、底部篋削り。 内面 篋横撫。	③によい橙④に 底部5と同様。
7	土師器 杯	口 16.3 高 4.5	埋没土中	①黒雲母細粒② 酸化、やや軟 質③橙④に		器高は口径の1/2強、口辺は 器高の1/2で短かく内湾なみ。 底部は稜を呈し扁平丸底。	外面 口辺部横撫、体部指頭圧成、 底部手持り篋削り。 内面 口辺部横撫、指押え、篋削。	
8	須恵器 杯	口 13.1 器 9.2 高 4.0	埋没土中	①精選良好選 元、軟質③灰白 ④に		平底。器高は底径の1/2、安 定する。	口縁部による横撫。 外面 一貫削り。 内面 篋削。	口縁部は の凹転糸切り。内面は口縁部による 稜を呈す。
9	土師器 長壺	口 (16.2) 頸 (14.7)	埋没土中	①軽石・黒雲母 細粒②酸化③橙 ④に		「コ」の字状口縁の長壺。 器内は胴部で薄い。	口縁部による横撫。 外面 一貫削り。 内面 篋削。	
10	土師器 壺	口 (22.8) 頸 (19.5)	埋没土中	①軽石・黒雲母 細粒②酸化③淡 橙④に		口縁部は胴部から外反する。 肩部はなだらか、器内 は薄い。	口縁部による横撫。 外面 一貫削り。 内面 一貫削。	内面口縁部に 残付着。

石 器

(単位: cm・g)

番号	器種	大きさ・重量	出土状態	石質	形状・調整加工の特徴
11	こもろみ 石	長 13.8 幅 6.3 厚 4.8 重 520	床面直上	石英閃緑岩	11~14は棒状の河床礫を用いている。加工度は認められないが、体部は全 体的に滑らかである。11の下端には、わずかな敲打痕が認められる。
12	こもろみ 石	長 12.3 幅 6.0 厚 3.1 重 341	床面直上	輝石安山岩 (粗粒)	
13	こもろみ 石	長 13.2 幅 3.1 厚 2.0 重 123	+11	黒色頁岩	
14	こもろみ 石	長 13.6 幅 6.3 厚 3.8 重 506	+3.5	輝石安山岩 (粗粒)	
15	敲 石	長 (6.7) 幅 7.8 厚 3.2 重 (267)	床面直上	石英閃緑岩	
16	敲 石	長 11.1 幅 9.6 厚 9.0 重 1152	床面直上	輝石安山岩 (粗粒)	15は扁平な河床礫で、16は球形に近い河床礫を使用する。15は下端縁辺に 敲打痕が、16は2箇所に敲打痕がそれぞれ認められる。

9号住居址出土遺物 (第31図、P L 28)

土 器

(単位: cm)

番号	器種	大きさ	出土状態	①胎土 ③色調	②構成 ④残存	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
1	土師器 杯	口 13.1 高 3.8	+10	①黒雲母・砂 細粒②酸化③淡橙		口辺部は器高の1/2弱で短か い。底部扁平な丸底。	口辺部横撫 外面 指頭、底部篋削り。 内面 指押え、指頭、寛による横撫。	④完形 口辺部は横円形。
2	土師器 杯	口 13.5 高 3.4	埋没土中	①黒雲母細粒② 酸化③淡橙		口辺部の短かい杯。底部は 稜を呈す。1より更に扁平。	口辺部横撫 外面 指頭、底部篋削り。 内面 指頭圧成、寛による横撫。	④ほぼ球形
3	土師器 杯	口 13.1 高 3.8	埋没土中	①黒雲母細粒② 酸化③淡橙④に		口辺部は器高の1/2。底部は 丸底。	口辺部横撫 外面 指頭、底部篋削り。 内面 指による横撫。	

番号	器種形	大きさ	出土状態	①胎土 ③色調 ④焼成 ⑤残存	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
4	土師器 杯	口 13.5 高 3.5	埋没土中	①黒土・黒雲母・ 砂粗粒②酸化	3とほぼ同様。口辺部は器 高の1/2強、丸底で稜を呈す。	口辺部横換。外面 指撫、底部寛削。 内面 指押え、横換。	②軟質③焼④ほぼ 完形
5	須恵器 杯	口 11.4 高 3.6	+3 埋没土中	①紅石粗粒②還元 ③灰白④⑤	平底。器高は口径の1/2、底 径の1/2、口辺部は外反する。	口径成形による横換、口径目直。 底部寛削り整形、周辺→2段寛削り。	

10号住居址出土遺物 (第32回)

(単位:cm)

番号	器種形	大きさ	出土状態	①胎土 ③色調 ④焼成 ⑤残存	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
1	土師器 瓶	口 (17.6) 底孔 (1.3) 高 (12.3)	カマド内 +12	①黒雲母・紅 石・石英・砂粗 粒②酸化③淡橙	口辺部は外反し、最大径を 呈す。底部は焼成前の穿孔 がある小形の瓶。	口辺部寛削り工具による横換。 外面 \ 寛削り。 内面 一寛削、底部指撫。	④口辺→胴上部 に黒斑あり。胴面 上復元。

11号住居址出土遺物 (第34回、P L 28)

(単位:cm)

番号	器種形	大きさ	出土状態	①胎土 ③色調 ④焼成 ⑤残存	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
1	土師器 杯	口 (13.0) 高 (2.3)	床面直上	①黒雲母細、粘 土粗粒②酸化	口辺部は器高の1/2で短く外 反。底部は中央が扁平さみ。	外面 口辺部横換、底部寛削り。 内面 口辺部横換、底部寛削。	⑤焼④⑤
2	土師器 杯	口 (13.0) 高 (2.5)	床面直上	①紅石・砂粗粒 ②酸化、軟質	口辺部は器高の1/2で外反、 底部は丸底だが扁平さみ。	外面 口辺部横換、底部寛削り。 内面 口辺部横換、指撫圧痕、指撫。	⑤焼④⑤
3	土師器 杯	口 12.5 高 3.3	+3 埋没土中	①砂粗粒②酸化 ③淡黄橙④⑤弱	口辺部は器高の1/2、直立さ みに立ち上がり口唇部外反。	外面 口辺部横換、底部寛削り。 内面 指撫圧痕、口辺部横換、指撫。	口唇部が重む。外 面底部黒斑。
4	土師器 杯	口 (15.4) 高 (3.2)	床面直上	①黒雲母細、紅 石粗粒②酸化	底部は扁平さみの丸底、口 辺部は器高の1/2大きく外反。	外面 口辺部横換、底部寛削り。 内面 口辺部内面寛削、底部寛削。	⑤淡橙④⑤
5	土師器 瓶	口 (16.7) 高	+4	①紅石粗、砂粗 粒、水漬し粘土。	体部は丸みをもち外反、口 唇部で内湾。器内体下部厚。	外面 横方向寛削り。 内面 放射状磨研。	②酸化③焼④⑤
6	須恵器 杯	口 13.2 高 3.9	床面直上	①良好、砂少量 ②還元、軟質	底部中央やや凹状の平底。 器高は口径の1/2、底径の1/2	口径成形による口径目直。外面 底部口唇部転転切り。	③灰白④⑤
7	土師器 壺	口 (19.0) 頸 (15.6)	床面直上 カマド内	①紅石粗粒②酸化 ③淡黄橙④⑤	肩部は張りをもつ。口縁部 は大きく外反し口唇で外反。	口縁部横換。外面 肩部指撫。 内面 横方向横換。	外面 炭素吸着。
8	土師器 罍	口 (19.0) 頸 (17.0)	床面直上 カマド内	①紅石・砂粗粒 ②酸化③焼④⑤	最大径は、外反する口縁部 にある。器内は薄い。	外面 口辺部横換、肩部一寛削り。 内面 口辺部横換、肩部一寛削。	
9	土師器 罍	口 (24.6) 頸 (21.7)	床面直上 カマド内	①紅石・黒雲母・ 砂粗粒②酸化	肩部は大きく張り。口縁部 は外反、口唇部は内湾。	外面 口縁部横換、肩部一寛削り。 内面 口縁部横換、肩部横方向寛削。	③焼④⑤
10	土師器 長壺	口 (23.0)	床面直上	①紅石・砂粗粒 ②酸化、軟質	口縁部は直線的な胴部から 外反、最大径を呈す。	外面 口縁部横換の後、胴部1寛削り。 内面 口縁部横換、胴部一寛削。	③焼④⑤
11	土師器 長壺	底 (5.2)	床面直上 カマド内	①砂粗粒②酸化 ③焼④⑤	長壺の胴下～底部。胴部器 肉は薄く、底部は厚みある。	外面 \ 寛削り、底部寛削り。 内面 寛削。	
12	土師器 長壺	底 4.2	床面直上	①紅石・砂粗粒 ②酸化③焼④⑤	11と同様。器内は底部中央 がやや薄い。	外面 \ 寛削り。底部中央砂多め付 着、寛削り。内面 指撫、寛削。	

番号	器形	大きさ	出土状態	①胎土 ②色調 ③焼成 ④残存	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
13	土師器 壺	底 7.0	床面直上	①軽石・黒雲母 ②酸化③焼成	丸底。胴部はふくらんで外反。器内は底・胴接合部厚。	外面 胴部へ寬削り、底部手持ち寬削り。内面 寬削。	③ㄥ

コ字状区画の溝状遺構出土遺物 (第36図、P L 28)

土 器

(単位: cm)

番号	器形	大きさ	出土状態	①胎土 ②色調 ③焼成 ④残存	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
1	土師器 土製壺	口 18.2	A・B溝内	①黒雲母細、軽石・石英粗粒 ②酸化③焼成	蓋孔は二口、体部左右に角状把手を持つ。焚口穴無。体表面積5cmの煙孔を穿つ。	外面 口辺部横換。胴部：寬削り、蓋輪2.0cm整形。 内面 口辺部横換。胴部寬削。	③明黄輪④ㄥ 固面上底元。

1号方形周溝墓出土遺物 (第39・42・43図、P L 28・29)

土 器

(単位: cm)

番号	器形	大きさ	出土状態	①胎土 ②色調 ③焼成 ④残存	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
1	土師器 器台	口 8.3 脚高 11.0 高 8.9	東周溝部 +49	①石英粗粒少量 ②酸化③洗黄輪 ④ほほ宛形	器受部短かく口唇部は外反、底部は7mmの貫通孔。脚部横広がる。中位に円孔。	外面 器受口辺・底部寬磨き、脚部縦黄研磨。内面 口辺磨き底部放射状黄研磨、脚部一磨削、\、刷毛目。	円孔直径1~1.2cm中位よりやや上に3個穿つ。
2	土師器 器台	口 8.2 脚高 2.6 器高 10.9 高 10.2	東周溝部 +15	①軽石・石英・砂粗粒②酸化③洗黄輪④ほほ宛形	器受部は1と同様。但し底部貫通しない。脚は外反するが根部は直線的に折れ先端をつまみ出す。中位円孔。	外面 器受口辺・底部横換、頸部寬削り、脚部縦黄研磨、底部横換。内面 器受部横換、脚部へ刷毛目、裾部横換。	円孔は中位に上下二段各4個を交互に穿つ。直径1.6。器受部内外赤彩。
3	土師器 器台	口 18.6 脚高 3.5 器高 10.6 高 13.0	東周溝部 床面直上	①軽石・砂粗粒 ②酸化③洗黄輪④ほほ宛形	底部焼成前の円孔を穿つ。口辺部は「く」の字状に大きく外反。頸部は細く脚部は外反し幅大きく広がる。	外面 杯部縦方向黄研磨、脚部寬削。裾部縦方向黄研磨。内面 杯部口辺部全面放射状黄研磨、脚部一磨削、裾部横換。円孔・貫通孔は縦で穿つ。	口辺4個、対で体部4個、脚部3個直径1.3の円孔。杯底部貫通孔0.8。
4	土師器 高杯	口 24.8 底高 14.5 高 14.5	東周溝部 +26	①砂粗、赤色粘土粗粒②酸化③洗黄輪④宛形	杯部は器高の1/2、円錐状に開く脚部に対し口径が大きい。脚部は円孔を穿つ。	外面 放射状黄研磨。脚部一磨削り。 内面 杯部放射状黄研磨。脚部絞り爪、寬削、横換。	脚部中位に焼成前の円孔を3個穿つ。径1.6。
5	土師器 椀	口 8.2 底高 3.9 高 6.7	東周溝部 +16	①砂・軽石粗粒②酸化、やや軟黄③洗黄輪	口辺部はS字状で短かく外反。最大径は器高中位にある。底部は平底で器高の1/2	口辺部横換。外面 体部への後、一、\、刷毛目。底部寬削り。 内面 体部へ底部へ指痕、指痕圧痕。	④ほほ宛形
6	土師器 椀	口 9.2 底高 4.0 高 6.6	東周溝部 +21	①軽石・砂粗、石英粗粒②酸化③洗黄輪④宛形	口辺部は直立。最大径は器の高さに位置。底部は平底。	口辺部横換。 外面 寬磨き、黄研磨。 内面 指痕圧痕、蓋輪、黄研磨。	
7	土師器 壺	口 18.6 器高 11.5	南周溝部 +64	①黒雲母・軽石細、石英粗粒	口縁部は長く、外反する。口唇部有段口唇部を呈す。	内外面とも横換。頸部は接合部が観察出来る。	②酸化③よい横④ㄥ
8	土師器 壺	口 19.8 底高 8.3 高 20.9	南周溝部 +14	①砂・黒雲母細粒②酸化、良好③洗黄輪④宛形	平底に直径6cmの孔を穿つ。器高の1/2に最大径を有する胴部は球体。二重口縁。	外面 口縁中位くし状工具の刺突が走る。1、\、刷毛目。 内面 一刷毛目、蓋輪、一刷毛目。	外面全体と内面口縁部は赤彩。外面胴下部に黒黒。
9	土師器 壺	口 20.6 底高 8.4 高 19.0	西周溝部 +51	①黒雲母細、砂粗粒②酸化③洗黄輪④ほほ宛形	底部穿孔の壺。最大径は口縁部にある。口縁部は上段に比べ下段が長い。	外面 口縁の1/2に横を有し細かく刺突が走る。1、\、刷毛目。 内面 一刷毛目、蓋輪、一刷毛目。	粘土細は胴上部幅1.5・下部2.0。後に口縁下部接合。

番号	器種形	大きさ	出土状態	①胎土 ②色調 ③焼成 ④残存	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
10	土師器 壺	口 21.0 頸 7.2 胴 18.0	西周溝部 +48	①黒雲母・砂粒 ②酸化③洗黄緑 ④少	底部は15まで同様。最大径は口縁部にある。口縁中央は粘土紐貼付で突出する。	外面 口縁に横を有し、指摺圧痕を運る。へ、へ、へ一刷毛目。一貫削り。内面 一刷毛目、指摺圧痕。	胴部は器高の1/2にあり、胴部高の1/2で球体。
11	土師器 壺	口 21.6 底 8.8 高 19.9	東周溝部 +64	①砂・石英粗粒 ②酸化③洗黄緑 ④ほぼ充形	最大径は口縁部にある。口縁中央は粘土紐貼付で僅か突出。胴部内は均一。	外面 口縁突出部指摺え運る。へ、へ、へ一刷毛目・一貫削り・へ刷毛目。内面 一刷毛目、指摺え・一貫削り。	外面は口縁へ胴中央。内面口縁部に赤彩。
12	土師器 壺	口 20.7 底 7.6 高 21.5	西周溝部 +51	①砂・石英粗粒 ②酸化③洗黄緑 ④少	最大径は口縁・胴部に呈す。胴部は球体、口縁部は粘土紐貼付で厚みを有す。	外面 へ、へ、へ一刷毛目。内面 一刷毛目、指摺え・一貫削り・一刷毛目。	胴部成粘土紐は幅1.5。
13	土師器 壺	口 17.6 底 8.2 高 19.2	東周溝部 +29	①砂粗粒、石英粗粒 ②酸化③洗黄緑 ④ほぼ充形	最大径は胴下部にある。胴部は腰に張りをもつ。口縁有段部に細い粘土紐貼付。	外面 口縁・頸へ、胴へ一刷毛目。内面 口縁上段横撫・下段へ一刷毛目、胴指摺え・一貫削り・一刷毛目。	胴部粘土紐幅1.6。
14	土師器 壺	口 21.1 底 7.8 高 (21.5)	東周溝部 +45	①黒雲母細、石英・軽石・砂粒 ②酸化	12とほぼ同様の器形を呈す。口縁部は横門を呈す。	外面 口縁横撫・へ、頸へ、一刷毛目。内面 口縁へ、胴へ一貫削り・一刷毛目。	③洗黄緑④研へ胴中央欠損。内外口縁部赤彩。
15	土師器 壺	口 17.1 底 5.9 高 16.3	東周溝部 +65	①黒雲母細、石英・砂粒 ②酸化③洗黄緑	8～14に比べ小形。底部直径3cmの孔を穿つ。口縁上段は外反で内湾さみ。	外面 口縁部横撫、胴部へ一刷毛目、胴下部へ貫削り。内面 口縁部横撫、胴部指摺・貫削り。	④口縁少、他充存
16	土師器 壺	口 22.2 胴 30.0 底 11.4 高 44.3	東周溝部 +12	①石英・砂・軽石・黒雲母細粒 ②酸化、良好 ③洗黄緑④ほぼ充形	二重口縁、頸部つまみ出し。口縁上段横撫状・肩部円形粘土各3貼付。胴部球体、底部平底。	外面 口縁上段一・下段一刷毛目、胴一刷毛目・へ貫削り。内面 口縁部一刷毛目、胴部指摺え・貫削り。	外面口縁へ胴中央・内面口縁部赤彩。

4号方形周溝基出土遺物 (第48回、P L 30)

鉄製品・土器

(単位：cm)

番号	器種形	大きさ	出土状態	①胎土 ②色調 ③焼成 ④残存	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
1	鉄製品 鎌	棟長(15.0) 刃部(11.6) 身幅 4.2 背厚 0.3	溝内土層 +3	①先端欠損	背および刃部が、くらばし状に湾曲していることから、曲刃鎌と思われる。わずかにではあるが、身の両面が認められる。断面形が楔形を呈し、刃は片刃である。身の基部には、高さ5mmの折り返しの耳が付く。		
2	土師器 埴	口 12.2 胴 14.0	南周溝部 埋没土中	①黒雲母・石英・砂粗粒 ②酸化	口縁部は長く中位に浅い沈線一乗運る。最大径は胴部。	外面 口縁横撫、胴横撫・一貫削り。内面 口縁横撫、胴指摺え・一貫削り。	③沈線④少。底部欠損。
3	土師器 埴	口 8.0 胴 5.0	北周溝部	①黒雲母・軽石・砂粗粒 ②酸化③横撫④口縁部	口縁部は「く」の字状に外反、下部は丸み。器内は薄い。	外面 口縁部横撫・縦方向貫削り。内面 口縁部横撫・縦方向貫削り。	内外面口縁部赤彩。
4	土師器 壺	口 18.0	埋没土中	①黒雲母・砂粗粒 ②酸化③横撫	口縁部は「く」の字状、内湾しながら外反。	外面 口縁部横撫。内面 口縁部横撫、縦方向貫削り。	④少
5	土師器 壺	口 16.2 高 21.9	南周溝部 埋没土中	①軽石・赤色粘土粗粒 ②酸化	口縁部は口唇部が内湾さみで外反。底部平底。	器面が磨滅して整形痕不明瞭。外面 貫削り。内面 不明瞭。	③明赤④ほぼ充形
6	土師器 台付壺	胴 21.9	北周溝部 埋没土中	①黒雲母細、砂・軽石・石英粗粒	最大径は胴中央にある。底部はやや小さい。	外面 胴部へ貫削り。内面 胴上部指摺え、下部貫削り。	②酸化③横撫④少
7	土師器 台付壺	高 9.0	埋没土中	①黒雲母・軽石・砂粗粒 ②酸化	比較的大形の台部、内面頸部に折り返しが見られる。	外面 横、上部刷毛目。内面 指摺・横撫・指摺え。	③洗黄緑④台部

番号	器形	大きさ	出土状態	①胎土 ③色調	②焼成 ④残存	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
8	土師器 台付甕	底 9.2	西周溝部 +8	①紅石・黒雲母・ 砂細粒②酸化		7と同様。	7と同様。7・8は、内側天井部に 砂の多い粘土を貼り込む。	③夜黄橙④白色
9	土師器 壺	底 9.0	東周溝部 埋没土中	①紅石細粒②酸化 ③明赤褐④%		胴部は球体に近い。底部は 凸底。	外面 甕用り。 内面 旋削。	外面胴部に黒斑。

1号墳出土遺物 (第51図、P L 30)

土 器

(単位: cm)

番号	器形	大きさ	出土状態	①胎土 ③色調	②焼成 ④残存	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
1	土師器 杯	口 (13.1) 高 3.5	前 庭	①黒雲母細、紅 石粗粒②酸化		内湾ぎみに短い口辺部が立 ちあがる小形の杯。	外面 口辺部旋削、底部旋削り。 内面 口辺部旋削、底部旋削。	③和④%
2	土師器 杯	口 (14.9) 高 3.9	南西周堀 埋没土中	①黒雲母細、砂・ 紅石粗粒②酸化		外縁の広がりが口辺の杯。底 部は扁平。	外面 口辺部旋削、底部旋削り。 内面 口辺部旋削、底部旋削。	③にふい梅④% 外面煤吸着。
3	須恵器 杯	底 6.9	南西周堀 埋没土中	①彩細粒②還元 軟質③灰白④%		平底の杯、中央部は僅かに 凹状。	口クロ成形の残存の旋削。	

土壇出土遺物 (第57図、P L 30)

土 器

(単位: cm)

番号	器形	大きさ	出土状態	①胎土 ③色調	②焼成 ④残存	器形・文様の特徴	備考
3E1	深 鉢		埋没土中	①粗砂混入②良好③鈍い褐色		器形は、口縁の内湾や胴部の括れ強いもの (3・4・6~8)と弱いもの(1・2・ 5・9)がある。1は内面に、4は内外面に 煤状炭化物が付着する。 文様は、半截竹管による太い沈線で平行状 の懸垂文を構成するもの(1~3)、微隆起帯 に近似した隆帯で渦巻文を構成するもの (4・5)、棒状工具による細沈線でV字状文 を構成するもの(6~8)、微隆起帯によって 文様構成するもの(9)がある。各文様の区 画内には縄文が充塞されるが、1~6は縄文 施文後に区画文のなせりが行われる。縄文は、 1~4・9がRL、5がLRL、6~8がLR となる。	加 E 3 式
3E2	深 鉢		埋没土中	①紅石、石英・粗砂混入②良好③淡黄色			
3E3	深 鉢		埋没土中	①粗砂混入②良好③黄灰色			
3E4	深 鉢		埋没土中	①細砂混入②良好③灰黄色			
3E5	深 鉢		埋没土中	①粗砂混入②良好③灰黄褐色			
3E6	深 鉢		埋没土中	①粗砂混入②良好③淡赤褐色			
3E7	深 鉢		埋没土中	①粗砂混入②良好③浅黄褐色			
3E8	深 鉢		埋没土中	①粗砂混入②良好③浅黄色			
3E9	深 鉢		埋没土中	①粗砂、裸混入②良好③淡黄色			
4E1	深 鉢		埋没土中	①粗砂混入②良好③淡黄・灰色		口縁が直立ぎみに開口し、胴部で括れない 器形。口縁に微隆起帯をめぐらせ、その下位 にLR縄文を施文する。	加 E 4 式
4E2	深 鉢		埋没土中	①石英、粗砂混入②良好③淡黄色			
5E1	深 鉢	口 (40)	埋没土中	①礫・粗砂混入②良好③灰黄色④口縁~胴 部中位%		1の器形は、口縁がわずかに内湾し、胴部 で括れないが、2は胴部で括れるキャリバー 状の器形。1は外面に煤状炭化物が付着。文 様は、1が口縁に微隆起帯をめぐらせてLR 縄文を施文し、2は口唇下に太い沈線をめぐ らせてRL縄文を施文する。	加 E 4 式 加 E 3 式
5E2	深 鉢		埋没土中	①粗砂混入②良好③浅黄色			
5E3	深 鉢		埋没土中	①粗砂混入②良好③浅黄色			
6E1	深 鉢		埋没土中	①礫・粗砂混入②良好③鈍い褐色		胴部状の器形。1は内面、2は外面に煤状 炭化物付着。RL縄文施文後に半截竹管によ る渦巻沈線文を胴部上半に施文する。	諸 機 b 式
6E2	深 鉢		埋没土中	①粗砂混入②良好③灰白・灰色			

遺構外の出土遺物 (第60・62～80図、P L 30～34)

縄文土器

(単位: cm)

番号	器形	大きさ	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調 ④残存	器形・文様の特徴	備考	
1	深鉢		c-16	①粗砂混入②良好③褐色	<p>1～25は尖底の器形をもつ草前期後半の燃赤土系土器である。1～8は口縁部破片で、口唇部は角頭状を呈するもの(1)や丸棒状となるもの(2～8)があり、いずれも肥厚外反する。6・7・16は器内が薄い。焼成はいずれも良好であるが、胎土に石英礫を含むもの(2・6・8・12・13・15・17・18・22)や結晶片岩礫を含むもの(7・16・19・21・25)などがみられる。</p> <p>文様は燃赤文をもつものを主体として、結状文を回転施文せず引きずって線状の沈線文を施すもの(5・23・24)や無文のもの(6～8・25)がある。</p> <p>燃赤文の施文は、口唇上にも施文するもの(1)、口唇下より施文するもの(2・3)、口縁部無文帯を意識したもの(4)などがある。5の条線土器は口唇下より施文されている。</p> <p>燃赤文の原形は、2のみがして他は全て良である。原形の節が大きく、条間隔の狭いもの(1・2・9・11・17)、節が小さく条間隔の狭いもの(3・12～14・16)、節が大きく条間隔の広いもの(4・18～22)などがみられる。</p>	夏島式	
2	深鉢		b-18	①石英礫、粗砂混入②普通③褐色		稲荷台式	
3	深鉢		表探	①粗砂混入②良好③鈍い褐色			
4	深鉢		表探	①粗・細砂混入②良好③鈍い褐色			
5	深鉢		L-17	①粗・細砂混入②良好③鈍い褐色			
6	深鉢		J'-67	①石英礫、粗砂混入②良好③鈍い褐色			
7	深鉢		H-17	①結晶片岩礫混入②良好③鈍い赤褐色			
8	深鉢		D'-55	①石英礫、粗砂混入②良好③鈍い黄褐色			
9	深鉢		K-17	①粗砂混入②良好③鈍い褐色			
10	深鉢		J'-67	①粗砂混入②良好③鈍い褐色			
11	深鉢		c-16 Z-5	①粗砂混入②良好③鈍い褐色			
12	深鉢		表探	①石英礫、粗砂混入②良好③鈍い赤褐色			
13	深鉢		表探	①石英礫混入②良好③鈍い黄褐色			
14	深鉢		W-11	①粗砂混入②良好③鈍い褐色			
15	深鉢		K-17	①石英礫、粗砂混入②良好③鈍い褐色			
16	深鉢		Z-1	①結晶片岩礫混入②良好③鈍い褐色			
17	深鉢		表探	①石英粗砂混入②良好③鈍い黄褐色			
18	深鉢		c-14	①石英礫、粗砂混入②普通③灰黄褐色			
19	深鉢		b-18	①結晶片岩礫混入②良好③鈍い褐色			
20	深鉢		b-18	①頁岩礫、粗砂混入②良好③鈍い黄褐色			
21	深鉢		P-9	①結晶片岩礫混入②良好③褐色			
22	深鉢		b-18	①石英礫、粗砂混入②良好③鈍い黄褐色			
23	深鉢		P-9	①礫・粗砂混入②良好③鈍い褐色			
24	深鉢		表探	①礫・粗砂混入②良好③鈍い褐色			
25	深鉢		P-9	①結晶片岩礫混入②良好③鈍い赤褐色			
26	深鉢		b-18	①粗砂、繊維混入②良好③浅黄褐色		<p>26～38は胎土に繊維を含む。26～29・31・32の口唇部は角頭状を呈し、外反する。全体的な器形の判明しているものはないが、26にみられるような口縁が外反して胴上位でゆるく括れ、その下位で膨らみをもつ器形となる</p>	黒沢式
27	深鉢		K-75	①粗砂、繊維混入②良好③鈍い赤褐色			
28	深鉢		b-18	①結晶片岩礫・繊維混入②良好③明赤褐色			

番号	器形	大きさ	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調 ④残存	器形・文様の特徴	備考		
29	深鉢		表探	①粗砂、繊維混入②良好③浅黄褐色	ものが大半と推定される。36・38は外面にスズ状炭化物が付着している。文様は、全面に縄文を施文するもの(26・33・35・36)と半載竹管による沈線文をもつもの(34・37・38)がある。 26は軸縄が見えないが、RおよびL縄を各2本附加した2種の原体を施文することによって、菱形の文様を描出している。27・31~34はR・L、29はR、28・30は同一個体でL、35はR・LとLの2種類、36はR・LとL・Rの2種類の原体をそれぞれ使用する。 37は半載竹管によってコンパス文が描かれている。	黒浜式		
30	深鉢		K-14	①結晶片岩礫・繊維混入②良好③明赤褐色				
31	深鉢		表探	①軽石、石英、繊維混入②良好③灰黄褐色				
32	深鉢		表探	①礫・粗砂、繊維混入②良好③鈍い褐色				
33	深鉢		b-18	①軽石、粗砂、繊維混入②良好③褐色				
34	深鉢		表探	①細砂、繊維混入②良好③鈍い褐色				
35	深鉢		G-1・16	①軽石、粗砂・繊維混入②良好③灰黄褐色				
36	深鉢		表探	①粗砂、繊維混入②良好③鈍い褐色				
37	深鉢		表探	①粗砂、繊維混入②良好③灰黄褐色				
38	深鉢		D'-55	①粗砂、繊維混入②普通③灰黄褐色				
39	深鉢		表探	①礫・粗砂混入②良好③褐色			39・40は器形がキャリバー状に屈曲し、41~45は口縁が外反して胴部中心でわずかに屈曲する器形となる。 文様は、39・40が浮線文、41~43が半載竹管による沈線文、44・45がR・L縄文によってそれぞれ構成される。43は菱形形の文様の内側に渦巻文が施され、41はR・L縄文を施文した後沈線文が施文される。	諸磯b式
40	深鉢		表探	①礫・粗砂混入②良好③鈍い褐色				
41	深鉢		表探	①軽石、礫・粗砂混入②良好③鈍い赤褐色				
42	深鉢		a-70	①軽石、礫混入②良好③鈍い赤褐色				
43	深鉢		k-44	①礫・粗砂混入②良好③灰黄色				
44	深鉢		b-18	①石英礫、粗砂混入②良好③鈍い黄褐色				
45	深鉢		表探	①細砂混入②良好③鈍い黄褐色				
46	深鉢		K-13	①石英礫、細砂混入②良好③浅黄褐色	半載竹管による集合沈線で文様構成される。46は円形貼付文に半載竹管の刺突が加えられる。	諸磯c式		
47	深鉢		V-9	①粗砂混入②良好③灰黄色				
48	深鉢		口(17.5) -13	①粗砂混入②良好③鈍い赤褐色	キャリバー形の器形。胴部上半に半載竹管による波状文、下半にJ状文が施され、区画内にR・L縄文が充填される。	加E3式		
49	深鉢		口(46.5) Q-7 P-6	①軽石、粗砂混入②良好③浅黄褐色・灰色④口縁<胴部中心>	口縁の湾曲、胴部の捻れが強い器形・外面に煤状炭化物付着。口縁に微隆起帯をめぐらせ、以下にL・R縄文を施文する。	加E4式		
50	深鉢		K(22)	①粗砂混入②良好③鈍い黄褐色④口縁<	口縁が強く内湾するキャリバー状の器形。50は1個の横状把手をもち、51は波状口縁を呈する。文様は、ともに横沈線によるV字状。楕円状文が施文されるが、50は口縁に微隆起帯がめぐり、50は区画内にL・R縄文、51はR・L縄文が充填される。			
51	深鉢		口(11)	①粗砂混入②良好③鈍い黄褐色④口縁<				
52	深鉢		口(20) L-9・11	①粗砂混入②良好③鈍い褐色④口縁<	外面に煤状炭化物が付着。口縁の突起部分に横状把手が付く。口縁に微隆起帯をめぐらせ、以下にL・R縄文を施文する。			
53	深鉢		口(18) R-7	①粗砂混入②良好③鈍い黄褐色④口縁<	口唇下に指環による幅広い沈線文をめぐらせ、以下5~6本単位の垂線文を施文。	加E3式		

遺構外の出土遺物

番号	器形	大きさ	出土位置	①胎土 ②施成 ③色調 ④残存	器形・文様の特徴	備考	
54	浅鉢	口(28)	F~L -4~7	①軽石、粗砂混入②良好③灰白色④口縁~胴部下位	胴部に1対の把手をもつ「両耳壺」。把手に連なる微隆起帯のアーチ状文を施した後に、R.L.縄文をほぼ全面に施文する。	加E4式	
55	深鉢	口15.6 底(8.0) 高(23)	S-29	①礫・粗砂混入②良好③浅黄橙・帯灰色④口縁~胴部下位	3単位の波状口縁で、各波頂部に小突起を付す。朝顔状の器形。口縁には細い隆帯を貼付して、棒状工具による刺突を加える。その下に平行状の沈線をめぐるせ、区画内にL.R.縄文を充填する。	船之内2式	
56	深鉢		L-11	①軽石、粗砂混入②良好③帯灰色	56~62は口縁が内湾し、胴部で括れるキャリパー状の器形を呈する。56は外面にクルール状炭化物、60は内面に煤状炭化物がそれぞれ付着する。文様は、口唇下に半環竹管によるやや幅広い沈線をめぐるせ、胴部に直状・平行状・U字状の沈線区画文を並下させる。区画内あるいは外側に縄文が充填され、縄文施文後に沈線のなぞりが行われる。縄文は56・58~60がR.L.、57・62が0段3条R.L.、61がL.R.である。	加E3式	
57	深鉢		N・O-12	①軽石、粗砂混入②良好③淡黄色			
58	深鉢		N・P-12	①軽石、粗砂混入②良好③淡黄色			
59	深鉢		U-8	①軽石、粗砂混入②良好③灰色			
60	深鉢		e-76	①軽石、粗砂混入②良好③淡黄色			
61	深鉢		O-5	①軽石、礫・粗砂混入②良好③浅黄橙色			
62	深鉢		J-9	①軽石、粗砂混入②良好③浅黄橙色			
63	深鉢		H-17 I-12	①軽石、粗砂混入②良好③浅黄橙・灰色			
64	深鉢		R-9	①軽石、粗砂混入②良好③淡黄色			
65	深鉢		L-12	①軽石、粗砂混入②良好③灰白色			
66	深鉢		G-12	①軽石、粗砂混入②良好③鈍い黄橙色			
67	深鉢		O-12	①軽石、粗砂混入②良好③鈍い黄橙色			
68	浅鉢		N・P-12	①粗砂混入②良好③灰白色	口縁の内湾する浅鉢(68~70・74)と深鉢(71~73)がある。71は内面に、74は外面に煤状炭化物が付着する。 文様は、糸線文が施文されるが、68は4本、69は3本、73は10本、70~72・74は6~7本の帯面状工具による。71は幅広い沈線文が、72は微隆起帯が並下する。74はL.縄文を施文した後に糸線文が施され、72は糸線文とR.L.縄文が施文される。		
69	浅鉢		L-5	①軽石、粗砂混入②良好③灰黄色			
70	浅鉢		G-9	①軽石、粗砂混入②良好③灰白色			
71	深鉢		J-14	①軽石、粗砂混入②良好③淡黄・灰色			
72	深鉢		表探	①粗砂混入②良好③鈍い黄橙色			
73	深鉢		U-8	①粗砂混入②良好③淡黄色		加E4式	
74	浅鉢		I-12	①粗砂混入②良好③灰黄色		加E3式	
75	深鉢		A・J-3 J・O-6	①粗砂混入②良好③淡黄・灰色		4単位の波状口縁を呈し、口縁の内湾するキャリパー状の器形となる。口唇下に微隆起帯をめぐるせもの(75・77・78)と細沈線をめぐるせもの(76)がある。76・77は口唇下に2列の円形刺突文、75・78は微隆起帯下に1列の刺突をもつ。細沈線でV字状を描き、区画内に縄文を充填。76は0段3条R.L.、77はR.L.、78はL.R.	加E4式
76	深鉢		L-5	①粗・細砂混入②良好③黄灰色			
77	深鉢		S-9	①粗砂混入②良好③淡黄色			
78	深鉢		Q-6・7	①礫・粗砂混入②良好③浅黄・黄灰色			
79	深鉢		L-6	①粗砂混入②良好③淡黄・黄灰色			
80	深鉢		U・R-7 Y-8	①粗砂混入②良好③淡黄色	79~80は波頂部に1個の橋		

番号	器形	大きさ	出土位置	①胎土 ②施成 ③色調 ④残存	器形・文様の特徴	備考
81	深鉢		I-2	①軽石、粗砂混入②良好③淡黄色	状把手が付く。83は波頂下に瘤状の小突起が付く。79は内面に、81・83は外面に、82・87は外面にそれぞれ煤炭灰化物が付着する。	
82	深鉢		J-9	①軽石、粗砂混入②良好③浅黄・灰色		
83	深鉢		K-7	①糠・粗砂混入②良好③灰黄褐色	文様は櫛状工具を施文具とした細比線によって構成される。胴部上半にV字状と楕円状の文様が交互に施文されるもの(80・83・87)とV字状のみが施文されるもの(79・81・85・88・89)の他に、口縁から胴部下位にかけて口状文を垂下させるもの(82)もある。79・82~84は、口唇下に一条の比線をめぐらせるが、80・82は隙間起帯をめぐらせる。各文様の区画内には縄文が充填される。79・80・82・86・89はL R、81・85・88はR L、83・84・87は0段3条R Lである。	加 E 4 式
84	深鉢		Q-8	①粗砂混入②良好③灰白色		
85	深鉢		U-8	①粗砂混入②良好③灰白色		
86	深鉢		V-4	①石英質、粗砂混入②良好③淡黄色		
87	深鉢		表 探	①粗砂混入②良好③浅黄色		
88	深鉢		J-6	①粗砂混入②良好③鈍い黄褐色		
89	深鉢		Q-6	①粗砂混入②良好③淡黄色		
90	深鉢		表 探	①粗砂混入②良好③灰白色	口縁が直立ぎみに開口し、胴部で括れないもの(90~92・94・98)と、口縁が内湾して胴部中位で若干括れるもの(93・95・96・97)とがある。95は外面に、96は内面に煤炭灰化物が付着する。91は口唇下に、両面穿孔による径8mmの補修孔がみられる。98は前面の風化が著しい。	
91	深鉢		L-8	①粗砂混入②良好③浅黄・灰色	文様は、口唇下に幅広い無文帯をめぐらせるが、その下位にV字状・口状の微隆起帯文を交互に配するもの(90・93・95)と、平行状の微隆起帯を垂下させるもの(91・92・94・98)とがある。83は横位と口状の微隆起帯の接点に瘤状の小突起が付される。区画内には縄文が充填されるが、97のR Lを除いて、全てがL R縄文である。	
92	深鉢		L-8	①粗砂混入②良好③灰色		
93	深鉢		U-8	①粗砂混入②良好③鈍い黄橙・灰黄色		
94	深鉢		K-7	①軽石、粗砂混入②良好③浅黄色		
95	深鉢		J-12	①粗砂混入②良好③淡黄色		
96	深鉢		U-8	①粗砂混入②良好③浅黄色		
97	深鉢		U-8	①粗砂混入②良好③浅黄色		
98	深鉢		Q-6・7	①糠・粗砂混入②良好③淡黄色		
99	深鉢		R-7	①石英、粗砂混入②良好③鈍い黄褐色	口唇下に無文帯をめぐらせるが、小さな櫛状把手を付す。以下にL R縄文を施文する。	
100	深鉢		R-7	①軽石、粗砂混入②良好③淡黄色	細比線によりJ字状文を指し、区画内にL R縄文を充填する。	称名寺1式
101	深鉢		表 探	①粗砂混入②良好③淡黄色	細比線により8の字状の文様を織く。	堀之内1式
102	把手		Q-6・7	①粗砂混入②良好③淡黄色	鳥類か両生類の頭部を模した把手である。	称名寺1式
103	把手		表 探	①粗砂混入②良好③灰白色	両生類を模した把手である。	加 E 4 式
104	冴形土器		b-18	①粗砂混入②良好③灰白色	6位のNo.6と同様の土器であり、底部に孔をもつと推定される。外面はヘラ研磨され、ターレット状の炭化物が付着する。	
105	深鉢	底(5.0)	表 探	①粗砂混入②良好③灰白色	107・108は平坦な底部であるが、105は上げ底状を呈する。文様は105が7本歯の櫛状工具により条線文が施される。106・107は半截竹管による平行条線文が施され、区画内にL R縄文が充填される。	加 E 3 式
106	深鉢	底(7.0)	K-5	①粗砂混入②良好③灰白色		
107	深鉢	底(6.0)	L-6	①粗砂混入②良好③鈍い黄褐色		

遺構外の出土遺物

番号	器形	大きさ	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調 ④残存	器形・文様の特徴	備考
108	深鉢	底(8.0)	表探	①粗砂混入②良好③鈍い黄褐色	108~116は割部下位から底部にかけての破片で、無文となっている。底部の成形は、粘土を円板状にして、その上面に割部の粘土を積み上げるものが主体となるが、109のように、円板の側面に割部の粘土を貼付するものもみられる。115は支脚状の小さな底部をもち、116は高台状の底部となる。 110は内側に煤状の炭化物が付着している。	加 E 3 式
109	深鉢	底(7.5)	表探	①礫・粗砂混入②良好③鈍い黄褐色		
110	深鉢	底(7.0)	K-7	①粗砂混入②良好③淡黄色		
111	深鉢	底(5.5)	Q-7	①粗砂混入②良好③淡黄色		
112	深鉢	底(7.0)	L-10	①軽石・粗砂混入②良好③淡黄色		
113	深鉢	底(6.5)	L-16	①粗砂混入②良好③灰白色		
114	深鉢	底(4.0)	Q-6・7	①粗砂混入②良好③灰黄色		
115	深鉢	底(3.4)	G-9	①粗砂混入②良好③鈍い褐色		
116	深鉢	底(5.4)	G-1	①粗砂混入②良好③灰色		

弥生土器・土師器・その他

(単位: cm)

番号	器形	大きさ	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調 ④残存	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
117	弥生 甕	頸(9.3) 胴(14.1)	U-79	①軽石・赤色粘土・砂粗粒②酸化③淡褐色④ㄥ	胴部に最大径をもつ壺。器内は均一。	粘土紐巻きあげ成形。 外面 段磨き、先端丸い棒状工具で施文。内面 指押え、荒削。	外面胴一部黒灰。須和田式。
118	弥生 深鉢	口(21.3)	表探	①砂・軽石・黒雲母粗粒②酸化③にぶい橙④ㄥ	底部から直線的に外反しなごら立ちあがる。最大径は口縁部にあり、器内は均一。	粘土紐巻きあげ成形。 外面 段磨き、先端丸い棒状工具で施文。内面 指押え、荒削。	口辺に小さな突起が1箇所付く。弥生中期。
119	土師器 杯	口(12.6)	L-6	①軽石・赤色粘土粗粒②酸化	口唇部が僅かに内湾する素縁口辺の杯。底部は丸底。	外面 口辺部横削、底部段削り・段磨き。内面 横削、放射状段研磨。	③橙④ㄥ
120	土師器 杯	口(13.5)	L-6	①軽石細粒、水磨し粘土②酸化	口辺部は短かく外反。最大径は底部にある。	外面 口辺部横削、底部段削り。内面 口辺部横削、底部荒削。	③橙④ㄥ
121	土師器 杯	口(14.5)	L-6	①赤色粘土・砂・軽石粗粒	素縁口辺の杯。底部丸底。	外面 口辺部横削、底部段削り。内面 横削、放射状段研磨。	②酸化③橙④ㄥ
122	土師器 杯	口(14.0)	L-6	①軽石細粒②酸化③橙④ㄥ	素縁口辺の杯。丸底。	外面 口辺部横削、底部段削り。内面 口辺部横削、底部荒削。	
123	土師器 杯	口(14.1)	L-6	①黒雲母細粒②酸化③赤褐色④ㄥ	口唇部は短かく、外反する。丸底。	外面 口辺部横削、底部段削り。内面 口辺部横削、底部荒削。	
124	土師器 壺	口 15.4	L-6	①黒雲母・砂粗粒②酸化③淡褐色	口縁部は短く、「く」の字状に外反、接合部は器内厚い。	外面 口縁横削、胴部段削り・刷毛目・荒削。内面 口縁刷毛目、胴部磨。	③ㄥ。粘土紐巻きあげ成形。
125	土師器 壺	口(12.7)	L-6	①軽石細粒②酸化③にぶい橙	口縁部は短かく外反する。最大径は胴部にある。	内・外面 口縁部横削、胴部指押・横方向段無整形。	④ㄥ。外面に炭灰吸着。
126	土師器 壺	胴部破片	L-6	①黒雲母細粒、石英粗粒②酸化	胴部が大きく張り、くびれた頸部から口縁部は外反。	外面 縦・横段磨き。内面 縦方向段磨き。	③淡黄褐色④破片
127	土師器 壺	底(6.0)	L-6	①黒雲母細粒、石英粗粒②酸化	平底、中央は器内が薄い。	外面 胴部段削り・段磨き、底部段削り。内面 器面列磨で整形不明。	③淡黄褐色④ㄥ
128	土師器 壺	底 7.5	L-6	①黒雲母・軽石・石英粗粒	平底から、胴部は直線的に外反し立ちあがる。	外面 胴部段削り・底部段削り。内面 荒削、刷毛目整形。	②酸化③淡黄褐色④ㄥ弱

瓦紙北原遺跡

番号	器種	大きさ	出土状態	①胎土 ②焼成 ③色調 ④残存	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
129	須恵器 蓋	つまみ2.9 口 13.6	表 採	①精選良好②選 取③灰④全	つまみは小さく、中央が凹 状、先端は丸い。器高低い。	口ロコ成形。ココナデ整形。	
130	古銭	径 2.4	表 採	④完全	明治年代・1639～1668年(寛永16～寛文8年)		寛永通宝

石 器

(単位: cm・g)

番号	器種	大きさ・重量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴	備 考
131	三角錐形 石器	長 125 幅 6.6 厚 5.9 重 588	E'-66	黒色頁岩	横断面が台形を呈し、真・右側面に自然面を残す。左・右側面→表面→底面の順で加工され、表面中央部には大きな割離が施されて括れている。頭部に打痕が認められる。	131～139は礫(黒色頁岩)を素材として、整形加工を施し、三角錐および四角錐状の形態に仕上げられた石器である。体部の一面(真面)に自然面を残すことが多い。石器の製作工程は、体部を加工した後に、複数回の割離によって底面(スタンピング石器の分割面に相当する)を作り出す。側面の縁部には、連続した微細な加工痕が認められるが、その割離方向は基本的に側面の整形加工方向と一致している。これらの微細な加工痕の中には、打製石片にみられるようなつぶれと区別できないものも認められる。底面の割離面は磨減せずに新鮮であり、真面と底面との角度は鋭角をなす。底面付近の体部両縁には、底面方向からの小割離痕が若干認められるものもある。
132	三角錐形 石器	長12.0 幅 7.2 厚 3.7 重 315	C'-64	黒色頁岩	横断面が三角形に近い台形を呈し、表面と裏面の一部に自然面を残す。左・右側面→真面→底面の順で加工され、体部の中央は左右両側面より大きな割離が施されて括れている。	
133	三角錐形 石器	長12.6 幅 6.3 厚 5.3 重 430	D'-62	黒色頁岩	横断面が四角形を呈し、裏面と左側面に自然面を残す。右側面→表面→左側面→真面→底面の順で加工される。表面の底部に近接した左右縁部は、敲打されてつぶれている。	
134	三角錐形 石器	長14.1 幅 5.2 厚 5.8 重 516	C'-62	黒色頁岩	横断面が四角形を呈する。体部中央で二つに折れて別々の地点より出土したが、接合した。左・右側面、裏面の一部に自然面を残し、表面→左・右側面→真面→底面の順に加工される。表面には大きな割離が施され、括れている。底面付近の表面左右縁部は、つぶれが認められる。	
135	三角錐形 石器	長 9.1 幅 5.8 厚 4.3 重 255	Y-65	黒色頁岩	横断面が台形を呈する。裏面に自然面を残し、表面→左・右側面→底面の順に加工される。左右両側面の割離は表面および裏面方向から錯交的に施される。側縁部にはつぶれが認められる。	
136	三角錐形 石器	長(8.0) 幅 5.1 厚 5.0 重(288)	表 採	黒色頁岩	横断面が四角形を呈し、右側面・裏面と左側面の一部に自然面を残す。表面→左側面→底面の順で加工される。頭部から体部の約1/3を欠損している。	
137	三角錐形 石器	長 8.5 幅 5.6 厚 4.4 重 258	表 採	黒色頁岩	横断面が四角形を呈し、裏面に自然面を残す。右側面→表面→左側面→底面の順で加工される。	
138	三角錐形 石器	長(8.9) 幅 6.8 厚 5.0 重(362)	表 採	黒色頁岩	横断面が四角形を呈する。頭部を欠損し、左右側面と裏面に自然面を残す。表面の加工は左側縁→右側縁の順で行われる。裏面の左右縁部の一部に、敲打によるつぶれが認められる。	
139	三角錐形 石器	長 8.3 幅 6.4 厚 4.3 重 291	表 採	黒色頁岩	横断面が四角形を呈し、表面から左側面・裏面にかけて、自然面を残す。底面付近の右側縁縁部に、敲打によるつぶれが認められる。右側縁→底面の順に加工。	
140	三角錐形 石器	長10.6 幅 8.0 厚 3.9 重 442	表 採	黒色頁岩	左・右両側縁が挿入状に加工され、右側縁には敲打によるつぶれが認められる。底面の調整加工は、上縁から下縁に向って行なわれている。	140～145は黒色頁岩の棒状礫を素材とした三角錐形石器である。側縁を挿入状に加工するものとしないものととの両者が存在する。挿入状の側縁には微細な
141	三角錐形 石器	長10.7 幅 4.6 厚 6.3 重 357	A'-61	黒色頁岩	右側縁のみ挿入状に加工されるが、その縁部には若干のつぶれが認められる。底面の調整加工は、上縁から下縁に向って行なわれている。	

遺構外の出土遺物

番号	器種	大きさ・重量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴	備要
142	三角錐形 石器	長 8.6 幅 4.2 厚 3.6 重 209	A'-67	黒色頁岩	左側縁のみ、挟入状に加工される。底面から体部にかけての約1/3を欠損している。頭部にはわずかに敲打痕が見られる。	調整加工とともに、その腰部をつぶすような加工痕も認められる。底面は複数回の割離によって作出されるが、いずれの割離面も磨滅することなく新鮮である。
143	三角錐形 石器	長12.6 幅 7.2 厚 4.7 重 489	C'-65	黒色頁岩	左・右側縁は挟入状に加工されるが、右側縁の方が大きく挟れている。両側縁の腰部には、つぶれが認められる。底面は上端からの加撃によって作出された後に、下端に細かい割離が施される。両側縁一定面の順に加工。	
144	三角錐形 石器	長 9.5 幅 6.0 厚 4.2 重 297	表 採	黒色頁岩	側縁は加工されないが、底面は2回の大さな割離によって作出される。	
145	三角錐形 石器	長(6.3) 幅 5.9 厚 3.3 重(191)	C'-62	黒色頁岩	左側縁のみ加工されるが、下半部は欠損しているために不明である。	
146	スタンプ 形石器	長11.4 幅 7.8 厚 4.1 重 592	A'-64	輝石安山岩 (粗粒)	右側縁から頭部にかけて加工されるが、その腰部にはつぶれが認められる。分割面の上縁には、細かい割離が施される。右側縁→分割面の順に加工される。	146-152は棒状および扁平な粒粒(輝石安山岩等)の河床礫を素材として、その一端を折り取るように分割し、平面面を作り出す。側縁を挟入状に加工するものと、しないものの両者が認められる。また、挟入状の側縁には、その腰部をつぶすような加工も認められる。分割面は基本的に1回の加撃によって作出されるが、若干の細部調整を行うものもある。また分割面の周縁や突出部分、磨耗している例も認められる。
147	スタンプ 形石器	長11.7 幅10.9 厚 4.9 重 585	C'-63	変質安山岩	扁平な礫を素材として、右側縁にのみ挟入状の割離を施す。腰部につぶれが認められる。底面は下端からの加撃により打割された後に、左縁を加工して形状修正されているが、面界線がやや突出して湾曲している。	
148	スタンプ 形石器	長10.8 幅 8.3 厚 4.5 重 588	D'-02	輝石安山岩 (粗粒)	左右両側縁を挟入状に加工し、更に側縁腰部を敲打によってつぶしている。頭部から表・裏面の中央部にかけて、敲打痕が認められる。分割面の突出部分は、磨耗し、分割面付近の体部周縁には不連続の小割離痕が認められる。	
149	スタンプ 形石器	長10.3 幅 6.4 厚 4.2 重 522	b-18	変質安山岩 (粗粒)	両側面や表面に、火熱によると思われる剥落がある。右側縁に敲打痕が認められ、分割面は右縁に欠損している。	
150	スタンプ 形石器	長13.2 幅 7.0 厚 5.1 重 686	Y-12	石英閃緑岩	裏面右腰部と、表面の頭部近くに敲打痕が認められる。分割面は1回の打撃により作出され、その周縁は磨耗している。分割面付近の体部周縁に、不連続の小割離痕が認められる。	
151	スタンプ 形石器	長10.6 幅 7.3 厚 3.4 重 389	A'-67	グラノファイヤー	頭部およびそれに近接した表・裏面に、敲打痕が認められる。分割面の右縁に小割離痕が見られる。	
152	スタンプ 形石器	長 9.5 幅 6.8 厚 3.5 重 369	b-18	黒色頁岩	分割面付近の表面には、分割面方向からの小割離痕が認められる。	
153	礫石	長(8.8) 幅10.0 厚 2.6 重(413)	E'-65	黒色頁岩	扁平な河床礫を素材とする。右側面腰部には敲打痕が認められる。下半部は欠損している。	
154	有角尖頭 器	長(4.6) 幅 1.3 厚 0.3 重 214	表 採	黒色頁岩	基部および先端部を欠損するが、細身の有角尖頭器と思われる。表・裏面ともに押圧割離によって加工されている。	
155	石鏃	長 1.9 幅 1.2 厚 0.3 重 0.8	表 採	チャート	凹基無茎鏃である。基部を除いた表・裏面に、微細な割離を施す。	
156	石鏃	長(2.6) 幅 2.1 厚 0.4 重 1.6	表 採	黒色頁岩	凹基無茎鏃である。先端部および右側縁の返し部を欠損する。裏面に第一次割離面を残し、表面に比べて裏面の加工は粗い。	
157	石鏃	長(2.7) 幅 1.6 厚 0.3 重 1.0	表 採	流紋岩(?)	凹基無茎鏃である。先端部を欠損する。表面の側縁には微細な割離が施されるが、裏面はやや粗い。	

荒砥北原遺跡

番号	器種	大きさ・重量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴	備要
158	石鏃	長(2.8) 幅 1.9 厚 0.5 重 1.7	K-11	黒色頁岩	平基有蓋鏃である。基部が欠損する。やや厚みのある鏃で表・裏面に緻細な押圧刻離が施される。	
159	石匙	長(6.1) 幅 3.2 厚 1.0 重 (20)	R-7	黒色頁岩	縦型である。つまみ部分および先端部が欠損する。表一面の順で加工される。	
160	石匙	長(2.8) 幅 2.8 厚 0.8 重 (7)	表・深	黒色頁岩	横型である。つまみ部および刃部が欠損する。表一面の順で加工される。	
161	楔形石器	長 3.6 幅 2.2 厚 0.8 重 8	Q-6・7	黒色安山岩	161～164は、不定形の削片を素材として、上下両面に両極刻離痕をもつものである。161～163は縦長削片を、164は横長削片をそれぞれ素材としている。	
162	楔形石器	長 3.0 幅 3.0 厚 0.8 重 7	Q-7	黒色安山岩		
163	楔形石器	長 4.0 幅 3.5 厚 0.7 重 13	Q-6・7	黒色安山岩		
164	楔形石器	長 3.5 幅 4.2 厚 0.8 重 12	L-12	黒色安山岩		
165	削器	長 4.7 幅 3.2 厚 1.1 重 19	Q-6・7	黒色安山岩	165～170は、平面形が木葉形を呈し、小型でやや厚みのある石器である。不定形な削片を素材とするが、裏面のバルブを除去するような加工を行うとともに、表裏両面に刃部調整とも思える求心的な刻離を施す。	
166	削器	長 4.5 幅 3.2 厚 1.3 重 20	Q-6・7	黒色安山岩	165～167は裏面にやや細かい刻離が施され、166の下縁には刃こぼれ状の使用痕が認められる。170は表・裏面の周縁に緻細な刻離を施す。165は表一面、166～170は裏一面の順に加工される。	
167	削器	長 3.8 幅 3.0 厚 1.4 重 13	Q-6・7	黒色安山岩		
168	削器	長 4.0 幅 3.2 厚 1.4 重 19	Q-6・7	黒色安山岩		
169	削器	長 3.5 幅 3.1 厚 0.8 重 (11)	Q-6・7	黒色安山岩		
170	削器	長 2.2 幅 1.7 厚 0.4 重 1	C'-62	チャート		
171	削器	長 2.4 幅 3.3 厚 0.6 重 4	Q-6・7	黒色安山岩	横長削片を素材とする。表・裏面の周縁に細かい刻離が施され、裏一面の順で加工される。	171～192は不定形な削片を素材として、裏面のバルブを主に表面からの刻離によって除去し、側縁に調整加工を施すものである。そのほとんどが裏一面の順に加工されている。
172	削器	長 2.9 幅 4.0 厚 1.1 重 9	Q-6・7	黒色安山岩	横長削片を素材とする。下縁の刃部に刃こぼれ状の使用痕が認められる。裏一面の順に加工される。	
173	削器	長 2.8 幅 3.5 厚 0.9 重 (7)	Q-5	黒色安山岩	横長削片を素材とする。刃部は粗い刻離によって作出され、左下縁が欠損する。裏一面の順に加工される。	
174	削器	長 3.0 幅 2.5 厚 0.8 重 5	Q-6・7	黒色安山岩	縦長削片を素材とする。右側縁の一部をわずかに加工し、左側縁に刃こぼれ状の使用痕が認められる。	
175	削器	長 3.5 幅 3.5 厚 1.0 重 10	F-2	黒色安山岩	素材は横長削片。周縁に刃部調整をほとんど施さないが、左側縁の一部に刃こぼれ状の使用痕が認められる。	
176	削器	長 2.7 幅 4.3 厚 0.9 重 9	Y-8	黒色安山岩	横長削片を素材とする。下縁が欠損。裏面のバルブを裏面からの刻離で折り取るように除去する。	
177	削器	長 3.9 幅 6.1 厚 0.9 重 26	Q-6・7	黒色安山岩	横長の削片を素材とする。下縁には表面からの細かい刻離が施され、刃こぼれ状の使用痕が認められる。	

番号	器種	大きさ・重量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴	備考
178	削器	長 3.8 幅 4.8 厚 1.0 重 19	Q-6・7	黒色安山岩	横長の削片を素材とする。裏面の上・下縁辺に細かい刻離が施される。	
179	削器	長 4.4 幅 5.4 厚 1.4 重 31	Q-6・7	黒色安山岩	裏面のバルブを裏一表へ向かって折り取るように刻離される。裏面の周縁にやや粗い加工が施される。	
180	削器	長 4.3 幅 4.5 厚 1.4 重 30	Q-6・7	黒色安山岩	横長の削片を素材とする。下縁に裏面からの細かい刻離が施される。	
181	削器	長 4.0 幅 3.3 厚 1.0 重 13	Q-6・7	黒色安山岩	縦長の削片を素材とする。表面の下縁から右側縁にかけて、やや粗い刻離を施す。	
182	削器	長 3.6 幅 3.4 厚 0.9 重 12	Q-7	黒色安山岩	縦長の削片を素材とする。表面に粗い刻離を施し、下縁に刃こぼれ状の使用痕が認められる。	
183	削器	長 4.3 幅 4.0 厚 0.8 重 12	Q-6・7	黒色安山岩	縦長の削片を素材とする。左側縁に裏面からの細かい刻離を施す。	
184	削器	長 5.1 幅 4.9 厚 1.4 重 30	Q-7	黒色安山岩	三角形の削片を素材とする。表面に粗い刻離を施す。	
185	削器	長 5.2 幅 4.0 厚 0.8 重 16	Q-6・7	黒色安山岩	縦長の削片を素材とする。裏面のバルブを裏一表への刻離で折り取るように除去する。	
186	削器	長 5.7 幅 3.7 厚 1.2 重 (24)	Q-6・7	黒色安山岩	縦長削片を素材とする。右側縁を欠損。裏面を中心にやや粗い刻離を施す。下縁・左側縁に使用痕が認められる。	
187	削器	長 7.0 幅 4.4 厚 1.2 重 49	ε-63	黒色頁岩	縦長の削片を素材とする。表面は粗い求心的な整形加工が施され、左側縁には細かい刻離が認められる。周縁には、刃こぼれ状の使用痕が認められる。	
188	削器	長 7.8 幅 6.3 厚 1.7 重 101	H-10	黒色頁岩	縦長の削片を素材とする。裏面からの刻離によって、裏面のバルブを折り取るように除去する。	
189	削器	長 6.8 幅 6.3 厚 2.2 重 72	H-2	黒色頁岩	横長削片を素材とし、表面に自然面を残す。下縁に表面から細かい刻離を施し、右側縁から下縁にかけて刃こぼれ状の使用痕が認められる。	
190	削器	長 5.7 幅 4.0 厚 0.9 重 26	P-4	黒色安山岩	縦長の削片を素材とする。左右の側縁に細かい刻離を施す。	
191	削器	長 4.7 幅 6.6 厚 1.5 重 49	Q-6・7	黒色頁岩	横長削片を素材とし、表面に自然面を残す。下縁に刃こぼれ状の使用痕が認められる。	
192	削器	長 4.0 幅 7.4 厚 1.3 重 34	表探	黒色頁岩	横長の削片を素材とする。表裏に第1次刻離面を残し、周縁に粗い調整加工が施される。	
193	削器	長 5.3 幅 8.3 厚 2.2 重 119	S-18	黒色頁岩	表裏両面に刻離を施した後、上・下縁を折り取っている。左側縁は表一裏、右側縁は裏一表の順に加工され、右側縁には微細な刻離が施されている。	
194	削器	長 3.0 幅 7.6 厚 2.8 重 48	G-16	黒色頁岩	表面に自然面を残し、周縁に細かい刻離が施される。右側縁に刃こぼれ状の使用痕が認められる。	194~198は、不定形削片を素材として、一端を折り取った後に、折断部を除いた周縁に調整加工を施したものである。
195	削器	長 3.7 幅 5.7 厚 1.3 重 33	表探	黒色頁岩	表面を中心に細かい刻離が施され、右側縁から下縁にかけて刃こぼれ状の使用痕が認められる。	
196	削器	長 5.0 幅 5.6 厚 0.6 重 18	O-8	黒色頁岩	下縁に裏一表への細かい刻離を施すが、同部位には刃こぼれ状の使用痕も認められる。	

瓦葺北原遺跡

番号	器 種	大きさ・重 量	出土位置	石 質	形 状 ・ 調 整 加 工 の 特 徴	備 考
197	削器	長 5.8 幅 5.1 厚 0.9 重 32	b-18	黒色頁岩	表面に自然面を残す。下縁の一部に表面からの細かい剥離が施され刃こぼれ状の使用が認められる。	
198	削器	長 7.1 幅 6.8 厚 1.5 重 85	L-5	黒色頁岩	表面に自然面を残す。下縁から右側縁にかけて、表面からの細かい剥離が施される。	
199	削器	長 4.5 幅 4.8 厚 1.5 重 (36)	F-18	黒色頁岩	右側縁に裏→表への粗い剥離を施す。左側縁に刃こぼれ状の使用痕が認められる。下端を欠損する。	
200	削器	長 4.1 幅 3.1 厚 1.5 重 15	S-9	黒色頁岩	左右両側縁に細かい剥離が施されるが、右側縁は裏→表、左側縁は表→裏の順で加工される。	
201	削器	長 9.4 幅 7.8 厚 2.1 重 168	D'-51	黒色頁岩	表面に自然面を残す。左右両側縁には、細かい片面調整が施される。	199～201は、不定形の縦長削片を素材として、裏面のバルブを除去せずに側縁に細かい調整加工を施すものである。
202	鎌器	長 6.2 幅 8.8 厚 2.4 重 145	表 採	黒色頁岩	楕円形状の扁平な自然石を素材として、表面を中心に剥離を施す。刃部は粗い剥離で作出され、刃こぼれ状の使用痕が認められる。	
203	使用痕ある削片	長 5.9 幅 7.6 厚 1.2 重 65	表 採	黒色頁岩	203～213は不定形削片を素材とするが、その両縁にほとんど調整加工を施さないものであり、刃こぼれ状の使用痕が認められる。	
204	使用痕ある削片	長 7.7 幅 6.2 厚 1.1 重 56	b-18	黒色頁岩	203・204・207・209・210・212は表面に自然面を残す。211～213は一側縁を折り取り、その折断部分を機能部としている。213の表面には、火熱による剥離が認められる。	
205	使用痕ある削片	長 5.5 幅 6.9 厚 0.8 重 30	表 採	黒色頁岩		
206	使用痕ある削片	長 3.1 幅 6.9 厚 1.7 重 21	I-9	黒色頁岩		
207	使用痕ある削片	長10.1 幅 4.6 厚 0.8 重 41	表 採	黒色頁岩		
208	使用痕ある削片	長 4.8 幅 3.2 厚 0.7 重 13	c-76	黒色頁岩		
209	使用痕ある削片	長 7.1 幅 4.6 厚 1.0 重 37	L-11	黒色頁岩		
210	使用痕ある削片	長 5.5 幅 4.9 厚 0.8 重 24	F-6	灰色安山岩		
211	使用痕ある削片	長 4.5 幅 4.4 厚 0.8 重 23	Q-6・7	黒色安山岩		
212	使用痕ある削片	長 6.5 幅 4.9 厚 1.8 重 53	H-10	珪質安山岩 (黒色頁岩)		
213	使用痕ある削片	長10.3 幅 5.2 厚 1.9 重 91	K-13	黒色頁岩		
214	鎌器	長17.9 幅 8.5 厚 4.8 重1198	A'-65	灰色安山岩	縦長い河床礫を素材として、体部下平のみに粗い剥離を施す。刃部の剥離面には、磨耗痕が認められる。表→裏の順に加工される。	
215	打製石片	長15.5 幅12.3 厚 3.0 重 842	表 採	黒色頁岩	短冊形、扁平な礫を素材として、主に裏面を加工する。表面の両側縁中央に、抉入状の剥離を施す。	

番号	器 種	大きさ・重量	出土位置	石 質	形状・調整加工の特徴	備 考
216	打製石斧	長13.7 幅 5.6 厚 1.5 重 140	J-4 K-14	黒色頁岩	短冊形。体部中央で二つに折れて、別々の地点より出土したが、接合した。刃部から体部中央にかけて、縦方向の磨耗痕が認められ、頭部付近の両側縁につぶれが認められる。	216～231は表・裏面の両側縁に、連続した微細な刻離が施された打製石斧である。頭部や刃部付近の側縁および両側縁の縁部に、つぶし状の加工を施したのも認められる。
217	打製石斧	長10.6 幅 4.3 厚 1.6 重 105	H-13	輝石安山岩 (細粒)	短冊形。刃部はわずかに磨減し、その付近の両側縁につぶれが認められる。表・裏の縁に加工される。	
218	打製石斧	長11.3 幅 4.8 厚 1.3 重 103	C'-66	黒色頁岩	短冊形。表面に自然面を残す。刃部に刃こぼれ状の使用痕をもつ。頭部および刃部付近の両側縁につぶれが認められる。左側縁は表・裏、右側縁は裏・表の順に加工。	
219	打製石斧	長12.0 幅 4.7 厚 1.5 重 104	表 採	黒色頁岩	短冊形。表面の一部に自然面を残す。刃部から体部中央にかけて、縦方向の磨耗痕が認められる。また、頭部付近の両側縁につぶれが認められる。	
220	打製石斧	長10.6 幅 5.3 厚 1.3 重 65	Q-5	黒色頁岩	短冊形。表面の一部に自然面を残す。刃部におおむね刃こぼれ状の使用痕が、また、頭部付近の右側縁につぶれが認められる。裏・表の順に加工される。	
221	打製石斧	長(5.5) 幅 4.0 厚 1.0 重 (49)	I-12	灰色安山岩	短冊形。表面に自然面を残し、体部上半を欠損する。刃部はわずかに磨減し、両側縁につぶれが認められる。	
222	打製石斧	長(5.0) 幅 5.6 厚 1.5 重 (46)	L-6	灰褐色安山岩	短冊形。表面に自然面を残し、体部上半を欠損する。刃部から体部にかけて磨減し、右側縁にはつぶれが認められる。左側縁は表・裏、右側縁は裏・表の順に加工。	
223	打製石斧	長(6.8) 幅 3.7 厚 1.2 重 (31)	b-18	黒色頁岩	短冊形。表面に自然面を残す。頭部と体部下半を欠損する。左側縁は裏・裏、右側縁は裏・表の順に加工される。	
224	打製石斧	長13.4 幅 6.5 厚 3.6 重 338	b-18	黒色頁岩	短冊形。細長い鎌を素材として、片面を中心に粗い刻離を施すが、左側縁はほとんど加工されない。	
225	打製石斧	長11.9 幅 5.0 厚 1.4 重 105	O-6	黒色頁岩	短冊形。表面に自然面を残し、体部は反りをもつ。刃部の一部が欠損する。刃部から体部中央にかけて磨減しているが、表面はとくに著しい。	
226	打製石斧	長(9.0) 幅 5.8 厚 1.3 重(101)	S-9	黒色頁岩	短冊形。頭部を欠損する。刃部には使用による磨減が認められる。左側縁は表・裏、右側縁は裏・表の順に加工。	
227	打製石斧	長 8.1 幅 4.5 厚 0.9 重 37	J-14	黒色頁岩	短冊形。刃部に刃こぼれ状の使用痕が、また刃部付近の右側縁につぶれが認められる。	
228	打製石斧	長(5.2) 幅(3.5) 厚 1.0 重 (23)	Q-6・7	黒色安山岩	短冊形。上半部および左半部を欠損する。刃部・右側縁ともに裏面を中心に刻離が施される。	
229	打製石斧	長(9.5) 幅 7.4 厚 2.1 重(199)	b-18	灰色安山岩	短冊形。横長割片を素材とし表面に自然面を残す。刃部は細部調整加工されていないが、磨減している。両側縁中央部につぶれが認められる。	
230	打製石斧	長(5.0) 幅 3.5 厚 0.8 重 (15)	P-4	黒色頁岩	短冊形。表面に自然面を残し、上半部および刃部を欠損する。	
231	打製石斧	長(4.2) 幅 5.2 厚 2.3 重 (48)	J-13	灰色安山岩	短冊形。刃部を残すのみで、他を欠損する。刃部は裏面の片面刻離によって作出され、若干磨減している。	
232	打製石斧	長(11.5) 幅 8.0 厚 2.0 重(268)	I-12 J-9	輝石安山岩 (細粒)	撥形。頭部および刃部付近で3つに折れている。両側縁の袈入部にはつぶれが認められる。	

荒砥北原遺跡

番号	器種	大きさ・重量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴
233	打製石斧	長12.2 幅 7.3 厚 1.8 重 184	G-15	珉質頁岩	分銅形。表面に自然面を残し、上・下端の刃部は片面剃離によって作出される。両側縁の挟入部は磨減しているが、つぶれは左側縁にのみ認められる。上・下端の刃部を中心に縦方向の磨耗痕が認められるが、特に表面は顕著である。
234	打製石斧	長11.2 幅 6.5 厚 1.6 重 138	F-16	黒色頁岩(有孔虫化石含有)	分銅形。表面に自然面を残す。刃部は裏面の片面剃離によって作出され、刃こぼれ状の使用痕や磨耗痕が認められる。挟入部にはつぶれとともに、幅約3cmの帯状の磨耗痕が認められる。
235	磨製石斧	長10.0 幅 3.6 厚 1.8 重 103	F'-67	黒色頁岩	細長い棒を素材として、表・裏面の先端を研磨し刃部を作出する局部磨製石斧である。刃部は欠損しているが、複数の研磨面で構成されている。研磨は、刃部に対していずれも左上りの斜位になされている。
236	磨製石斧	長(6.0) 幅(4.8) 厚 2.5 重 (68)	G-16	安玄武岩	刃部を残すのみで、他を欠損する。全面に長軸に並行した研磨痕が認められ、裏面の刃部には縦方向の無継な棒状痕が認められる。
237	凹石	長12.0 幅 9.8 厚 5.0 重 575	J-9	輝石安山岩(粗粒)	237~242は、楕円形状の河床礫を素材として、中央部に集合打痕によるくぼみ穴をもつ。237は片面、238・239は両面、240~242は両面および側面にそれぞれ複数箇所のくぼみ穴をもつ。241のくぼみ穴はスリ鉢状を呈している。239・240は先端部に敲打痕が認められ、また239は表・裏面に磨り面が認められる。
238	凹石	長11.6 幅 7.3 厚 4.9 重 363	R-7	輝石安山岩(粗粒)	
239	凹石	長12.2 幅 8.4 厚 6.7 重 999	表 採	輝石安山岩(粗粒)	
240	凹石	長10.0 幅 7.5 厚 5.7 重 514	Q-75	輝石安山岩(粗粒)	
241	凹石	長10.2 幅 8.0 厚 2.8 重 329	Q-7	輝石安山岩(粗粒)	
242	凹石	長10.6 幅 8.4 厚 4.8 重 473	n-76	輝石安山岩(粗粒)	
243	敲石	長 9.5 幅 7.3 厚 4.3 重 (430)	表 採	輝石安山岩(粗粒)	243~248は、楕円形状の河床礫を粗材として、その側縁や周縁に敲打痕をもつものである。243・245・247・248は、先端および側縁に欠損が認められる。243は表裏両面に、244は裏面に磨り面をもつ。248は表面の中央部よりやや上端寄りに、敲打痕が認められる。
244	敲石	長 8.0 幅 4.5 厚 2.5 重 118	H-17	輝石安山岩(粗粒)	
245	敲石	長12.7 幅 8.8 厚 3.0 重 518	L-9	輝石安山岩(粗粒)	
246	敲石	長12.1 幅 7.9 厚 4.8 重 685	M-10	輝石安山岩(粗粒)	
247	敲石	長 6.2 幅 6.7 厚 5.5 重 361	J-15	黒色頁岩	
248	敲石	長14.5 幅 6.6 厚 2.5 重 403	J-6	輝石安山岩(粗粒)	
249	磨石	長11.8 幅 8.4 厚 3.8 重 555	H-12	輝石安山岩(粗粒)	249~253は、円形あるいは楕円形状の河床礫を素材として、片面および両面に磨り面をもつものである。250・251・253は両面に、249は片面に磨り面をもつ。252は裏面にわずかな斜位の棒痕が認められる。249・250は周縁に敲打痕が認められる。
250	磨石	長 9.2 幅 8.8 厚 5.3 重 536	表 採	輝石安山岩(粗粒)	
251	磨石	長 8.5 幅 8.1 厚 3.8 重 379	表 採	輝石安山岩(粗粒)	

遺構外の出土遺物

番号	器 種	大きさ・重 量	出土位置	石 質	形 状 ・ 調 整 加 工 の 特 徴
252	磨石	長11.7 幅 5.5 厚 2.2 重 229	b-18	灰色安山岩	
253	磨石	長 9.9 幅 8.9 厚 3.9 重 542	表 採	石英閃緑岩	
254	多孔石	長21.0 幅17.0 厚10.5 重3800	表 採	輝石安山岩 (粗粒)	立方体状の礫を素材として、その六面全てに籠状の凹凸形状を呈したくぼみ穴が、多数施されている。くぼみ穴は籠状のもの为主体であるが、わずかに集合打痕によるものも見られる。
255	石棒	長(7.5) 幅 6.5 厚 4.5 重(373)	表 採	石英閃緑岩	上下両端を欠損する。側面に敲打による加工痕を残し、器面全体は研磨されている。
256	裝飾品?	長 9.7 幅 1.9 厚 0.8 重 24	b-18	表理のある 細粒の緑岩	研磨によって整形され、下端に斜位の研磨痕が残っている。下端に穴につれて幅広となり、下端近くの中央部に両面穿孔による孔があげられている。孔の周縁には、孔を木槌形状に広げるような加工も施されている。垂れ飾りの一種かと思われる。
257	紡錘車?	長3.35 幅3.35 厚1.25 重 6	C-18	角閃石安山 岩	表面両面および周縁は研磨によって整形され、中央には径7mmの孔が表面より片面穿孔されている。

今井神社古墳群

1号墳出土遺物(第99図)

墳 輪

(単位:cm)

番号	形態	残存部	大 き さ	透孔(a×b)	突部(c×d)	刷毛目	色調	胎土	焼成	粘土層	備 考
			口径・底径・器高	第1・第2	円筒部・その他						
1	A	胴部	—→(5.7)	—	0.6×0.2	12	橙	E	G.f	2.0	

土 器

(単位:cm)

番号	器 種 類	大 き さ	出土状態	①粘土 ②焼成 ③色調 ④残存	器 形 の 特 徴	成・整形の特徴	備 考
2	須恵器 中室壺	胴 26.6	周縁埋土	①軽石粗粒燻還元、硬質③灰白④胴部少	胴部は、張りがあり丸みをおびる。胴部下に沈線通る。器内は0.8cm。	外面 横撫 内面 当目、横方向撫。	
3	土師器 高 杯	脚径 3.0	周縁埋土	①軽石・砂・赤色粘土粗粒燻酸化③浅黄橙	脚部は円錐形を呈す。内面下部は粘土層の接合痕残る。杯部嵌込式。	外面 ↑ 荒撫。 内面 絞り痕。↓ 指撫。	④脚部(短欠損)
4	土師器 高 杯	脚径 3.5	周縁埋土	①黒雲母・石英・砂・軽石粗粒燻酸化、良好	3と同様で内面下部は敷設。粘土層接合痕を1段残す。脚接合部は細い。	外面 ↑ 荒撫。 内面 絞り痕。上部一覽調整。	③浅黄橙④脚部(短欠損)
5	土師器 高 杯	脚径 3.3	周縁埋土	①黒雲母・軽石砂粗粒燻酸化、良好③浅黄橙	3・4と同様。脚接合部は細い。	外面 ↑ 荒撫。 内面 絞り痕。↓ 指撫。	④脚部破片
6	土師器 甕	径 (6.4)	周縁埋土	①黒雲母・軽石粗粒燻酸化③橙④少	口縁部は「く」の字状に外反。肩部に張りを呈す。器内は0.75cm。	口縁部 内外面共に横方向指撫。 外面 ↓ 指削り。 内面 指頭圧痕。	粘土粗粒1.6。
7	土師器 甕	底 (8.0)	周縁埋土	①石英・黒雲母粗粒、軽石粗粒燻酸化、良好	底部は僅かに凹底。胴中央部に張りを呈す。	外面 胴下部↑、底部横一覽削り。底部指押え、黄撫。 内面 刷毛目。	③橙④底部少

2号墳出土遺物(第105~116図、P.L42~46)

直刀・刀装具

(単位:cm)

番号	残存部	残存長	刃部	茎部	鍔	備 考
1	刃部	(24.4)	(24.4)	—	—	
2	刃～茎部	(10.5)	(2.1)	(8.4)	—	目釘穴1・目釘1・棟間・刃間
3	刃部	(16.3)	(16.3)	—	—	
4	#	(6.3)	(6.3)	—	—	
5	刃～茎部	(3.9)	(2.4)	(1.5)	—	棟間・刃間
6	#	(13.3)	(8.2)	(5.1)	3.5×2.0	目釘穴1・目釘1・棟間・刃間・鞘木部僅に残る。
7	#	(11.0)	(0.8)	(10.2)	3.5×1.8	目釘穴1・目釘1・棟間・刃間・鞘木部僅に残る。
8	把 縁	0.9×0.9	—	—	—	
9	両頭座金具?	2.6×0.4	—	—	—	

鉄 器

(単位: cm)

番号	名 称	残存部	残存長	鉄 身 部			寛 狭 部			茎 部		備 考	
				a	b	c	d	e	f	g	h		i
10	有茎棘皮杖	柄~茎	4.9	—	—	—	(0.7)	—	—	(4.2)	0.3	0.4	
11	"	"	5.8	—	—	—	(5.3)	0.25	0.6	(0.4)	—	—	
12	"	"	7.5	—	—	—	(4.5)	0.4	0.5	(3.0)	0.2	0.2	
13	"	"	6.7	—	—	—	(5.8)	0.3	0.7	(0.9)	—	—	
14	"	"	7.2	—	—	—	(0.8)	—	—	(6.4)	0.4	0.4	
15	"	刃~茎	(10.0)	2.0	0.3	0.8	—	—	—	—	—	—	

耳 環

(単位: cm・g)

番号	残存状態	外 径		内 径		断 面		重 量	備 考
		a	b	c	d	e	f		
16	完 形	3.30	3.05	1.55	1.42	1.00	0.87	32.21	<p>金属質が変化し、白い粉状に崩れる。他に1片程度の破片あり。</p>
17	ほぼ完形	(3.12)	(2.81)	1.50	1.35	0.90	0.84	23.35	
18	完 形	3.04	2.80	1.78	1.41	0.92	0.88	18.51	
19	完 形	3.35	3.00	1.64	1.25	0.90	0.90	30.94	
20	完 形	2.85	2.67	1.46	1.35	0.88	0.65	19.63	
21	ほぼ完形	(2.85)	(2.69)	(1.44)	(1.30)	(0.84)	(0.76)	19.63	
22	ほぼ完形	(3.20)	(2.92)	1.46	1.31	0.85	0.84	24.25	
23	完 形	2.98	2.74	1.35	1.44	0.78	0.70	19.02	
24	完 形	3.00	2.69	1.68	1.45	0.89	0.70	23.46	
25	ほぼ完形	(3.05)	(2.75)	1.72	1.51	0.78	(0.65)	18.60	
26	ほぼ完形	(3.16)	(2.85)	(1.80)	(1.59)	(0.86)	(0.74)	19.49	
27	ほぼ完形	(2.96)	(2.59)	(1.70)	1.46	(0.72)	(0.65)	11.67	
28	ほぼ完形	2.95	(2.66)	1.58	1.45	0.90	0.68	21.08	
29	欠、2片	(3.10)	(2.50)	(1.80)	(1.50)	(0.80)	(0.70)	(8.43)	
30	完 形	2.27	2.04	1.36	1.10	0.75	0.52	11.87	
31	完 形	2.33	2.11	1.26	1.10	0.80	0.55	11.71	
32	ほぼ完形	(1.90)	(1.82)	1.06	0.93	0.60	(0.50)	3.08	
33	完 形	1.72	1.66	0.94	0.95	0.61	0.45	4.10	

金銅製金具

(単位: cm・g)

番号	残存状態	タテ×ヨコ	幅	厚	重 量	備 考
34	周縁欠損	(5.2)×(8.4)	1.2	0.07	7.55	中央円形凸部周囲、8ヶ所に2個1対の小孔穿つ。紐を通した穴と思われる。

今井神社古墳群

管 玉

(単位：cm・g)

番号	残存状態	材 質	色 調	計 測 値						重 量	備 考
				a ₁	a ₂	b ₁	b ₂	d ₁	d ₂		
35	完 形	碧 玉	深 緑	2.85	2.92	1.02	1.04	0.32	0.30	5.73	■部位表記は小玉備考参照。
36	完 形	碧 玉	深 緑	2.79	2.82	0.81	0.80	0.35	0.15	3.05	
37	完 形	碧 玉	深 緑	2.35	2.20	1.00	0.96	0.25	0.16	3.66	
38	完 形	碧 玉	深 緑	2.13	2.10	0.65	0.66	0.26	0.13	1.45	

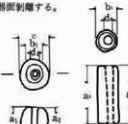
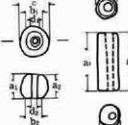
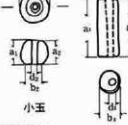

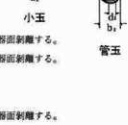
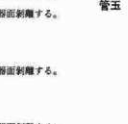
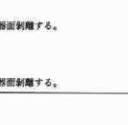
管 玉





(単位：cm・g)

番号	残存状態	材 質	色 調	計 測 値							重 量	備 考
				a ₁	a ₂	b ₁	b ₂	c	d ₁	d ₂		
39	ほぼ完形	琥珀	暗 赤	(2.75)	(2.74)	1.11	—	1.75	0.32	—	(2.52)	■部位表記は小玉備考参照。
40	完 形	琥珀	暗赤褐色	2.70	2.56	0.96	0.95	1.34	0.37	0.40	(2.62)	
41	ほぼ完形	琥珀	暗 赤	(2.00)	2.05	1.16	(1.16)	1.60	0.45	(0.35)	(2.12)	
42	破 損	琥珀	暗 赤	(1.90)	(1.95)	—	—	(1.45)	—	—	(0.41)	

小 玉

(単位：cm・g)

番号	残存状態	材 質	色 調	計 測 値							重 量	備 考
				a ₁	a ₂	b ₁	b ₂	c	d ₁	d ₂		
43	完 形	焼き物	黒 褐	0.49	0.51	0.68	0.69	0.80	0.13	0.15	0.37	■小玉は陶質の焼き物である。調整は、素焼き玉の各面を研磨した後、表面に炭素を吸着させている。
44	完 形	焼き物	黒 褐	0.45	0.50	0.62	0.64	0.76	0.19	0.20	0.31	
45	完 形	焼き物	黒 褐	0.41	0.48	0.59	0.70	0.84	0.17	0.15	0.39	
46	完 形	焼き物	黒 褐	0.35	0.40	0.58	0.61	0.77	0.19	0.20	0.29	
47	完 形	焼き物	灰 褐	0.40	0.41	0.59	0.50	0.74	0.18	0.20	0.25	器面剥離する。
48	完 形	焼き物	黒 褐	0.35	0.43	0.66	0.61	0.80	0.19	0.17	0.35	
49	完 形	焼き物	黒 褐	0.42	0.50	0.55	0.66	0.81	0.20	0.19	0.35	
50	完 形	焼き物	黒 褐	0.40	0.42	0.60	0.56	0.80	0.13	0.12	0.32	
51	完 形	焼き物	黒 褐	0.51	0.47	0.57	0.66	0.80	0.09	0.15	0.38	
52	完 形	焼き物	黒 褐	0.39	0.40	0.53	0.61	0.78	0.37	0.20	0.29	
53	完 形	焼き物	黒 褐	0.45	0.47	0.60	0.55	0.74	0.17	0.15	0.37	
54	完 形	焼き物	黒 褐	0.56	0.41	0.59	0.60	0.80	0.19	0.20	0.33	
55	完 形	焼き物	黒 褐	0.40	0.39	0.61	0.57	0.82	0.24	0.21	0.37	
56	完 形	焼き物	黒 褐	0.45	0.46	0.57	0.55	0.81	0.18	0.16	0.35	
57	完 形	焼き物	灰 褐	0.42	0.50	0.55	0.58	0.78	0.16	0.17	0.30	
58	完 形	焼き物	灰 褐	0.40	0.45	0.65	0.69	0.76	0.17	0.16	0.31	器面剥離する。
59	完 形	焼き物	黒 褐	0.46	0.55	0.54	0.65	0.80	0.15	0.20	0.34	
60	完 形	焼き物	黒 褐	0.51	0.53	0.50	0.54	0.75	0.11	0.17	0.35	
61	完 形	焼き物	灰 褐	0.42	0.45	0.52	0.64	0.76	0.15	0.19	0.24	器面剥離する。
62	完 形	焼き物	黒 褐	0.36	0.41	0.61	0.54	0.68	0.14	0.19	0.35	
63	完 形	焼き物	黒 褐	0.49	0.55	0.62	0.60	0.76	0.15	0.15	0.35	
64	完 形	焼き物	灰 褐	0.41	0.50	0.56	0.62	0.74	0.14	0.18	0.32	器面剥離する。

番号	残存状態	材質	色調	計 測 値								重量	備 考
				a ₁	a ₂	b ₁	b ₂	c	d ₁	d ₂			
65	完形	焼き物	灰褐色	0.40	0.43	0.57	0.58	0.77	0.18	0.16	0.24	器面剥離する。	
66	完形	焼き物	黒褐色	0.42	0.46	0.49	0.60	0.85	0.12	0.13	0.32	器面剥離する。	
67	完形	焼き物	灰褐色	0.35	0.40	0.71	0.65	0.82	0.22	0.26	0.29	器面剥離する。	
68	完形	焼き物	黒褐色	0.45	0.39	0.54	0.60	0.72	0.18	0.20	0.21	器面剥離する。	
69	完形	焼き物	黒褐色	0.50	0.51	0.35	0.42	0.59	0.16	0.19	0.17	器面剥離する。	
70	完形	焼き物	黒褐色	0.45	0.39	0.40	0.51	0.69	0.19	0.20	0.22	器面剥離する。	
71	完形	焼き物	灰褐色	0.43	0.40	0.45	0.52	0.70	0.45	0.51	0.20	器面剥離する。	
72	完形	焼き物	灰褐色	0.41	0.45	0.44	0.43	0.60	0.15	0.12	0.15	器面剥離する。	
73	完形	焼き物	黒褐色	0.34	0.31	0.45	0.50	0.64	0.10	0.11	0.14		
74	完形	焼き物	黒褐色	0.46	0.39	0.33	0.42	0.57	0.12	0.11	0.14		
75	完形	焼き物	黒褐色	0.56	0.60	0.36	0.41	0.71	0.16	0.18	0.27		
76	完形	焼き物	黒褐色	0.30	0.45	0.45	0.71	0.70	0.21	0.20	0.38		
77	ほぼ完形	焼き物	黒褐色	0.46	(0.51)	(0.45)	0.56	0.82	0.20	0.19	0.36		
78	完形	焼き物	黒褐色	0.43	0.50	0.46	0.57	0.79	0.21	0.24	0.33		
79	完形	焼き物	黒褐色	0.45	0.53	0.56	0.54	0.84	0.25	0.25	0.41		
80	完形	焼き物	黒褐色	0.32	0.45	0.55	0.56	0.80	0.26	0.25	0.37		
81	完形	焼き物	黒褐色	0.51	0.48	0.60	0.54	0.87	0.25	0.21	0.34		

土 器

(単位: cm)

番号	器形	大きさ	出土状態	①胎土 ②焼成 ③色調 ④残存	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
82	須恵器 蓋杯の 蓋	口径 13.0 高 3.4	埋没土中	①長石・黒雲母・ 軽石・砂粒② 還元	天井部と口縁部とをわける 突出部の縁はほとんど尖わ れ、7mmの凹縁がめぐる。	外面 口縁部、ロクロ成形の横縁。 天井部は蓋削り。 内面 横縁。	③浅黄褐色④弱 軟質須恵器。
83	須恵器 蓋杯の 杯身	口径 12.1 高 3.2	前庭覆土 墳丘覆土	①石英・軽石粗 粒少量②還元③ 浅黄褐色④	たちあがりは僅かに内傾 し、受部は外上方にのびる。 底部は扁平で蓋削りは弱、鈍 下。	外面 ロクロ成形による横縁。底部 の寛削りは逆時計まわり。 内面 ロクロ成形の横縁。	軟質須恵器
84	須恵器 蓋杯の 杯身	口径 10.3	前庭覆土	①軽石・石英粗 粒②還元③灰 ④	小形化した杯身。口辺部は かえりをもち。	外面 ロクロ成形による横縁。底部 は、蓋削り。 内面 ロクロ成形による横縁。	かえり 8.5
85	須恵器 高 杯	脚張 4.2	墳丘覆土	①軽石・砂粒粗 粒少量②還元、硬 質③粗灰	脚部は円筒部が細長く、2 段長方形選しの間は凹部が 2本めぐる。杯部底込み。	外面 ロクロ成形による横縁。 内面 ロクロ成形による横縁。	④脚柱上半
86	須恵器 高 杯	底 (11.7) 脚張 (3.6)	前庭A地点	①軽石粗粒②還 元、硬質③灰白 ④脚部	脚部は円筒部が細長く、裾 部は外方へ大きく広がる。 選しは長方形に2段穿つ。	外面 ロクロ成形による横縁。足状 工具によって凹部呈す。 内面 ロクロ成形による横縁。	
87	須恵器 風	口径 (11.9)	前庭D地点 墳丘覆土	①軽石粗粒含む ②還元③灰④口 縁部	口縁部は外反し、口唇部は、 つまみ出して先端は平らで 1乗凹部がめぐる。	外面 ロクロ成形による横縁。 内面 頸部上方に凹部がめぐる。	①及び②は86に近 似する。器形は89 に近似。
88	須恵器 小型壺	口径 4.3 脚 7.8	前庭 墳丘覆土	①軽石・石英粗 粒含む②還元③ 灰褐色④	口径は別最大部のを呈す。 口縁部は上半で大きく外反 し口唇部の頸内は薄くなる。	ロクロ成形による横縁。 外面 胴下半部は横方向の蓋削り。 内面 凹縁を伴う横縁。	頸部3.0 ③断面はよい横

今井神社古墳群

番号	器形	大きさ	出土状態	①粘土色調 ②焼成 ③残存	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
88	須恵器 甕	胴 10.1 底 4.4 高 (15.6)	前庭 前庭B地点 前庭覆土	①紅石・軽石・ 砂粗粒②還元③灰 ④①首部欠損	頸部の括れ部は、器高の1/2 にあたる。口縁部は大きく 外反した先端が外縁を呈す。	外面 ロクロ成形の横柄。頸部と胴 部に凹部各2条めぐる。胴部に凹孔 を穿つ。胴下半部は横方向寛削り。	頸部3.0 凹孔1.2
90	須恵器 平瓶	口 6.7 底 8.6 高 12.2	前庭 前庭A地点 墳丘覆土	①軽石混入②還元 ③硬質④焼成 ⑤①	漏斗状の口縁部は、丸みの ある天井部の1/2に接合。底 部は平底。	ロクロ成形による横柄。外面 口縁 中央及び肩高部に2条の凹縁がめぐ る。胴下部は、横方向の寛削り。	肩 4.5 肩 15.0 口縁・肩部自然焼
91	須恵器 平瓶	口 8.8 底 7.9 高 13.5	前庭 A・D地点 前庭覆土	①軽石・砂粗粒 混入②還元③灰 ④①ほぼ完形	漏斗状の口縁は天井部の中 央から僅か横に接合。最大 径は胴部中位にあたる。	円形粘土板で天井部を覆う成形は90 と同様。比喩2条がめぐる位置も同 様。胴下部は、横方向の寛削り。	肩 4.5 肩 16.5 肩 17.1
92	須恵器 短頸壺	胴 4.9 胴 14.2	前庭覆土 墳丘覆土	①精選良好②還元 ③硬質④灰褐 ⑤①	張りのある胴部から直立ぎ みの口縁部は、上半で外反 し薄い。底部は丸底。	ロクロ成形。外面 横柄。胴中央〜底 部にかけて手持ち寛削り。 内面 横柄。底部は寛調整で凹凸有。	外面と内面底部に ターールの細かな黒 点付き。
93	須恵器 直口甕	胴 (8.0) 肩 14.3	前庭 A・D地点 墳丘覆土	①軽石・砂粗粒 混入②還元③灰 ④①	92とはほぼ同様の器形を呈す が、底部平底ぎみ。	ロクロ成形。外面 横柄。胴下部は 横方向の手持ち寛削り。底部平底。 内面 回転を伴う横柄。	
94	須恵器 小変型	口 16.4 胴 18.7	前庭	①軽石・黒色鉱 物混入②還元③ 灰白④①	口縁部は短く外反する。口 唇部はつまみ出す。肩部の 張りには胴上部にある。	口縁部は横柄。 外面 胴部横柄の後、平行叩き目文。 内面 胴部横柄の後、平行叩き目文。	肩 12.0 ③断面はにぶい横
95	須恵器 中型壺	(7.2)	埋没土中	①軽石・長石粗 粒混入②還元	粘土紐の巻き上げ。幅4.0 cm、厚さ1.0cm。	外面 平行叩き目文の後、クシ状工具 で平行沈線文。内面 同心円叩き目文。	③断面状、断面赤 褐④胴部破片
96	須恵器 中型壺	(6.9)	埋没土中	①軽石・砂粗粒 混入②還元硬質	粘土紐の巻き上げ。厚さ1. 2cm。	外面 回転を伴う横柄。 内面 同心円叩き目文を施す。	③断面部状、断面 にぶい赤褐④破片
97	須恵器 中型壺	(4.2)	墳丘覆土	①軽石粗粒混入 ②還元③暗青灰	粘土紐の巻き上げ。厚さ0. 8cm。	外面 平行叩き目文。 内面 同心円叩き目文。	④胴部破片
98	須恵器 中型壺	(3.6)	埋没土中	①軽石粗粒混入 ②還元③暗青灰	粘土紐の巻き上げ。幅3.8 cm、厚さ1.1cm。	外面 平行叩き目文。 内面 同心円叩き目文。	④胴部破片
99	須恵器 中型壺	(5.1)	埋没土中	①軽石・長石粗 粒混入②還元	粘土紐の巻き上げ。幅3.5 cm、厚さ0.9cm。	外面 平行叩き目文。 内面 同心円叩き目文。	③灰④胴下部破片

埴輪

(単位: cm)

番号	形態	残存部	大きさ	透孔(a×b)	突起(c×d)	明毛目	色調	胎土	横成	粘土帯幅	備考
100	C a	片	—・15.6×81.2	(4.5×4.3)・—	15×18×2.4×8	12	橙	D	G.F	3.0	完形復元。前庭F・C・G地点、 前庭。
101①	C a	胴部	—・(18.0)×(28.0)	—・—	—・(2.5×8.8)	11	橙	D	G.F	3.5	胴部に復元実測。前庭F地点より 出土。
	②	右腕	タテ(27.0)・手首1.8	—・—	—・—	11	橙	D	G.F	3.5	腕は嵌込み式。親指欠損。手のひら に幅2cm程のものを持った凹あり。
102	C a	右腕	タテ(16.0)・手首1.9	—・—	—・—	—	橙	D	G.F	—	親指欠損。手のひらに幅2cm程の 凹あり。前庭G地点出土。
103	C a	右腕	タテ(14.0)・手首1.8	—・—	—・—	—	橙	D	G.F	—	腕は肩に嵌込み式。前庭F地点より 出土。
104	C a	右腕	タテ(3.0)・手首1.5	—・—	—・—	—	橙	D	G.F	—	

2号墳出土遺物

番号	形態	残存部	大 き き		透孔(a×b)		突起(c×d)		刷毛目	色	胎土	備 考	粘 土 層 順	備 考
			口径・直径・器高	第1・第2	第1・第2	円筒部・その他								
105	C a	耳飾り	5.4×4.4・厚0.8	—	—	—	—	—	12	橙	D G.f	—	—	表面は指頭庄、裏面は刷毛目を残存。前庭E地点出土。
106	C a	弓	タテ(13.2)・太2.0	—	—	—	—	—	—	橙	D G.f	—	—	100の人物埴輪の弓と同様。裏面は付着痕あり。弓下半部。前庭F地点。
107	C a	弓	タテ(13.0)・太1.6	—	—	—	—	—	—	橙	D G.f	—	—	弓上半部。裏面に取り付け部あり。F地点。
108	C a	数	22.5×6.7・厚1.0	—	—	—	—	—	14	橙	D G.f	3.8	—	矢柄は線刻で表現。體は欠損する。玉を帯に飾る。
109D	C a	数	(4.5×4.8)・厚1.4	—	—	—	—	—	16	橙	D G.f	3.0	—	筒胴部に線刻柄。接合部は刷毛目痕あり。前庭F地点出土。
②	C a	数	(6.1×3.0)・厚1.0	—	—	—	—	—	16	橙	D G.f	3.0	—	筒胴部に線刻柄。真接合面に刷毛目痕。
③	C a	数	(3.1×2.7)・厚1.1	—	—	—	—	—	16	橙	D G.f	3.0	—	筒下部の帯部分。
110	C a	数	7.9×6.1・厚0.9	—	—	—	—	—	13	橙	D G.f	—	—	筒右部分。表面に刷毛目。懸紐は粘土紐の貼付と線刻。前庭H地点出土。
111	C a	縹破片	(8.3×8.3)・厚1.2	—	—	—	—	—	14	橙	D G.f	—	—	表面は刷毛目の後、線刻。裏面は刷毛目。
112	C—	—	(8.2×7.8)・厚1.3	—	—	—	—	—	13	橙	D G.f	—	—	表・裏は全体に刷毛目痕。裏面に剝離部分あり。
113	C a	縹破片	(10.1×5.0)・厚1.6	—	—	—	—	—	14	明赤褐	D G.f	—	—	表面は刷毛目の後、線刻。裏面は刷毛目。
114D	C a	右側體	(6.8×6.4)・厚1.3	—	—	—	—	—	12	橙	D G.f	—	—	表面は刷毛目の後に線刻。裏面は刷毛目。
④	#	左側體	(5.2×5.3)・厚1.4	—	—	—	—	—	12	橙	D G.f	—	—	表裏面共に、刷毛目の後、線刻文様。
⑤	#	筒胴部	(8.3×3.2)・厚1.4	—	—	—	—	—	12	橙	D G.f	—	—	表裏面共に刷毛目痕を残し、接合部も刷毛目痕あり。
⑥	#	右側體	(6.4×4.8)・厚1.5	—	—	—	—	—	12	橙	D G.f	—	—	表面は刷毛目の後に線刻。裏面は刷毛目。
⑦	#	縹破片	(5.2×3.6)・厚1.2	—	—	—	—	—	12	橙	D G.f	—	—	表面は刷毛目の後に線刻。裏面は刷毛目。
⑧	#	右側體	(4.6×6.0)・厚1.2	—	—	—	—	—	12	橙	D G.f	—	—	—
⑨	#	筒胴部	(4.4×4.8)・厚1.4	—	—	—	—	—	—	橙	D G.f	—	—	—
115	C a	首飾り	2.0×1.9・厚0.8	—	—	—	—	—	—	橙	E G.f	—	—	100・101と同様の人物の首飾り。前庭F地点。
116	C a	首飾り	1.6×1.6・厚0.8	—	—	—	—	—	—	橙	E G.f	—	—	115と近似する。裏面は貼付面。前庭F地点。
117	C a	数	1.4×2.5・厚0.7	—	—	—	—	—	—	橙	E G.f	—	—	2つのボタン状の飾りが付着している。前庭F地点。
118	C a	数	3.3×(2.9)・厚0.6	—	—	—	—	—	—	橙	E G.f	—	—	ベルト部分の端に2個のボタンを接合して貼付。前庭E地点より出土。
119	C a	数	(2.8×2.5)・厚0.6	—	—	—	—	—	—	橙	E G.f	—	—	ベルト部分の端に119より大きいボタン状飾りを1個貼付。
120	C a	弓	(5.2)×2.5・厚1.8	—	—	—	—	—	—	橙	D G.f	—	—	表面は中央は凹部。裏面は刺部の貼付面。附。前庭F地点(120～133)。
121	C a	弓	(2.5)×0.7・厚0.5	—	—	—	—	—	—	橙	E G.f	—	—	—

今井神社古墳群

番号	形態	残存部	大 き さ		透孔(a×b)		突起(c×d)		刷毛目	色	胎土	焼成	粘土帯幅	備考
			口径・底径・器高	第1・第2	円筒部・その他									
122	C a	取	(2.3×1.3)・厚0.5	—	—	—	—	—	椀	D	G.f	—		
123	C a	取	(2.0)×1.4・厚0.6	—	—	—	—	—	椀	D	G.f	—		盤紐。線刻。
124	C a	取	(3.5)×1.4・厚0.5	—	—	—	—	—	椀	D	G.f	—		盤紐。線刻。裏面の貼付面に刷毛目痕あり。
125	C a	取	(2.7×1.7)・厚0.6	—	—	—	—	—	椀	D	G.f	—		盤紐。線刻。
126	C a	取	(2.3×2.4)・厚0.5	—	—	—	—	—	椀	D	G.f	—		盤紐。線刻。粘土帯幅1.4。
127	C a	弓	(4.6)×0.8・厚0.7	—	—	—	—	—	椀	E	G.f	—		弦近くの弦。
128	C a	取	(5.0)×1.2・厚0.7	—	—	—	—	—	椀	D	G.f	—		盤紐。
129	C a	取	(5.8)×1.3・厚0.7	—	—	—	—	—	12	椀	D	G.f	—	盤紐。裏の貼付面に刷毛目痕あり。
130	C a	取	(2.8)×1.3・厚0.9	—	—	—	—	—	椀	D	G.f	—		
131	C a	取	(2.6)×1.2・厚0.7	—	—	—	—	—	椀	E	G.f	—		
132	C a	取	(2.0)×1.5・厚0.5	—	—	—	—	—	椀	D	G.f	—		盤紐。裏の貼付面に刷毛目痕か にあり。
133	C a	取	(2.4)×1.2・厚0.4	—	—	—	—	—	14	椀	D	G.f	—	盤紐。裏の貼付面に刷毛目痕あり。
134	C a	取	(4.9)×2.2・厚1.1	—	—	—	—	—	14	椀	D	G.f	—	房飾り。裏の貼付面に刷毛目痕あり。
135	C a	取	(3.7)×1.8・厚0.5	—	—	—	—	—	14	椀	E	G.f	—	房飾り。裏の貼付面に刷毛目痕あり。 前足。
136	C a	耳飾り	4.5×1.3・厚1.2	—	—	—	—	—	椀	E	G.f	—		前庭F地点。
137	C a	取	(3.2)×1.2・厚0.9	—	—	—	—	—	椀	E	G.f	—		盤紐。前庭F地点。裏貼付面に刷毛目痕。
138	C a	取	(2.7)×0.9・厚0.4	—	—	—	—	—	椀	D	G.f	—		裏の貼付面に刷毛目痕僅かにあり。 前庭下地点(128～141)。
139	C a	取	(2.5)×1.3・厚0.7	—	—	—	—	—	椀	D	G.f	—		裏の貼付面に刷毛目痕僅かにあり。
140	C a	取	(5.1)×1.3・厚0.5	—	—	—	—	—	12	椀	E	G.f	—	盤紐。裏の貼付面に刷毛目痕あり。
141	C a	取	(4.6)×1.5・厚0.6	—	—	—	—	—	11	椀	D	G.f	—	裏の貼付面に刷毛目痕あり。
142	C a	上衣裾	(3.9×4.3)・厚1.0	—	—	—	—	—	14	椀	D	G.f	2.0	上衣の裾下段。裏面は刷毛目の後、線刻。表面は貼付痕。前庭E地点出土。
143	C a	上衣裾	(2.9×9.4)・厚1.0	—	—	—	—	—	椀	D	G.f	2.5		飾り裾。表面は線刻。裏面は貼付痕。前庭G地点出土。
144	C a	上衣裾	(3.1×9.5)・厚0.8	—	—	—	—	—	椀	D	G.f	2.5		飾り裾。表面は線刻と刺突。裏面は貼付痕あり。
145①	C a	胴部	(4.1×3.0)・厚1.2	—	—	—	—	—	12	椀	D	G.f	5.0	帯に刺突文を線刻。表面に貼付痕あり。
②	C a	#	(5.6×5.7)・厚1.0	—	—	—	—	—	12	椀	D	G.f	5.0	表面は縦方向の刷毛目の後、帯の刺突した面あり。
③	C a	膝部	(6.0×7.4)・厚1.0	—	—	—	—	—	12	椀	D	G.f	5.0	表面は縦方向の刷毛目の後、線刻。
④	C a	胴部	(5.5×2.9)・厚0.9	—	—	—	—	—	12	椀	D	G.f	5.0	帯は刷毛目の後、線刻で刺突文。帯の横に刺突面あり。
⑤	C a	#	(5.8×4.3)・厚0.9	—	—	—	—	—	12	椀	D	G.f	5.0	帯は刷毛目の後、線刻で刺突文。帯の横に刺突面あり。
⑥	C a	#	(6.7×6.5)・厚1.0	—	—	—	—	—	12	椀	D	G.f	5.0	帯が縦方向に貼付。表面全体に縦方向の刷毛目痕。
146	C b	裏部	(8.9×8.1)・厚1.1	—	—	—	—	—	17	褐灰	D	H.g	—	造元さみ。裏径3.3cm。表面は刷毛目。裏面は刷毛目の後、線刻。
147①	C-1	—	2.2×2.6・1.7×6.8	—	—	—	—	—	椀	D	G.f	—		

番号	形態	残存部	大 き き		透孔(a×b)		突起(c×d)		刷毛目	色	胎	土	成	粘土層番号	備 考
			口径・底径・器高	厚	第1・第2	円筒部・その他									
148	C b	大 椀	7.4×5.9	・厚1.5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	切妻形と大椀に縦溝模様を線刻。椀の前後に割離面あり。
149	C b	壺魚木	2.3×2.9	・1.3×(4.5)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	壺魚木を前後で別々に棟にとりつける。前庭F地点。
150	C —	—	6.6×3.0	・厚1.0	—	—	—	—	12	—	—	—	—	—	裏面の割離面に刷毛目痕あり。前庭F地点出土。
151	C d	鈴	4.8×4.6	・厚1.5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	内面は指で凹をつける。前庭E出土。
152	C d	鈴	3.8×3.8	・厚0.9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	内面は指で凹をつける。前庭E地点より出土。
153	C d	鼻	(4.3×4.4)	・厚1.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	鼻孔の径1.2。
154	C e	片 壺穴部	21.6	→ 現高 (57.3)	—	—	2.9×1.1	3.8×1.9 4.8×1.8	16	—	—	—	—	2.3	上部には、杯部底となる円形粘土板が嵌込みになる。径12.0 厚0.9
155	C e	上半部	(20.0)	→	—	—	—	2.1×1.2 3.8×1.5	17	—	—	—	—	2.5	器面上復元実測、153と同様の器形呈す。厚0.8。
156	C e	左轄部	(5.8×16.8)	・厚1.5	—	—	—	—	12	—	—	—	—	—	表面は刷毛目の後2本1単位で同心円模様を線刻。割面右は割部への貼付面あり。
157	C —	基底部	→16.4	・(22.6)	—	—	—	—	12	明赤地	—	—	—	2.2	145と粘土・焼成が類似する。前庭G地点。
158	C —	基底部	→17.3	・(22.3)	—	—	—	—	12	—	—	—	—	4.0	156と粘土・焼成が類似する。前庭出土。
159	C —	基底部	→16.6	・(25.9)	—	—	—	—	14	—	—	—	—	4.0	前庭E地点出土。
160	C e	喉 部	→25.3	・2.3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.2	表面は刷毛目痕が僅かに残る。頸部先端はつまみ出し。前庭G地点出土。
161	C e	喉 部	→33.6	・1.9	—	—	—	—	14	—	—	—	—	2.2	粘土帯2段接合して、胴部に立ちあがる。前庭G地点。
162	A	片	(21.8)・12.8	・(4.0)	→4.3×3.8	—	1.8×8.5	7.6×8.7	15	—	—	—	—	3.2	口径0.6 器面上復元、口縁部にヘラ記号。底厚1.0 透孔2段。前庭より出土。
163	A	ほぼ完形	(25.0)・13.4	・43.1	→(4.8×4.5)	—	1.7×8.3	2.1×8.6	11	—	—	—	—	2.1	口径1.0 透孔○ 口縁部内面にヘラ記号。底厚1.7
164	A	ほぼ完形	23.7・13.0	・44.2	4.0×1.6(1.8×1.8)	1段1.8×0.5 2~4段1.8×8.3	—	—	13	—	—	—	—	2.8	口径0.6 透孔○ 口縁部外面にヘラ記号。底厚1.3 基底部外面は厚み調整。墳丘。
165	A	ほぼ完形	(20.8)・13.4	・(48.5)	→(1.6×2.0)	1段2.3×0.5 2段1.5×0.5	—	—	14	—	—	—	—	2.2	口径0.7 口縁部外面にヘラ記号。墳丘。底厚1.1
166	A	基底部	→(12.0)	・(7.8)	—	—	—	—	13	鈍い橙	—	—	—	3.0	底厚1.5 基底部は厚みを調整。前庭より出土。
167	A	基底部	→12.3	・(7.4)	—	—	—	—	14	鈍い橙	—	—	—	2.2	底厚1.2 外面は篋でおさえ、内面は横方向の篋削りで器内の調整を行う。G地点。
168	A	基底部	→13.2	・(7.8)	—	—	—	—	13	—	—	—	—	2.4	底厚1.6 墳丘1地点より出土。
169	A	基底部	→12.6	・(4.9)	—	—	—	—	—	淡 橙	—	—	—	2.3	底厚2.1 基底部は外面を厚調整。
170	A	基底部	→13.6	・(7.8)	—	—	—	—	9	—	—	—	—	3.6	底厚1.9
171	A	基底部	→13.3	・(12.0)	—	—	—	—	14	—	—	—	—	4.8	底厚1.1 外面は篋で押さえ、内面は篋削り。部分的に薄い粘土板の刺繍がある。
171	A	口縁へ上半部	21.4	→(18.5)	→(4.7×4.0)	(1段) 2.3×0.7 (2段) 1.7×0.5	—	—	12	—	—	—	—	3.2	口径0.8 透孔○。刷毛目単位1.5。前庭G地点より出土。

今井神社古墳群

番号	形態	残存部	大 き さ		透孔(a×b)		突帯(c×d)		刷毛目	色	胎土	焼成	粘土層幅	備 考
			口径・底径・器高	高さ	第1・第2	間隔部・その他	間隔部・その他	間隔部・その他						
172	A	口縁部	23.7→(9.8)	→(4.8×4.2)	(1段) 2.1×0.9	12	橙	D	G.f	3.0	口厚0.8	透孔○。		
173	A	口縁部	24.0→(9.4)	→	(1段) 1.7×0.6	9	橙	D	G.f	4.0	口厚0.7	前庭G地点出土。		
174	A	基底～ 下半部	→14.5→(29.5)	5.0×5.0→	1段 1.9×0.6 2段 2.6×0.5	9	橙	D	G.f	4.0	底厚1.8	前庭G地点出土。		
175	A	基底～ 下半部	→13.8→(26.0)	4.9×4.2→	1段 2.3×0.7 2段 2.3×0.8	9	橙	D	G.f	4.0	底厚1.7	墳丘より出土。		
176	A	胴部	胴突帯(16.4)・(7.4)	(3.4×3.1)	(1段) 1.8×0.6	14	浅黄橙	D	G.f	2.0	胴厚0.9	透孔○。		
177	A	胴部	胴突帯(17.4)・(6.5)	(4.8×4.4)	(1段) 2.4×0.6	14	浅黄橙	D	G.f	2.0	胴厚1.0			
178	A	胴部	胴部(29.2)・(6.6)	→	→	14	浅黄橙	D	G.f	2.0	胴厚1.2	外面縦方向刷毛目の後、横方向刷毛目整形。同一形態刷毛使用破片4個。		
179	A	胴部	胴部(24.8)・(7.6)	→	→	13	橙	D	G.f	3.0	胴厚1.3	178と同様の形態。今井神社古墳表採資料と同様。		
180	A	(※底)	胴部(23.2)・(6.0)	→	→	12	橙	D	G.f	1.8	底厚2.7	178・179と同様。内面に粘土組接合痕が明確に残る。		
181	A	胴部	胴突帯(7.2)・(7.2)	→	(1段) 2.7×1.3	10	浅黄橙	D	G.f	2.0	胴厚1.6	縦刷毛目。		
182	A	胴部	胴突帯(5.2)・(7.2)	→	(1段) 2.5×0.8	13	浅黄橙	E	G.g	1.6	胴厚0.9	外面縦方向刷毛目の後、横方向刷毛目整形。178・180と同様。		
183	A	基底部	→(24.8)→	→	→	9	黄 灰	D	H.f	3.0	底厚2.1			
184	B	口縁～ 上半部	29.0→(34.9)	(4.0×3.8)	2.0×1.2・2.3×1.1	14	橙	D	G.f	3.2	口厚0.8	刷毛目の幅1.4cm・沈線8本。胴厚1.2		
185	B	口縁部	29.2→(12.0)	→	→・2.0×1.2	14	橙	D	G.g	2.0	口厚0.7	胴厚1.3		
186	B	口縁部	29.7→・5.8	→	→	14	橙	D	G.f	2.0	口厚0.7	前庭より出土。		
187	B	口縁部	(28.8)→(6.8)	→	→	8	橙	D	G.f	—	口厚(6.7)	内面に「ニ」状のヘラ記号。前庭出土。		
188	B	口縁部	28.0→(5.0)	→	→	13	橙	D	G.f	2.2	口厚0.9			
189	B	口縁部	(25.8)→(6.2)	→	→	14	橙	D	G.f	2.2	口0.6	内面に「ニ」状のヘラ記号。		
190	B	胴部	胴突帯15.6・(17.1)	(4.2×3.7)	2.1×1.2→	13	橙	D	G.f	1.5	胴厚1.3	透孔は内面墳輪より僅かに小さい。透孔○。		
191	B	胴部	胴突帯11.8・(14.1)	(3.5×3.2)	2.4×0.7→	10	橙	D	G.f	1.5	胴厚1.2	透孔○。		
192	B	胴部	胴突帯(12.0)・(12.1)	→	2.2×0.9→	10	橙	D	G.f	1.5	胴厚1.0			
193	B	胴部	胴突帯(14.0)・(6.6)	(4.3×3.2)	2.6×1.1→	13	橙	D	G.f	1.5	胴厚1.1	透孔○。		
194	B	胴部	口縁部突帯(36.0)	→	→・2.8×1.2	7	浅黄橙	D	G.f	2.0	口厚1.5	突帯の接合面は横線、断面色調は、明褐灰。		

土 器

(単位: cm)

番号	器 種	大 き さ	出土状態	①粘土 ②焼成 ③色調 ④残存	器 形 の 特 徴	成 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
195	土師器 杯	口径(11.8) 底(11.7) 高(5.6)	前庭C・F 地点	①砂粒較僅かに 含む②酸化③橙 ④少	外縁の広がり口辺の杯。立ち上がりは器高の1/2にあたり。口辺部は二段構成。	口辺部は内外面共に、横線。 外面 底部は手持ち瓦張り。 内面 底部は横線。	底部外面は黒灰。
196	土師器 杯	口径(11.4) 底(9.7) 高(4.8)	前庭C地点	①長石粗粒少量、軽石粗粒少量②酸化③黄	外縁の広がり口辺の杯。口辺部内面は2ヶ所に横線を呈す。器内は口唇部が薄い。	口辺部は内外面共に、横線。 外面・内面 器面が磨滅している。	③橙④少 水蒸し粘土。

番号	器種 種類	大きさ	出土状態	①胎土 ②色調 ③焼成 ④残存	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
197	土師器 杯	口 (12.5) 底 (10.3) 高 (4.0)	前庭C・E 地点 前庭	①砂細粒極かに 含む②酸化軟質 ③焼④〃	外縁の広がり口辺の杯。口 辺外部の中央はややふくら み、口唇部で外反する。	口辺部は内外面共に、横撫。 外面・内面 器面が磨滅している。	水漬し粘土。
198	土師器 杯	口 12.4 底 9.7 高 (3.8)	前庭B・C 地点	①砂粗粒。水漬し 粘土②酸化軟質 ③焼	外縁の広がり口辺の杯。器 内は底部中央が薄い。口唇 部で僅かに内反する。	口辺部は横撫。 外面・内面 器面が磨滅している。	④〃割 口唇部の一部に煤 付着。
199	土師器 杯	口 (12.2) 底 (10.0) 高 (4.5)	前庭B地点 墳丘覆土	①砂・軽石細粒 少量②酸化軟質 、水漬し粘土	外縁の広がり口辺の杯。口 唇部で僅かに内高する。	口辺部は横撫。 外面・内面 器面が磨滅している。	③浅黄褐色④〃 内面はいぶし状で 炭素を吸着。
200	土師器 杯	口 12.3 底 9.8 高 4.0	前庭B地点	①砂細粒。水漬し 粘土②酸化軟質 ③焼	外縁の広がり口辺の杯。口 唇部で僅かに内高。歪みが 著しい。	口辺部は横撫。 外面 底部は寛削りと思われるが単 位方向不明瞭。内面 不明瞭。	④〃 外面の〃に煤付 着。
201	土師器 杯	口 (11.2) 底 (10.8) 高 3.9	前庭B地点 墳丘覆土	①砂細粒少量。 水漬し粘土②酸 化軟質	外縁の広がり口辺の杯。口 唇部で内高する。器内は薄 い。	口辺部、内外面共に横撫。 外面 底部は寛削りと思われるが単 位方向不明瞭。内面 不明瞭。	③焼④〃割
202	土師器 杯	口 (11.0) 底 (8.8) 高 (3.5)	前庭	①良好、水漬し 粘土②酸化軟質 ③焼	外縁の広がり口辺の杯。器 形は201と同様を呈す。	成・整形は、201と同様。	④〃 外面の一部黒 斑。
203	土師器 杯	口 (14.0) 底 (14.6) 高 (3.7)	前庭覆土	①黒雲母粗粒、 砂細粒②酸化③ 焼④〃	内傾した立上がり口辺の杯。 口唇部内側に比喩が一糸め ぐる。器内は底部が7mm。	口辺部は内外面共に横撫。 外面 底部は手持り寛削り。 内面 指触。	内面はいぶし状の 黒色付着。外面に も一部付着。
204	土師器 高杯	口 17.6	前庭	①軽石・石英粗 粒、黒雲母粗粒	底部に横をもち広がる杯部。 口唇部は内高きみで、深い。	粘土を巻きあげ成形。杯部口辺の内 外面は、横撫の後放射状寛研磨。	②酸化③焼④杯部 1.5の粘土。粗。
205	土師器 高杯	口 15.2	墳丘覆土	①軽石・石英・ 黒雲母・砂細粒	口辺下部はふくらみを呈 し、口唇部は内高する杯部。	外面・内面 共に横撫の後、放射状 寛研磨。	②酸化③浅黄褐色④ 杯部〃内面黒斑。
206	土師器 高杯	口 17.2	墳丘覆土	①赤色粘土・石 英・黒雲母粗粒	杯部外面の横は弱く口辺部 は外反、口唇部で僅かに内高。	外面・内面 共に横撫の後、放射状 寛研磨。	②酸化③焼④〃
207	土師器 高杯	口 16.2	墳丘覆土	①黒雲母・軽石 細粒②酸化	杯部外面の横は弱く口辺下 部はふくらみを呈し外反。	外面 横撫の後、寛削り調整。 内面 横撫。	③によい貴種④〃 外面煤付着。
208	土師器 高杯	杯底 13.6	墳丘覆土	①軽石・砂細粒 ②酸化③焼④〃	外縁の広がり口辺の杯、横 はその後狭方向に寛削り。	杯部粘土を巻きあげ成形。 外・内面 全体に放射状寛研磨。	水漬し粘土。ホゾ で底込式。
209	土師器 高杯	杯底 (9.0)	墳丘覆土	①軽石・赤色粘 土・石英粗粒	口辺部は外反し、ゆるい横 を呈す。	外面 横撫。口辺放射状寛研磨。 内面 横撫。全体放射状寛研磨。	②酸化③焼④〃 ホゾ底込式。
210	土師器 高杯	脚張 4.6	周堀覆土	①軽石・黒雲母 砂細粒②酸化	円錐台の脚部の中央に、1.4 cmの3個所の円孔を穿つ。	外面 縦方向寛削りの後後研磨。 内面 縦方向指触。	③浅黄褐色④杯底部 ～脚部上半
211	土師器 高杯	脚張 4.8	墳丘覆土	①軽石・黒雲母 砂細粒②酸化	円錐台状で裾部は「く」の字 状に外折。杯縁合部は厚い。	外面 横撫の後、寛削り。 内面 指による無調整。	③によい焼④〃
212	土師器 高杯	脚張 3.8	墳丘覆土	①軽石・黒雲母 石英粗粒②酸化	211と近似するが頸部は細 く、器内は僅かに薄い。	外面 縦方向寛削り、横撫、寛研磨。 内面 縦方向指触の後、横方向寛削り。	③焼④〃 杯部、内外面横撫。
213	土師器 高杯	脚張 4.2 底 (14.8)	墳丘 周堀埋土	①石英・黒雲母・ 砂・軽石粗粒② 酸化③浅黄褐色	円錐台状で裾部は大きく外 折。杯脚接合部は内面凸状 に築でえぐる6年杯底部は厚。	脚部、粘土を巻きあげ。 外面 横撫の後縦方向の寛削り。 内面 上部絞りと、縦指触、寛調整。	④脚部〃、縦欠損。 裾部は横撫。

今井神社古墳群

番号	器形	大きさ	出土状態	①粘土 ②酸化 ③焼成 ④残存	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
214	土師器 高杯	脚径 3.0 底 12.9	墳丘	①軽石・黒雲母 細粒②酸化③に ぶい黄褐色④脚部	212と近似する。器部は外 折。器内は脚柱上部は厚く、 下半部は薄い。	脚柱下半部は粘土紐の巻きあげ。 外面 撫調整の後、縦方向削り。 内面 上部絞痕、巻きあげの後指痕。	粘土紐幅1.3 粘土紐厚0.7 内面縦方向へ指痕。
215	土師器 高杯	脚径 3.7	墳丘覆土	①軽石・黒雲母・ 石英・砂細粒	212と近似する。杯接合部は 杯底部が3mmと薄い。	外面 縦方向調整。下部に刷毛目。 内面 上部絞痕、下半部横削痕。	②酸化・軟質③浅 黄褐色④脚柱部のみ。
216	土師器 高杯	脚径 3.1	墳丘覆土	①軽石細粒②酸化 ③にぶい黄	212と近似する。器部は外 折。器内は薄い。	外面 縦方向調整。 内面 絞り痕、横削、見調整。	断面内面、炭素吸 着し黒褐色④へ
217	土師器 高杯	脚径 3.3	周壕埋土	①軽石・砂細粒 ②酸化③焼成④へ	円形台状の脚部上半は器内 が厚く、下半は薄い。	外面 縦方向削りの後炭研磨。 内面 絞り痕の指痕、下半部横削痕。	210～217は211を 除きホゾ縦式。
218	土師器 罎	口 8.0 胴 (5.5)	墳丘覆土	①軽石・黒雲母 石英粗粒②酸化	口縁部は「く」の字状に外反。 口径と胴部径大径は等しい。	外面 横方向指痕の後、胴下部削り。 内面 横方向指痕。	③にぶい黄、黒褐 ④へ 器内は薄い。
219	土師器 罎	胴 (8.6)	墳丘覆土	①黒雲母細粒② 酸化③浅黄褐色	胴部がまるく、口縁部は外 反する。器内はやや厚め。	外面 指痕、見調整。頸部に刷毛目。 内面 絞り痕。指痕。	④胴上半へ 口縁部は横削痕。
220	土師器 罎	胴 (10.0)	墳丘覆土	①黒雲母・軽石・ 赤色粘土細粒	胴部は張りかゆるやかで高 い。	外面 1度削りの後、縦方向炭研磨。 内面 横方向の巻きあげ。	②酸化③焼成④へ 粘土紐の巻きあげ。
221	土師器 罎	口 (10.3)	墳丘覆土	①石英粗粒、黒 雲母・軽石細粒	口縁部は、弱く内湾しながら 外反。	外面 横削の後、ノ方向炭研磨。 内面 横削。	②酸化③焼成④へ へ
222	土師器 罎	口 (8.6)	墳丘覆土	①黒雲母細粒、 石英粗粒②酸化	口縁部は「く」の字状に外 反。器部は振る。	口縁部、内外面に横削。	③にぶい黄④へ
223	土師器 台付罎	口 13.3 胴 11.3	埋没土中	①彩帯粒②酸化 ③焼成④口縁へ 肩部へ	大きく張った肩部をもつ。 口縁部は、大きく外反する 「S」字状を呈す。	口縁部は内外面に横削。 外面 肩部は寛削り。 内面 指痕圧痕、指痕。	肩部に黒底。
224	土師器 台付罎	台部 5.7	埋没土中	①軽石・赤色粘 土・砂粒②酸化	張りの大きな胴部から小さ な底部で外折する。	外面 指痕、見調整。 内面 へ、指痕、見調整。	③焼成④へ
225	土師器 台付罎	台部 2.5	周壕埋土	①軽石・砂細粒 ②酸化③黒濁	頸部接合部から台部へ外 折する。	外面 1度削り。 内面 縦方向調整。	④台上半部 内外部煤炭着黒色。
226	土師器 台付罎	台部 4.2	墳丘覆土	① 軽石・黒雲 母・砂粗粒②酸 化	張りの大きな胴部から小さ い底部につづく。	外面 削り、炭研磨。 内面 削り後の後、底部炭研磨。	③焼成④底部
227	土師器 台付罎	台底 (8.3)	埋没土中	①石英粗、黒雲 母・砂細粒少量	器部は折り返しがある。	外面 横方向指痕。 内面 上部見調整、下半部横指痕。	②酸化③にぶい黄 ④へ
228	土師器 台付罎	台底(10.4)	埋没土中	①軽石・砂細粒 ②酸化③焼成④へ	器部は比較的大きい折り返 しを呈す。	外面 指痕、見調整。 内面 指痕。	
229	土師器 罎	口 (20.0) 胴 16.2	前庭	①軽石・砂細粒 ②酸化③にぶい 黄褐色④へ	大きく張りをもつ肩部よ り、口縁部は外反する。器 内はほぼ一定。	口縁部は内外面横削、内面一刷毛目。 外面 頸部へ、刷毛目、肩部へ削り。 内面 指痕圧痕、一見調整。	
230	土師器 罎	口 (18.4) 胴 (15.3) 脚 (23.6)	墳丘	①軽石・黒雲母・ 砂細粒②酸化③ にぶい黄褐色④へ	構成は229に近似する。口縁 部はゆるく外反する。器内 は胴部に厚みを呈する。	口縁部は内外面横削。 外面 削り後の後、1度刷毛目。 内面 指痕、見調整、刷毛目調整。	胴部粘土紐は器厚 0.9・幅1.5が内面 に残る。
231	土師器 罎	口 (17.4) 胴 (13.6)	埋没土中	①軽石・黒雲母・ 石英・砂細粒② 酸化③焼成④へ	頸部から「く」の字状に外 反。口唇部で更に反る。	外面 横削。 内面 へ刷毛目の後、横削。	口縁部外面、煤付 着。

番号	器種	大きさ	出土状態	①粘土 ②焼成 ③色調 ④残存	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
232	土師器 壺	口 17.6 頸 14.2	墳丘覆土	①軽石・黒雲母・ 砂細粒少量②酸化 ③洗黄緑④少	口縁部は直立ぎみに立ちあがり先端で外反。	口縁部は内外面共に横撫。 外面 寛削りの後、煎焼。 内面 指頭圧痕頸部にあり。寛撫。	胴部粘土紐は器厚 0.6・幅2.2が内面に 残る。
233	土師器 壺	口 (18.6) 頸 (13.6)	埋没土中	①石英顆粒少量 ②酸化③洗黄緑 ④口縁～肩少	口縁部は「く」の字状に大きく外反、口唇部は折り返す。	口縁部は内外面共に横撫、指頭圧痕。 外面 寛削りの後、煎焼。 内面 指頭圧の後、煎焼。	胴部粘土紐は器厚 0.8・幅1.6。
234	土師器 壺	口 15.4 頸 9.1	前庭B地点	①石英・軽石・ 砂細粒②酸化③ 洗黄緑④少	「く」の字に外反する口縁部で、口唇部はつまみ出しによって平坦。	口縁部は内外面共に横撫。	
235	土師器 壺	頸 7.8 底 6.4 高 (16.1)	墳丘覆土	①黒雲母・軽石 細粒少量②酸化 ③焼④少	口縁部は「く」の字状に内湾ぎみに反る。器内は口縁部は薄く、底部は厚みを呈す。	外面 口縁部指撫、胴部へ、寛削り。 内面 口縁部へ、寛削り。胴上部指頭 圧痕、胴下部窪撫。	胴部の粘土紐は器 厚0.7・幅1.4を呈 す。
236	土師器 壺	頸頸(13.0)	埋没土中	①砂細粒少量② 酸化③少	長い口縁部は、外反し先端で更に反る。器内は口縁厚。	口縁部は内外面横撫。 外面 へ、寛削り。 内面 絞り痕、撫。	焼成は良好。
237	土師器 ミニチュ ア瓶	口 4.2 頸 5.8 高 7.5	前庭	①軽石・黒雲母 細粒少量②酸化 ③洗黄緑④完形	須置器の提瓶と類似する器形。口縁部は大きく外反し先端は丸い。天井部は平坦。	胴部は天井部に円形粘土板を覆い、 側面に穴を穿ち、口縁部を接合。口 縁部は横撫。胴部外面は指撫。	天井部にあたる部分 に黒灰あり。内 面は指頭圧痕。
238	土師器 鉢	口 (13.2) 底 5.0 高 7.1	墳丘 墳丘覆土	①軽石・石英 粗粒少量②酸化 ③赤褐色④少	口辺部は内湾しながら大きく外へ折れる。口唇部は内湾ぎみ。内面は濡り鉢状。	外面 口辺上半は粘土紐巻きあげ成 形、指撫。下半部鈍撫。 内面 口辺下半へ底部、へ、副毛目。	内面口辺部へ指撫、 底部鈍撫。粘土紐 器厚0.7・幅0.8。
239	土師器 杯	口 9.3 底 5.5 高 2.1	墳丘覆土	①軽石・砂細粒 少量②酸化③黒 褐④ほぼ完形	ロクロ成形による平底の杯。口唇部は丸みを呈し器内が厚い。	口辺へ底部 ロクロ成形による横 撫。 外面 底部へ回転糸切り、未調整。	灯明皿。内外面、 及び断面は炭素吸 着で黒色。
240	土師器 杯	口 12.4 底 7.3 高 2.6	墳丘覆土	①砂細粒少量② 酸化③洗黄緑④ ほぼ完形	ロクロ成形による平底の杯。口辺部は外反し、更に反る口唇部の先端部は丸い。	ロクロ成形による横撫。 外面 底部へ回転糸切り、未調整。	器厚0.5
241	土師器	3.5×3.7 厚 0.8	墳丘覆土	①砂粗粒少量② 酸化③完形	円形粘土板状。	手づくね。指撫、撫おさえ。	
242	土師器	(3.4)×3.6 厚 0.7	周廻覆土	①軽石細粒少量 ②酸化③少	241と同様。	手づくね。指撫、撫おさえ。	いぶし状態で、断面、表面黒褐色。

1号住居址出土遺物 (第118図、P L 46)

土 器

(単位: cm)

番号	器種	大きさ	出土状態	①粘土 ②焼成 ③色調 ④残存	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
1	土師器 壺	口 9.4 頸 12.3 高 12.9	床面直上	①軽石細粒多い ②酸化③洗黄緑 ④完形	口縁部は頸部から外反、口唇部で僅かに内折。胴部最大径は器高の中央にあたる。	粘土紐巻きあげ。口縁部は横撫。 外面 1-1 寛削り。 内面 へ、指撫、一窪撫。	器厚0.4 内外面、いぶし状 態で黒褐色。

今井神社古墳群

2号住居址出土遺物 (第120図)

土 器

(単位: cm)

番号	器 種 類	大 き き	出土状態	①胎土 ②施色 ③残存	器 形 の 特 徴	成 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
1	土師器 高 杯	□ (20.0)	床面直上	①軽石・長石磯 粗細粒②酸化	口辺部は大きく外反、稜部 はゆるい。器内は薄い。	外面 横撫、↑莪削り。稜部-莪削。 内面 横撫、莪撫。	③明赤褐④杯口辺 部ノ
2	土師器 高 杯	□ (18.3)	埋没土中	①軽石・黒雲 母・石英粗細粒	ゆるい稜で外反する口縁部 を呈す。	外面 へ刷毛目、横方向指撫。 内面 横方向指撫、莪撫。	②酸化やや軟質③ 橙④ノ 口唇黒底。
3	土師器 高 杯	脚頭 (3.4)	床面直上	①軽石・黒雲母・ 細粒②酸化良好	脚部は、円柱状で裾部は外 折し平坦。	外面 ↑莪撫。裾部指撫、莪研磨。 内面 絞り嵐、↑指撫。縦横指撫。	③橙④ノ器 内面 褐色。ホゾ嵌込式。
4	土師器 高 杯	脚頭 3.7	床面直上	①軽石・赤色粘 土・砂粗粒	ホゾ嵌込式。脚接合部は細 い。	外面 ノ刷毛目、↑莪撫。 内面 絞り嵐。	②酸化③明赤橙④ 脚柱上部ノ
5	土師器 壺	□ (10.2) 高 3.2 高 (12.6)	床面直上 埋没土中	①軽石・黒雲 母・粗細粒②酸 化良好③橙④ノ	口縁部は「く」の字状に外反。 脚部最大径は器高の $\frac{2}{3}$ に位 置。削り出しによる平底。	口縁部は横方向指撫。 外面 肩部莪の縁刻。底部-莪削。 内面 一莪撫。	図面上復元 内外面供養痕着。

荒砥青柳遺跡

1号住居址出土遺物 (第125-126図、P L 52)

土 器

(単位: cm)

番号	器形	大きさ	出土状態	①胎土 ②赤色 ③色調 ④残存	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
1	土師器 杯	口 12.1 底 12.0 高 3.1	+25 埋没土中	①赤色粘土粗粒、砂細粒 ②酸化③堆積④	器高は口径の $\frac{1}{2}$ 、底部は扁平。口唇部は内湾する。	外面 口辺部横撫、底部手持り寛削り整形。 内面 口辺部横撫、底部指撫。	
2	土師器 杯	口 (12.0) 底 (11.8) 高 3.3	埋没土中	①軽石・砂・黒雲母細粒②酸化③堆積④	口辺部は器高の $\frac{1}{2}$ 、ゆるい稜を呈す。底部は丸みを帯びる。	外面 口辺部横撫、底部手持り寛削り。 内面 口辺部横撫、底部指撫。	
3	土師器 杯	口 (12.7) 底 (12.5)	埋没土中	①軽石・砂細粒②酸化③浅黄緑④	口辺部はほぼ直立きみ。	外面 口辺部横撫、底部手持り寛削り。 内面 口辺部寛状工具使用の横撫。	
4	土師器 杯	口 (12.0) 底 (12.0) 高 3.3	+35	①砂細粒②酸化③浅黄緑④	器高は口径の $\frac{1}{2}$ 、口辺部は器高の $\frac{1}{2}$ にあたる。底部は扁平。	外面 口辺部は横撫。底部は増成して成・整形不可辨。 内面 口辺部寛状工具使用横撫。	内面底部は指撫。
5	土師器 杯	口 (11.6) 底 (12.6)	埋没土中	①精選良好、砂細粒少量②酸化③断面、浅黄緑	最大径は底部にある。口辺部は外面に稜を呈して内湾きみに立ちあがる。	外面 口辺部横撫、底部手持り寛削り。 内面 口辺部横撫、底部指撫。	内外面共にいよし状態で炭灰状の黒褐色④
6	土師器 杯	口 (16.0) 底 (16.0) 高 4.9	+13 埋没土中	①軽石・赤色粘土・砂粗粒②酸化③明赤褐色④	器高は口径の $\frac{1}{2}$ に、口辺部は僅か内湾きみにゆるやかな立ちあがり。	外面 口辺部は横撫、底部は手持り寛削り。 内面 口辺部横撫、底部指撫。	
7	土師器 杯	口 (15.7) 底 (16.0) 高 6.1	+8	①石英・黒雲母・砂細粒②酸化③堆積④	器高は口径の $\frac{1}{2}$ 弱、口辺部は器高の $\frac{1}{2}$ を呈し、深い杯を呈す。器内はほぼ均一。	外面 口辺部は横撫、底部手持り寛削り。 内面 口辺部横撫、底部指撫。	
8	土師器 杯	口 (15.9) 底 (16.0) 高 15.7	埋没土中	①軽石・砂細粒②酸化③油い椀④	器高は口径の $\frac{1}{2}$ 弱、口辺部は器高の $\frac{1}{2}$ を呈す深い杯。器内は口唇部が薄い。	外面 口辺部横撫、底部手持り寛削り。 内面 口辺部横撫、底部指撫。	
9	土師器 杯	口 (16.4) 底 (14.0) 高 4.7	埋没土中	①軽石・砂細粒少量、水裏し粘土②酸化③堆積	器高は口径の $\frac{1}{2}$ 弱、口辺部は器高の $\frac{1}{2}$ 、口辺部は底部から外反し稜を呈す。	外面 口辺部横撫、底部手持り寛削り。 内面 口辺部横撫、底部指撫。	④
10	土師器 杯	口 (14.4) 底 (14.2)	+8	①軽石・砂・赤色粘土粗粒少量②酸化③堆積④	杯部の深い器形で大形の杯。口辺部の立ちあがり底部からほとんど変化ない。	外面 口辺部短かい横撫、底部手持り寛削り。 内面 寛状工具による横撫。	
11	土師器 台付篋	台幅 6.6	+4	①軽石・石英・砂や多い。②酸化③底～台部	胎土は22と同様。長菱の底部から台部は大きく外折する。器内は台部は厚い。	外面 胴部1/寛削り。 内面 胴部指撫、台部/寛削り。	③内面・断面浅黄緑、外面いよし状態炭灰状で黒。
12	土師器 台付篋	台幅 3.9	床面直上	①精選良好②選元ぎみ③灰白	台部は円錐形状を呈し、器内は台部が厚い。	外面 台部1/寛研磨。 内面 胴部指撫、台部指撫。	②断面菊灰④底～台部
13	土師器 甗	台径 (7.3)	埋没土中	①黒雲母・軽石粗粒②酸化③堆積	裾部は平坦で器内は薄い。	外面 裾部横撫、1/寛研磨。 内面 横撫。	④台部

瓦砥青柳遺跡

番号	器形	大きさ	出土状態	①胎土 ②色調 ③焼成 ④残存	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
14	須恵器 高 杯	杯底(14.2) 脚高 3.5	埋没土中	①軽石・石英粗粒 ②還元使費③灰 ④杯底部へ脚上半部へ	杯部口辺は底から内湾し縁を呈す。脚部は接合部は細く絞る。脚部透しは3ヶ所を切る。	クロ成形。 外面 杯底部はくし状工具による一刷毛目、一度削り。脚上部刷毛目。 内面 横溝。	
15	土師器 長 甕	口 (22.0) 胴 (16.7)	床面直上 +7	①軽石・黒雲母・砂粗粒②酸化③糖	口縁部はゆるく外反し、口唇部で僅かに内湾する。器内は胴部均一で口縁部厚い。	外面 口縁部横溝、胴上部へ寛削り。 内面 口縁部横溝、胴上部寛削。	④口縁へ割く
16	土師器 長 甕	口 (23.3) 胴 (18.2)	+10	①軽石・黒雲母・赤色粘土粗粒②酸化③糖	口縁部はゆるく外反する。器内は口縁部が厚みを呈す。歪みをもつ。	外面 口縁部横溝、胴上部へ寛削り。 内面 口縁部横溝、一寛削。	④口縁へ胴上部へ 口縁部粘土結核1.9、器厚0.8。
17	土師器 長 甕	口 (21.2) 胴 (15.5)	床面直上 カマド内	①軽石・黒雲母・赤色粘土・砂粗粒②酸化③糖	口縁部は「く」の字状に外反し、口唇部で僅かに内湾。器内は薄い。	外面 口縁部粘土結2段、接合痕あり。横溝、胴部へ寛削り。 内面 口縁部横溝、胴上部横溝。	③糖④口縁部へ
18	土師器 長 甕	口 (22.7) 胴 (16.9)	カマド内 埋没土中	①軽石・黒雲母・赤色粘土・砂粗粒②酸化	口縁部は「く」の字状に外反。器内は薄い長莖。	外面 口縁部横溝、胴部へ寛削り。 内面 口縁部横溝、胴部一寛削。	③糖④口縁へ胴中央部へ
19	土師器 長 甕	口 (20.0) 胴 (17.2)	埋没土中	①軽石・黒雲母・砂粗粒多く含む②酸化③赤褐	口縁部はゆるやかに外反し、口唇部で僅かに内湾。口唇部外面に比線1条走る。	外面 口縁部横溝、胴部へ寛削り。 内面 口縁部横溝、胴部横方向寛削。	④へ
20	土師器 長 甕	底 (6.0) 高 (5.2)	埋没土中	①黒雲母粒、砂粗粒②酸化	底部はほぼ平らで胴部は直線的に立ちあがる。	外面 胴部へ、底部手持り寛削り。 内面 寛削。	③へ ④へ ⑤へ
21	土師器 長 甕	口 18.0 胴 14.9	床面直上 埋没土中	①黒雲母粒、軽石・石英・砂粗粒多い②酸化	直線的な胴部から口縁部は外反。器内は口縁部が厚く、胴中央近くが薄い。	外面 口縁部横溝の後、1寛削り。 内面 口縁部横溝、胴部指による横溝。胴上部に黒斑。	③へ ④へ ⑤へ ⑥へ ⑦へ ⑧へ ⑨へ ⑩へ ⑪へ ⑫へ ⑬へ ⑭へ ⑮へ ⑯へ ⑰へ ⑱へ ⑲へ ⑳へ ㉑へ ㉒へ ㉓へ ㉔へ ㉕へ ㉖へ ㉗へ ㉘へ ㉙へ ㉚へ ㉛へ ㉜へ ㉝へ ㉞へ ㉟へ ㊱へ ㊲へ ㊳へ ㊴へ ㊵へ ㊶へ ㊷へ ㊸へ ㊹へ ㊺へ ㊻へ ㊼へ ㊽へ ㊾へ ㊿へ
22	土師器 長 甕	口 (24.0) 胴 (18.0)	埋没土中	①黒雲母粒、軽石・石英・砂粗粒多い②酸化	胴部からなだらかに続いて外反する口縁部は、口唇部で大きく外折。器内は厚い。	外面 口縁部横溝、胴上部へ寛削り。 内面 口縁部横溝、胴部指。いぶし状の黒色付着。	③へ ④へ ⑤へ ⑥へ ⑦へ ⑧へ ⑨へ ⑩へ ⑪へ ⑫へ ⑬へ ⑭へ ⑮へ ⑯へ ⑰へ ⑱へ ⑲へ ⑳へ ㉑へ ㉒へ ㉓へ ㉔へ ㉕へ ㉖へ ㉗へ ㉘へ ㉙へ ㉚へ ㉛へ ㉜へ ㉝へ ㉞へ ㉟へ ㊱へ ㊲へ ㊳へ ㊴へ ㊵へ ㊶へ ㊷へ ㊸へ ㊹へ ㊺へ ㊻へ ㊼へ ㊽へ ㊾へ ㊿へ
23	須恵器 中央甕	厚 0.8	埋没土中	①軽石粗粒②酸化③焼灰④破片	胴部のふくらむ甕の破片。	外面 平行叩き目。 内面 同心円当て目。	

2号住居址出土遺物 (第128図、P L52)

土 器		(単位: cm)						
番号	器形	大きさ	出土状態	①胎土 ②色調 ③焼成 ④残存	器形の特徴	成・整形の特徴	備考	
1	土師器 杯	口 (14.5)	埋没土中	①軽石・砂粗粒②酸化	扁平な底部から立ちあがる。口辺部は口唇部で僅かに内湾。	外面 口辺部横溝、底部手持り寛削り。 内面 口辺部横溝、底部指。	③へ ④へ ⑤へ ⑥へ ⑦へ ⑧へ ⑨へ ⑩へ ⑪へ ⑫へ ⑬へ ⑭へ ⑮へ ⑯へ ⑰へ ⑱へ ⑲へ ⑳へ ㉑へ ㉒へ ㉓へ ㉔へ ㉕へ ㉖へ ㉗へ ㉘へ ㉙へ ㉚へ ㉛へ ㉜へ ㉝へ ㉞へ ㉟へ ㊱へ ㊲へ ㊳へ ㊴へ ㊵へ ㊶へ ㊷へ ㊸へ ㊹へ ㊺へ ㊻へ ㊼へ ㊽へ ㊾へ ㊿へ	
2	土師器 杯	口 (14.2) 高 (4.3)	埋没土中	①黒雲母粒、軽石粗粒②酸化	扁平な底部、口辺部は内湾。ぎざり直立。口辺は器高の1/2。	外面 口辺部横溝、底部手持り寛削り。 内面 口辺部横溝、底部指頭圧痕。	③へ ④へ ⑤へ ⑥へ ⑦へ ⑧へ ⑨へ ⑩へ ⑪へ ⑫へ ⑬へ ⑭へ ⑮へ ⑯へ ⑰へ ⑱へ ⑲へ ⑳へ ㉑へ ㉒へ ㉓へ ㉔へ ㉕へ ㉖へ ㉗へ ㉘へ ㉙へ ㉚へ ㉛へ ㉜へ ㉝へ ㉞へ ㉟へ ㊱へ ㊲へ ㊳へ ㊴へ ㊵へ ㊶へ ㊷へ ㊸へ ㊹へ ㊺へ ㊻へ ㊼へ ㊽へ ㊾へ ㊿へ	
3	土師器 杯	口 12.0 高 3.4	床面直上 埋没土中	①黒雲母粗粒②酸化③へ ④へ	器形は2と同様。底部は削りにより扁平を呈す。	外面 口辺部横溝、底部手持り寛削り。 内面 横溝、指頭圧痕、指痕。	④へ 外面1部黒斑。	
4	土師器 杯	口 16.0 高 4.2	埋没土中	①黒雲母粗粒②酸化③へ ④へ	口辺部は器高の1/2にあたる。歪みをもつ杯。	外面 口辺部横溝、底部手持り寛削り。 内面 横溝、指頭圧痕、指痕。	器内は底部周囲が厚い。	

番号	器形	大きさ	出土状態	①粘土 ②焼成 ③色調 ④残存	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
5	土師器 杯	口 (21.3) 高 (4.0)	床面直上	①黒雲母・軽石・ 砂粒少量 ②酸化	扁平な底部から口辺部は短 かく立ちあがり外反。	外面 口辺部横線、底部手持ち寛削り。 内面 横線、指頭圧痕。	③橙④△
6	土師器 杯	口 (18.9)	床面直上 埋没土中	①軽石・長石・ 砂粒少量 ②酸化	削り出しによる扁平な底部 から、口辺部は器高の1/2	外面 口辺部は横線、底部は寛削り。 内面 横線。	②酸化③橙④△
7	土師器 杯	口 (19.4)	埋没土中	①軽石・黒雲母・ 砂粒少量 ②酸化	扁平な丸底から口辺部は 大きく外反し、口唇で内湾。	外面 口辺部横線、底部手持ち寛削り。 内面 横線。	③橙④口辺～底部 両面△
8	須恵器 杯	口 (14.2) 高 (3.3)	埋没土中	①黒色鉱物・軽 石②還元。硬質	平底から口辺部は外反して 立ちあがり、口唇部で内湾。	口唇部成形による横線。	③灰④口辺部△
9	須恵器 蓋	口 (18.0)	カマド内	①黒色鉱物粗粒 ②還元、硬質	かえりのある器高の低い蓋。 かえりの先端は丸みをも つ。	口唇部成形による横線。かえりはつ まみ出し。	③灰、天井部自然 焼④△
10	須恵器 蓋	口 (13.4)	床面直上	①黒色鉱物・軽 石粗粒②還元	やや小形で天井部は丸い。 かえりの先端は鋭い。	口唇部成形による横線。かえりはつ まみ出し。	③灰④△
11	土師器 甕	胴 (18.4) 底 (6.5)	埋没土中	①砂・軽石、 赤色粘土粗粒② 酸化③浅黄褐色	胴部最大径は中位にあり、 球形。底部は削り出しによ りやや丸底さみ。器内湾い。	外面 胴部1/3削り、底部手持ち寛削り。 内面 横方向横線。	④黄～底部△ 外面胴部に黒斑。
12	土師器 長・壺	口 (21.0)	埋没土中	①軽石・黒雲母・ 砂粒少量 ②酸化	なだらかな胴上部からゆる く外反。口唇部は外に横有。	外面 口唇部指頭圧の後横線、胴部 一貫削り。内面 口唇部横線、横直線。	③によい橙④△
13	土師器 甕	口 (15.9)	埋没土中	①軽石・黒雲母 細粒②酸化③橙	口唇部は「く」の字状に外 反する。器内は胴部は湾い。	外面 口唇部横線、胴部一貫削り。 内面 口唇部横線、胴部直線。	④口唇～胴部△横
14	土師器 長・壺	底 (6.0)	埋没土中	①軽石・黒雲母・ 砂粒少量 ②酸化	扁平な底部から胴部は鋭く 立ちあがり。	外面 胴下部一貫削り、底部手持ち 寛削り。内面 指痕。	③橙④△
15	須恵器 甕	17.7	床面直上	①軽石・石英・ 黒色鉱物粗粒	胴部は中位に最大径があ る。底部は平底さみ。	口唇部成形による横線。 外面 底部手持ち寛削り。	②還元③外面明焼 灰、断面灰褐色④△
16	須恵器 中型壺	厚 0.9	埋没土中	①軽石粗粒少量 ②還元③灰	胴上位に最大径を呈す球体 の蓋。	外面 平行叩き目。 内面 同心円当目。	④胴部中位破片

3号住居址出土遺物 (第129図、P L 52)

土 器		(単位: cm)						
番号	器形	大きさ	出土状態	①粘土 ②焼成 ③色調 ④残存	器形の特徴	成・整形の特徴	備考	
1	土師器 杯	口 (11.0)	埋没土中	①黒雲母・軽石 粗粒少量 ②酸化	扁平な底部から口辺部 は内湾さみに立ちあがる。	外面 口辺部横線、底部手持ち寛削り。 内面 横線。	③橙④△	
2	土師器 杯	口 (13.8) 高 (2.5)	埋没土中	①黒雲母・軽石 少量 ②酸化③橙	削り調整による扁平な 底部で口辺部は器高の1/2	外面 口辺部横線、底部手持ち寛削り。 内面 横線。	④△	
3	須恵器 杯	口 (14.6) 高 3.5	+ 3	①軽石粗粒②還 元、やや軟質	平らな底部、口辺部は内湾 さみに立ちあがる。	口唇部成形による横線。底部は③回 転糸切り。	③灰④△	
4	須恵器 杯	底 6.7	埋没土中	①長石・白色 鉱物粗粒②還元	平底。口唇部の残る広が り口辺の杯。	口唇部成形による横線。底部③回転 糸切り。	③灰④口辺下 ～底部△	
5	須恵器 中型壺	厚 0.7	埋没土中	①白色・黒色 鉱物粗粒②還元	口唇部は横を呈す。	外面 横線。口唇中位に波状文2条 走る。内面 横線、自然粘付着。	③赤灰④口唇部破 片	

荒砥青柳遺跡

番号	器 種 形	大 き き	出土状態	①胎土 ②色調 ③焼成 ④残存	器 形 の 特 徴	成 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
6	土師器 長 壺	口 20.0 底 17.4	床面直上 +9	①黒雲母微、軽石・砂細粒	胴部最大径は肩部にあり、口縁部はゆるく外反し短い。	外面 口縁部横撫、胴部へへ、寛削り。 内面 横撫、指頭圧痕、荒撫。	②酸化③焼④%
7	土師器 長 壺	底 (5.1)	床面直上	①黒雲母・砂細粒 ②酸化③横黄	削り調整による平底。胴部は外方に鋭く立ちあがる。	外面 胴部へ、底部手持り寛削り。 内面 荒撫。	④% 外面胴下部横付着。

4号住居址出土遺物 (第130図、P L 52)

土器・鉄製品

(単位: cm)

番号	器 種 形	大 き き	出土状態	①胎土 ②色調 ③焼成 ④残存	器 形 の 特 徴	成 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
1	土師器 杯	口 (12.4) 底 (10.4) 高 (3.5)	床面直上 埋没土中	①黒雲母・軽石 細粒②酸化③焼 ④%	削り調整による扁平な底部。口辺部は内湾ぎみに外反。器内は薄く均一。	外面 口辺部横撫、底部手持り寛削り。 内面 口辺部横撫、底部周囲指頭圧。	
2	須恵器 碗	底 (6.9) 高台 7.0	床面直上	①金雲母微、砂・軽石粗、赤色粘土顆粒②還元	付高台の碗。輪底部は平底。	ロクロ成形による横撫。外面底部は○回転未切り、未調整。	②軟質③灰白、底部灰④口辺上部欠損
3	須恵器 碗	口 (14.2)	埋没土中	①軽石・砂細粒 ②還元、軟質	ロクロ目の残る外広がりの碗。	ロクロ成形による横撫。	③灰白④口辺部%
4	土師器 甕	口 (21.2) 頸 (19.1)	床面直上 埋没土中	①黒雲母微、砂・軽石粗②酸化 ③灰緑④口縁%	「コ」の字状口縁部を呈する長甕。口唇部は僅かに内湾。	外面 横撫。 内面 横撫。	
5	土師器 壺	口 (20.2) 頸 (17.3)	埋没土中	①黒雲母・軽石・砂細粒②酸化③ よび焼④%	「コ」の字状口縁の長甕。口縁部のカーブは4に比べてゆるやか。	外面 口縁部横撫、胴上部へ寛削り。 内面 口縁部横撫、胴上部横方向荒撫。	
6	土師器 長 壺	底 (8.0)	埋没土中	①黒雲母微、軽石・砂細粒	平らな底部から鋭く立ちあがる胴部。器内は薄い。	外面 胴下部へ寛削り、底部手持り寛削り。 内面 荒撫。	②酸化③焼④%
7	鉄製品 金 具	身幅 0.8 全長 6.2	埋没土中	④完形	長さ2.8cmの釘状部分を有するL字状金具である。断面の形状は、隅丸形状を呈する。		

8号土壇出土遺物 (第132図)

土 器

(単位: cm)

番号	器 種 形	大 き き	出土状態	①胎土 ②色調 ③焼成 ④残存	器 形 の 特 徴	成 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
1	土師器 杯	口 (12.2)	埋没土中	①黒雲母微粒② 酸化③焼④%	口辺部は器高の%にあたる。底部は扁平ぎみ。	外面 口辺部横撫、底部手持り寛削り。 内面 横撫。	
2	土師器 長 壺	底 (8.0)	埋没土中	①金・黒雲母微、軽石細粒②酸化	平底。長甕の直線な広がり。	外面 胴部へ寛削り、底部寛削り。 内面 荒撫。	③焼④%

9号土坑出土遺物(第132図)

土 器

(単位: cm)

番号	器 種 器 形	大 き さ	出土状態	①胎土 ③色調	②焼成 ④残存	器 形 の 特 徴	成 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
1	土師器 杯	口 (10.6)	埋没土中	①金・黒雲母緑、 軽石・砂細粒		口辺部は器形の1/2にあたる。 底部はやや扁平。	外面 口辺部横撫、底部手持り寛削り。 内面 寛による横撫。	②酸化③焼黄緑 ④口辺部は凹凸
2	土師器 杯	口 (13.0)	埋没土中	①金雲母緑、砂 粗粒少量②酸化		口辺部は器高の1/2弱で短り。 底部はやや扁平さみ。	外面 口辺部横撫、底部手持り寛削り。 内面 指撫、横撫。	③焼④少
3	土師器 杯	口 (16.4)	埋没土中	①金・黒雲母緑、 砂細粒②酸化		口辺部は器高の1/2弱で、扁 平さみな丸底から外反する。	外面 口辺部横撫、底部寛削り。 内面 横撫、寛撫。	③焼④少
4	須恵器 埴	口 (10.0)	埋没土中	①軽石・石英粗粒 少量②還元		頸部から「く」の字状に外 反する口縁、口唇部で内湾。	外面 口縁部横撫、頸部くし状工具 による横方向縦目。内面 横撫。	③灰④少

3号井戸出土遺物(第135図、P L 52)

土 器

(単位: cm)

番号	器 種 器 形	大 き さ	出土状態	①胎土 ③色調	②焼成 ④残存	器 形 の 特 徴	成 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
1	須恵器 中型埴	口 25.4 頸 19.0	埋没土中 2住埋土	①軽石細粒少量 ②還元、硬質③ 灰④口縁→肩部		大きく雲った肩部から、口 縁部は大きく外反し口唇部 はつまみ出しで外面に横有。	口縁部、回転作りの横撫。 外面 平行叩き目。 内面 同心円目。	口縁部内面、肩部 外面に自然輪付着。

1号溝出土遺物(第136図、P L 52)

土 器

(単位: cm)

番号	器 種 器 形	大 き さ	出土状態	①胎土 ③色調	②焼成 ④残存	器 形 の 特 徴	成 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
1	土師器 杯	口 (11.0) 底 (10.4)	埋没土中	①金・黒雲母緑、 軽石細粒少量② 酸化③焼④少		口辺部は器高の1/2弱、扁平 さみな丸底から立ちあがる。 る。	外面 口辺部横撫、底部一寛削り。 内面 口辺→底部横撫。	外面底部黒斑。
2	土師器 台付罎	台頸 (5.0) 底 (7.8)	埋没土中	①黒雲母・軽石 粗、石英粗粒② 酸化③洗黄緑		胴部は圓く絞る。台部は 比較的短かく、裾部は大き く広がる。	外面 台部へ指撫。 内面 台部寛撫。	④台部1/2
3	土師器 罎	底 (10.0)	埋没土中	①黒雲母緑、砂 粗粒②還元さみ		底は平ら。胴部はふくらみ をもち立ちあがる広口罎。	外面 胴下部一寛削り、底部寛削り。 内面 寛撫。	③灰白、断面灰④ 底部1/2

2号溝出土遺物(第138図、P L 52)

土 器

(単位: cm)

番号	器 種 器 形	大 き さ	出土状態	①胎土 ③色調	②焼成 ④残存	器 形 の 特 徴	成 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
1	土師器 杯	口 (11.8)	埋没土中	①黒雲母緑、軽 石細粒少量		口辺部は器高の約1/2にあたる り、直立さみに立ちあがる。	外面 口辺部横撫、底部寛削り。 内面 横撫。	②酸化③洗黄緑 ④口辺部は凹凸
2	土師器 杯	口 (14.0) 底 (13.5)	埋没土中	①黒雲母・軽石 砂細粒②酸化 ③洗い焼④少		口辺部は器高の1/2にあたる。 扁平さみな底部から口辺部 は内湾さみに立ちあがる。	外面 口辺部横撫、底部手持り寛削り によりゆるい絞を呈す。 内面 横撫。	
3	須恵器 台付杯	口 (20.2) 高台 (15.3)	埋没土中	①精選良好②還 元、やや軟質③ 灰白④少		平らな底部から短かく口辺 部が内湾さみに立ちあがる。 付け高台の底は平ら。	口縁部成形による横撫。 外面底部無調整。	

荒砥青柳遺跡

番号	器形	大きさ	出土状態	①胎土 ②色調 ③残存	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
4	須恵器 台付壺	高台(10.8)	埋没土中	①精選良好②還元、軟質③灰白	高台部内面は沈線1条通らせた2段構成。	ワクロ成形による横撫。	④胴下部～高台1/2
5	須恵器 中型壺	厚 1.0	埋没土中	①白色黏物微～粗粒②還元硬質	胴部は中位からやや上方が大きく張る球体の壺。	外面 横方向平行切目。 内面 横方向撫調整。	③灰、断面灰褐④胴中央部破片
6	陶器 擂鉢	底 (14.4)	埋没土中	①白・黒色黏物細～粗粒②還元③灰④1/2	平底。大きく広がり立ちあがる。	外面 体下部横撫の後、一くし状工具による刷毛目。底部1/2回転糸切り。 内面 摺り面で磨減。	
7	陶器 擂鉢	口 (30.8) 底 9.0 高 11.4	+28	①白色黏物・石英・砂細～粗粒②還元③灰④1/2	平底。体部は大きく広がる。口唇部は平らで外に絞をもち、一ヶ所片口状を呈す。	外面 体部1/2横撫、口唇部横撫。 内面 横方向の磨撫。使用による磨面が器高の1/2にある。	③によい縄④1/2

付図1 荒砥北原遺跡発掘区域全体図

